京都市内遺跡立会調査報告

平成20年度

2009年3月

京　都　市　文　化　市　民　局

ご あ い さ つ

昨年は，源氏物語千年紀という記念すべき年を迎え，京都をはじめ，日本各地で記念の催しが開かれました。物語は都を舞台として繰り広げられていますが，この都こそ，桓武天皇によって，延暦１３年（７９４）に建都された平安京であり，現在の京都の原点といえるものです。京都は，その後政治，宗教，経済，文化の中心として，数多くの文化財を現在に伝えています。地中に眠る埋蔵文化財も，先人が残した貴重な足跡であり，遷都以前からの歴史を今に伝える国民共有の財産であります。これらの文化財を適切に後世に伝えるのは我々の責務であり，「保存」と「開発」の調和を図りながら，埋蔵文化財の保存と保護，更にはその活用に取り組んでおります。

この度，平成２０年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査成果をまとめた報告書を作成致しました。この報告書が，京都の歴史と文化財への理解を深めるために，広く御活用いただければ望外の喜びであります。

結びに，各調査の実施に当たって，御理解，御協力を賜りました市民の皆様と，御指導を賜りました関係機関の皆様に深く御礼申し上げます。

平成２１年３月

文化市民局長　　山　岸　吉　和

例　言

1　本書は、京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施した文化庁国庫補助事業による平成20年度の京都市内遺跡立会調査報告である。

2　本書の編集は卜田健司、吉本健吾が調整・作成・実務を担当した。

3　各報告については文末に執筆者を記した。

4　本書に使用した写真の撮影は、遺物は村井伸也・幸明綾子が担当し、遺構は現場担当者が行った。

5　本書で使用した土壌名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。

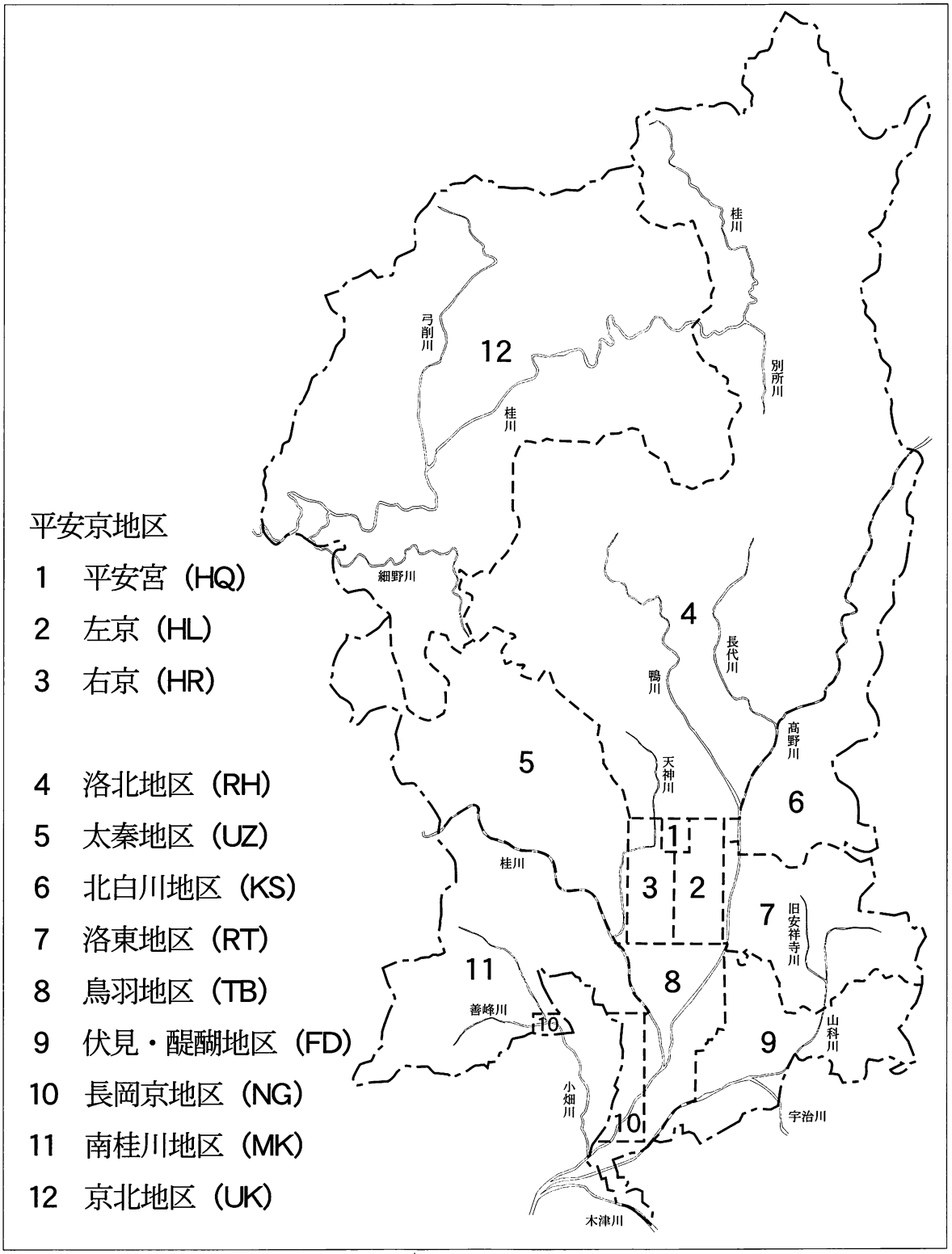
6　個々の調査地での計測値は、宅地の場合は仮の「水準点」をBM±０mとし、道路の場合には現行道路面を地表面（±０m）としている。本書中で使用した方位及び座標の数値は、世界測地系　平面直角座標系Ⅵによる。また、標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。

7　調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・平安京跡については重複する遺跡は省略し、官衙・条坊を優先して明記し、官衙・条坊が複数にまたがるものは代表するものを掲載した。長岡京跡については、官衙・条坊を優先し、複数にまたがるものは代表するものを掲載した。

9　本書で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺１／2,500）を調整し、作成したものである。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版１～13　１／8,000　　図版14～26　１／10,000

地区設定概念図


平安京地区
1　平安宮（HQ）
2　左京（HL）
3　右京（HR）
4　洛北地区（RH）
5　太秦地区（UZ）
6　北白川地区（KS）
7　洛東地区（RT）
8　鳥羽地区（TB）
9　伏見・醍醐地区（FD）
10　長岡京地区（NG）
11　南桂川地区（MK）
12　京北地区（UK）
桂川
弓削川
別所川
細野川
鴨川
長代川
高野川
天神川
旧安祥寺川
山科川
善峰川
小畑川
宇治川
木津川

本　文　目　次

Ⅰ　調査概要 …… 1

Ⅱ　平安京跡 …… 3

1　平安京左京一条四坊二町・公家町遺跡（07HL401） …… 3

2　平安京左京一条四坊十町・公家町遺跡（07HL301） …… 7

3　平安京左京八条三坊一町（08HL164） …… 9

4　平安京右京北辺二坊七町（08HR122） …… 13

5　平安京右京三条一坊十六町（07HR407） …… 17

6　平安京右京八条二坊十六町（08HR263） …… 19

Ⅲ　その他の遺跡 …… 21

1　長岡京左京二条四坊七町（08NG65・150） …… 21

2　長岡京左京八条四坊三町（07NG87） …… 24

3　上久世遺跡（08MK276） …… 27

Ⅳ　主要な出土遺物 …… 33

1　平安京左京三条三坊八町の出土遺物（08HL173） …… 33

2　平安京右京九条一坊四町の出土遺物（08HR69） …… 35

調査一覧表 …… 36

報告書抄録 …… 54

図　版　目　次

図版１～26　調査位置図

図版１　平安宮

図版２　平安京左京北辺～三条　一・二坊

図版３　平安京左京北辺～三条　三・四坊

図版４　平安京左京　四～六条　一・二坊

図版５　平安京左京　四～六条　三・四坊

図版６　平安京左京　七～九条　一・二坊

図版７　平安京左京　七～九条　三・四坊

図版８　平安京右京北辺～三条　三・四坊

図版９　平安京右京北辺～三条　一・二坊

図版10　平安京右京　四～六条　三・四坊

図版11　平安京右京　四～六条　一・二坊

図版12　平安京右京　七～九条　三・四坊

図版13　平安京右京　七～九条　一・二坊

図版14　伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）・板橋廃寺・御香宮廃寺

図版15　１　伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）　２　がんぜんどう廃寺　３　太閤堤

図版16　仁和寺院家跡・草木町遺跡・太秦馬塚町遺跡・常盤柏ノ木古墳群・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群・上ノ段町遺跡・広隆寺旧境内・一ノ井遺跡・和泉式部町遺跡・多藪町遺跡・門田町遺跡・長福寺境内

図版17　田中構え跡・上終町遺跡・北白川廃寺・吉田上大路町遺跡・吉田二本松町遺跡・白河街区跡・得長寿院跡・尊勝寺跡・延勝寺跡・法勝寺跡・岡崎遺跡・禅林寺境内

図版18　寺町旧域・六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡・方広寺跡・法住寺殿跡

図版19　長岡京跡・東土川遺跡・鶏冠井遺跡・芝ヶ本遺跡

図版20　１　寺町旧域・寺ノ内旧域・上京遺跡・上御霊遺跡・相国寺旧境内・室町殿跡（花の御所）・公家町遺跡・革堂跡　２　蟹ヶ坂瓦窯跡　３　角社瓦窯跡

図版21　１　植物園北遺跡　２　御土居跡・北山蓮台寺境内・寺ノ内旧域・紫野斎院跡・上京遺跡・世尊寺跡・北野鳥居前町遺跡・北野遺跡・北野廃寺

図版22　1　鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡・下鳥羽遺跡　2　長岡京跡・淀城跡
図版23　1　八幡古墳群・本山古墳群・南ノ庄田瓦窯跡　2　山科本願寺跡
3　中臣遺跡・中臣十三塚・勧修寺旧境内　4　中久世遺跡・大藪遺跡・下久世構跡・下久世城跡・長岡京跡・戌亥遺跡
図版24　1　大徳寺旧境内　2　御土居跡　3　嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡
4　嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡　5　音戸山古墳群　6　名勝龍安寺庭園　7　仁和寺院家跡　8　修学院遺跡
図版25　1　一乗寺向畑町遺跡・向畑古墳　2　御土居跡・法興院跡　3　山科本願寺南殿跡　4　唐橋遺跡　5　下三栖城跡　6　法性寺跡　7　極楽寺跡　8　深草坊町遺跡・安楽行院跡・深草寺跡
図版26　1　大宅遺跡・大宅廃寺・醍醐古墳群　2　史跡醍醐寺境内　3　史跡・名勝嵐山・嵐山谷ケ辻子町遺跡　4　松尾十三塚古墳群・松室遺跡　5　革嶋館跡　6　上久世遺跡　7　福西古墳群　8　大原野神社遺跡
図版27・28　写真
図版27　遺物　1～6　平安京左京八条三坊一町（08HL164）
7・8・10・11・13・16　平安京右京北辺二坊七町（08HR122）
図版28　遺物　24・25・27・33・36　上久世遺跡（08MK276）
43・47　平安京左京三条三坊八町（08HL173）

挿　図　目　次

07HL401

図１　No.１地点遺構位置図 …… 3
図２　No.１地点遺構平面図 …… 3
図３　石２見通し及び断面図 …… 3
図４　調査位置図 …… 4
図５　石３断面図 …… 5
図６　No.２地点遺構位置図 …… 5
図７　石列平面及び断面図 …… 5
図８　石１ …… 6
図９　石２ …… 6
図10　石列 …… 6

07HL301

図11　調査位置図 …… 7
図12　遺構位置図 …… 7
図13　遺構断面図 …… 7
図14　99HL125東西溝断面図 …… 8
図15　東西溝と枡状配水施設 …… 8
図16　東西溝 …… 8

08HL164

図17　調査位置図 …… 9
図18　遺構位置図 …… 9
図19　No.１地点平面及び断面図 …… 10
図20　No.２地点断面図 …… 11
図21　出土土器実測図 …… 11
図22　地鎮遺構 …… 12
図23　井戸 …… 12

08HR122

図24　調査位置図 …… 13
図25　遺構位置図 …… 13
図26　遺構平面図 …… 14
図27　遺構断面図 …… 14
図28　出土遺物実測図 …… 15

図29　井戸完掘状況 …… 16

07HR407

図30　調査位置図 …… 17

図31　遺構位置図 …… 17

図32　遺構断面及び柱状断面図 …… 18

図33　№1地点路面 …… 18

図34　№2地点路面及び溝状遺構 …… 18

08HR263

図35　調査位置図 …… 19

図36　遺構位置図 …… 19

図37　№1・2・3地点遺構断面及び柱状断面図 …… 20

図38　出土土器実測図 …… 20

図39　№2地点道祖大路東側溝 …… 20

08NG65・150

図40　調査位置図 …… 21

図41　№2地点東西溝 …… 21

図42　08NG150落込 …… 21

図43　本調査及び近辺調査遺構位置図 …… 22

図44　遺構断面図 …… 23

07NG87

図45　調査位置図 …… 24

図46　断面図実測地点位置図 …… 24

図47　A-A'間遺構断面図 …… 25

図48　石垣 …… 26

図49　竪穴住居址 …… 26

08MK276

図50　調査位置図 …… 27

図51　遺構位置図 …… 27

図52　南北溝断面図 …… 28

図33　南北溝と杭 …… 28

図54　湿地状堆積肩部断面図 …… 29

図55　F-F'間肩部 …… 29

図56　E-E'間肩部土器出土状況 …… 29

図57　出土遺物実測図 …… 30

08HL173

図58　調査位置図 …… 33
図59　No.1 地点位置図 …… 33
図60　No.1 地点断面 …… 33
図61　No.1 地点柱状断面図 …… 34
図62　出土遺物実測図 …… 34

08HR69

図63　調査位置図 …… 35
図64　No.1 地点位置図 …… 35
図65　出土土器実測図 …… 35
図66　No.1 地点柱状断面図 …… 35

表　目　次

表1　立会調査件数 …… 1

Ⅰ 調 査 概 要

本書は京都市文化市民局が（財）京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業に伴う平成20年度の京都市内遺跡立会調査報告書である。本報告書では平成20年１月４日から３月31日までの平成19年度分と、平成20年４月１日から12月26日までの平成20年度分を合わせて報告する。調査件数は429件であり、平成19年度分が113件、平成20年度分が316件である。京都市内を便宜的に地区分けした調査件数は、下表のとおりである（表１）。

表１　立会調査件数

地　　区	19年度1～3月	20年度4～12月	小計	地　　区	19年度1～3月	20年度4～12月	小計
平安宮（HQ）	11	44	55	洛東地区（RT）	9	14	23
平安京左京（HL）	22	72	94	鳥羽地区（TB）	2	17	19
平安京右京（HR）	14	42	56	伏見・醍醐地区（FD）	10	24	34
洛北地区（RH）	15	29	44	長岡京地区（NG）	10	8	18
太秦地区（UZ）	7	23	30	南桂川地区（MK）	7	24	31
北白川地区（KS）	6	19	25	京北地区（UK）	0	0	0
				合　　計	113	316	429

今回の特徴として、立会の総件数（429件）に占める平安京域（HQ・HL・HR）の件数（205件）が初めて半数を割ったことがあげられる。平安京域は京都市の中心部にあたり、また全域が遺跡範囲であるところから、常に平安京域の３地区で他の９地区の合計件数を上回っていた（平成11年度には、実に平安京域の件数が全体の７割以上を占める）。以下各地区の概要を述べる。

平安宮（HQ）　宮域では、今回は概要の報告を行うような成果は得られなかったが、縫殿寮（08 HQ153）と陰陽寮（08HQ163）で平安時代の包含層を検出した。

平安京左京（HL）　左京域では、一条四坊二町（07HL401）、一条四坊十町（07HL301）と八条三坊一町（08HL164）の３件の概要を報告する。また、主要な出土遺物として三条三坊八町（08HL174）で出土した遺物を報告する。他に平安時代の遺構は三条二坊二町（08HL８）、五条二坊十三町（08HL70）、五条三坊十五町（08HL229）の他２箇所で検出した。五条二坊十町（07HL372）と五条二坊十一町（08HL268）では、油小路の路面を検出している。

平安京右京（HR）　右京域では、北辺二坊七町（08HR122）、三条一坊十六町（07HR407）と八条二坊十六町（08HR263）の３件の概要を報告する。また、主要な出土遺物として九条一坊四町（08HR69）で出土した遺物を報告する。他に平安時代の遺構は北辺二坊七町（08HR115）、四条二坊九町（08HR171）と五条二坊五町（08HR34）で検出している。

洛北地区（RH）　蟹ヶ坂瓦窯跡、角社瓦窯跡、本山古墳群、八幡古墳群、南ノ庄田瓦窯跡、植物園北遺跡、大徳寺旧境内、御土居跡、北山蓮台寺境内、紫野斎院跡、北野鳥居前町遺跡、北野遺跡、北野廃寺、世尊寺跡、上京遺跡、寺ノ内旧域、相国寺旧境内、上御霊遺跡、革堂跡、室町

殿跡（花の御所）、公家町遺跡、寺町旧域の22箇所の遺跡で調査を行った。植物園北遺跡では（07RH365）で古墳時代の包含層、（07RH408）で弥生時代から古墳時代の遺構を検出した。上京遺跡（07RH359）では平安時代後期のピットと鎌倉時代の落込を検出している。

太秦地区（UZ）　史跡大覚寺御所跡、嵯峨院跡、嵯峨遺跡、嵯峨北堀町遺跡、音戸山古墳群、名勝龍安寺庭園、仁和寺院家跡、太秦馬塚町遺跡、常盤柏ノ木古墳群、草木町遺跡、常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡、一ノ井遺跡、和泉式部町遺跡、常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内、上ノ段町遺跡、多藪町遺跡、門田町遺跡、長福寺境内の20箇所の遺跡で調査を行った。史跡大覚寺御所跡（08UZ111）で平安時代前期の包含層を検出した。仁和寺院家跡（08UZ246）では平安時代後期の包含層を検出している。

北白川地区（KS）　修学院遺跡、一乗寺向畑町遺跡、向畑古墳、田中構え跡、上終町遺跡、北白川廃寺、吉田二本松町遺跡、吉田上大路町遺跡、岡崎遺跡、得長寿院跡、尊勝寺跡、延勝寺跡、法勝寺跡、白河街区跡、禅林寺境内の15箇所の遺跡で調査を行ったが、概要の報告を行うような成果は得られなかった。

洛東地区（RT）　法興院跡、御土居跡、寺町旧域、六波羅蜜寺境内、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、方広寺跡、山科本願寺跡、山科本願寺南殿跡、中臣遺跡、中臣十三塚、勧修寺旧境内、大宅廃寺、大宅遺跡の14箇所の遺跡で調査を行ったが、概要の報告を行うような成果は得られなかった。

鳥羽地区（TB）　唐橋遺跡、鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、下鳥羽遺跡、下三栖遺跡、淀城跡の６箇所の遺跡で調査を行ったが、概要報告を行うような成果は得られなかった。

伏見・醍醐地区（FD）　法性寺跡、極楽寺跡、深草坊町遺跡、安楽行院跡、深草寺跡、板橋廃寺、御香宮廃寺、伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）、太閤堤、がんぜんどう廃寺、醍醐古墳群、史跡醍醐寺境内の13箇所の遺跡で調査を行ったが、概要の報告を行うような成果は得られなかった。

長岡京地区（NG）　長岡京跡、戊亥遺跡、鶏冠井遺跡、東土川遺跡、芝ヶ本遺跡の５箇所の遺跡と、南桂川地区であるが同一工事主体で長岡京地区として扱った中久世遺跡、下久世構跡、下久世城跡、大藪遺跡の４箇所の遺跡の合計９箇所の遺跡で調査を行った。左京二条四坊七町（08NG65・150）と左京八条四坊三町（07NG87）の概要を報告する。左京六条四坊五町（08NG212）では弥生時代後期の落込を検出した。左京四条四坊五町（08NG114）では奈良時代から平安時代の南北溝を検出している。

南桂川地区（MK）　史跡・名勝嵐山、嵐山谷ケ辻子町遺跡、松尾十三塚古墳群、松室遺跡、革嶋館跡、上久世遺跡、中久世遺跡、大藪遺跡、福西古墳群、大原野神社遺跡の10箇所の遺跡で調査を行った。上久世遺跡（08MK276）では弥生時代後期から古墳時代の湿地状堆積と奈良時代の南北溝を検出したので報告する。中久世遺跡（07MK339）では弥生時代の土坑、平安時代の包含層を検出した。上久世遺跡（08MK240）では平安時代の包含層を検出した。

京北地区（UK）　今年度は調査を行わなかった。　（吉本健吾）

Ⅱ　平　安　京　跡

1　平安京左京一条四坊二町・公家町遺跡（07HL401）

調査経過（図４）

本調査は、上京区御苑３番地にある京都御苑内の雨水配水管改修工事に伴う調査である。調査地は平安京の北東部、江戸時代の公家町遺跡にあたる。

調査は、２月28日から３月28日まで行い、江戸時代後期の庭石と考えられる石群、石列、路面などを検出した。

遺　　構（図１～３・５～10）

庭石と考えられる石群を検出したNo.１地点は京都御所建礼門の南方約200m、白雲神社東方約48mに位置する。３月３日に工事業者から工事中に巨石（石１）が出土し、確認して欲しいとの連絡が入り、急ぎ現地に出向き確認調査を実施した。出土した石１は確認調査時にはすでに工事業者の手により掘り起こされており、北側数十mの所に移動していた。石１が出土した場所は、掘り起こした状態のままで開口していた。観察したところ、西側の掘削断面において江戸時代後期の面で石２を検出した。その後、石１を原位置に戻す作業時に、一部南側を掘削したところ石１の南側で、石３を検出した。

層序は、BM-0.2mまでが現代盛土層、-0.2m～-0.6mが暗褐色砂泥層、-0.6m以下-0.96mまで褐色砂泥層（江戸時代後期土師器皿出土）である。

調査で検出した石群は石２と石３があり、他に検出の契機になった工事掘削時

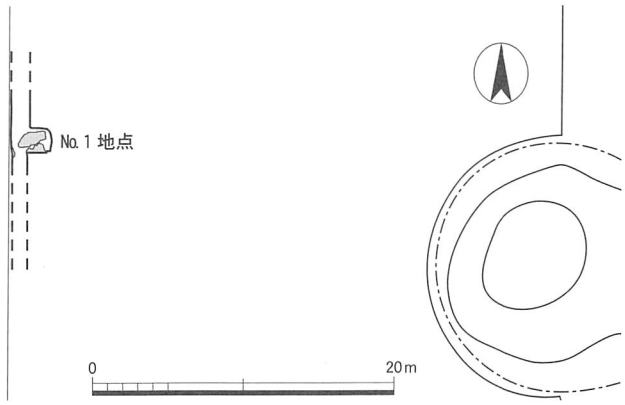


図１　No.１地点遺構位置図（１：500）

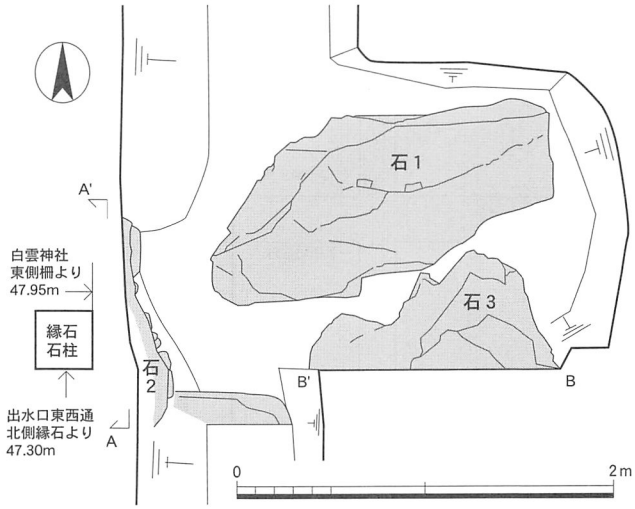
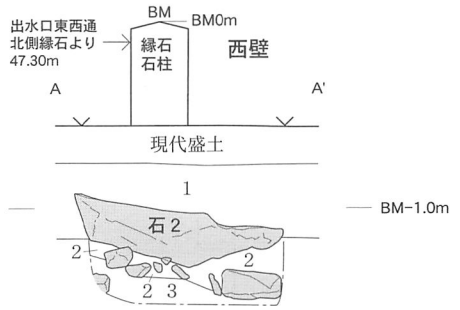


図２　No.１地点遺構平面図（１：40）



1　10YR3/4 暗褐色砂泥（炭混）
2　10YR4/6 褐色砂泥（礫混）
3　10YR4/4 褐色砂泥（炭混）

図３　石２見通し及び断面図（１：40）

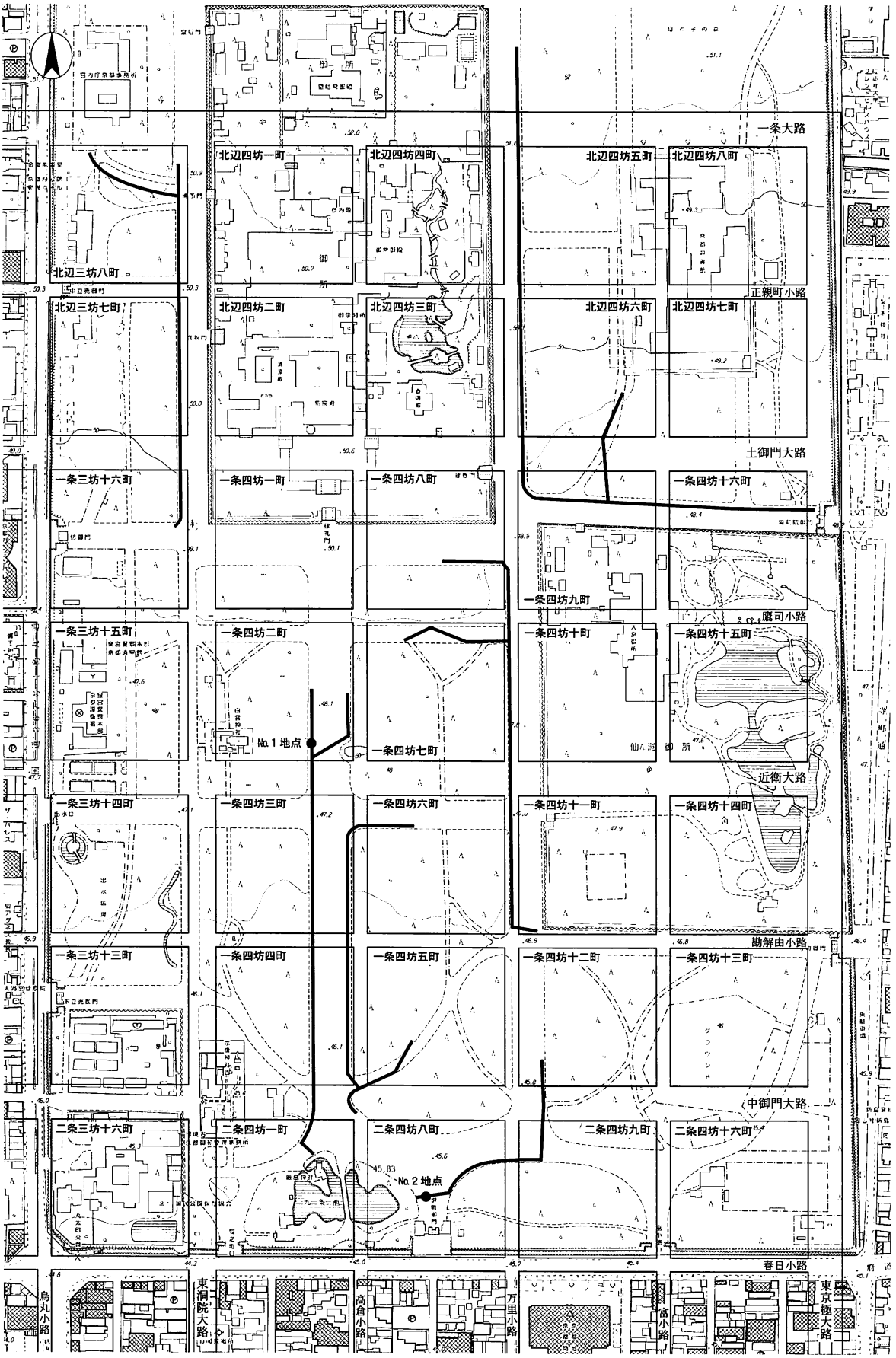


図４　調査位置図（１：5,000）

に出土し、原位置から移動した石１がある。石２・３は上面が平らな状態になるように据えられていた。石１を原位置に戻した状態で復元すると東西1.96m、南北0.70m、厚さ0.96mを測る。石２は南北1.1m、東西0.08m以上、厚さ0.39m。石３の大きさは東西1.32m、南北0.62m以上、厚さ0.61mを測る。石質は全てチャート質である。

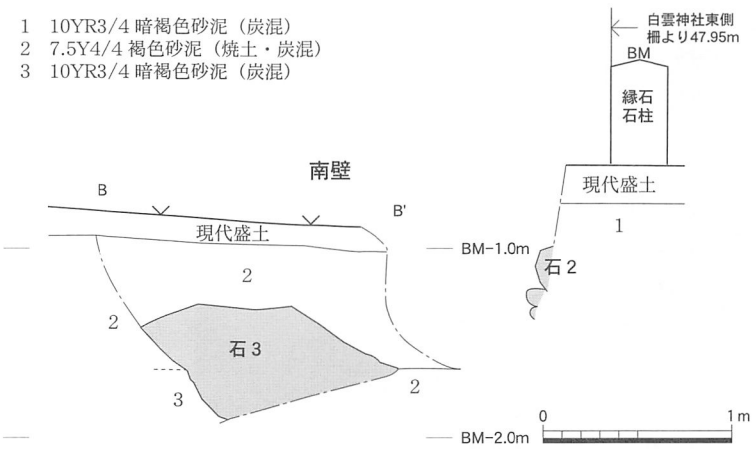


図５　石３断面図（１：40）

なお、原位置から移動した石１は、環境省京都事務所と工事業者により極力原位置に近い状態に戻され、現在は覆土され路面下にある。図２の石１の位置は、原位置に戻した状態の図である。

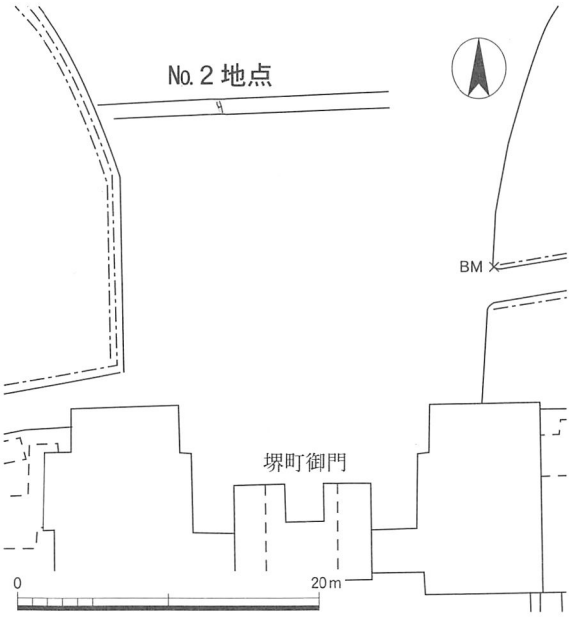


図６　No.２地点遺構位置図（１：500）

石列と路面を検出したNo.２地点は、堺町御門北方約30mに位置する。

層序は、BM-0.12mまでが現代盛土層、-0.12m～-0.44mがにぶい黄褐色砂泥層、-0.44m～-0.72mが褐色砂泥層、-0.72m～-1.08mがにぶい黄褐色砂泥層、-1.08m以下黄褐色細砂層（江戸時代染付椀・土製鈴・施釉陶器急須蓋・小菊瓦出土）となる。

今回の調査で検出した石列は２石あり、いずれも長辺が0.36mから0.4m以上、短片0.2m、厚さ0.16m以上ある。石列は東面し、北に対しやや西に振っている。石列の東にある層は細砂層であるが、非常に堅くしまっており、路面と考えられる。しかしながら、工事掘削深がこの深さまでなので、石列以下の断面観察などは行えず下部の堆積状況は把握すること

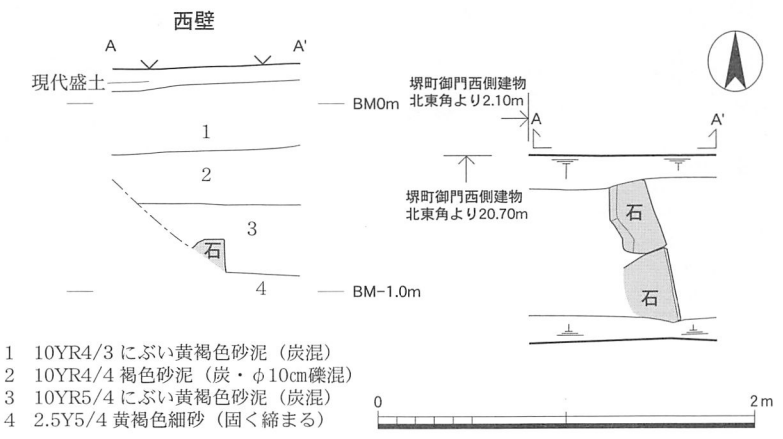


図７　石列平面及び断面図（１：40）

図８　石１（取上時）

ができなかった。

ま と め

No.１地点は、江戸時代の遺構の検出のみにとどまり、平安時代の遺構は検出できなかった。

ここは江戸時代中期から幕末までのおもな絵図[註1]によると「院御所　中宮御所」、「新院様　新女院様　右御殿」、「東山院　御旧地」、「有栖川宮邸」と記載された場所にあたり、皇族関係の邸宅があったとされている。検出した石はそれに関連するものと考えられる。石の規模や据え方などから庭石であった可能性が高い。

No.２地点で検出した石列と路面は、寛保年間の地図[註1]では、堺町通の西側に位置しており、堺町通と西築地の遺構の一部であると考えたいが、この石列が北に対して西への振りを持っているので、別遺構の可能性もある。今後近隣の調査成果の蓄積に期待したい。

（卜田健司）

註１　「新板増補京絵図　新地入　宝永六(1709)年」「増補再板京大絵図　乾坤二舗　寛保元(1741)年」「天明六年京都洛中洛外絵図　天明六(1786)年」「改正京町御絵図細見大成　慶応四（1868）年」『慶長　昭和　京都地図集成-1611（慶長16）年～1940（昭和15）年』柏書房　1994年

図９　石２（東から）

図10　石列（東から）

2　平安京左京一条四坊十町・公家町遺跡（07HL301）

調査経過（図11）

上京区京都御苑２番地の大宮・仙洞御所における赤外線警報装置等改修工事に伴う立会調査である。調査地は大宮・仙洞御所の外壁部分14箇所、平安京の条坊では左京一条四坊十・十一・十四・十六町と東京極大路上に位置し、近世以降では禁裏とその周辺に公家の邸宅が配置される公家町遺跡の仙洞御所部分にあたる。

調査は2007年11月19日から2008年１月８日まで行い、調査の結果、No.１地点で石組の東西溝を検出した。

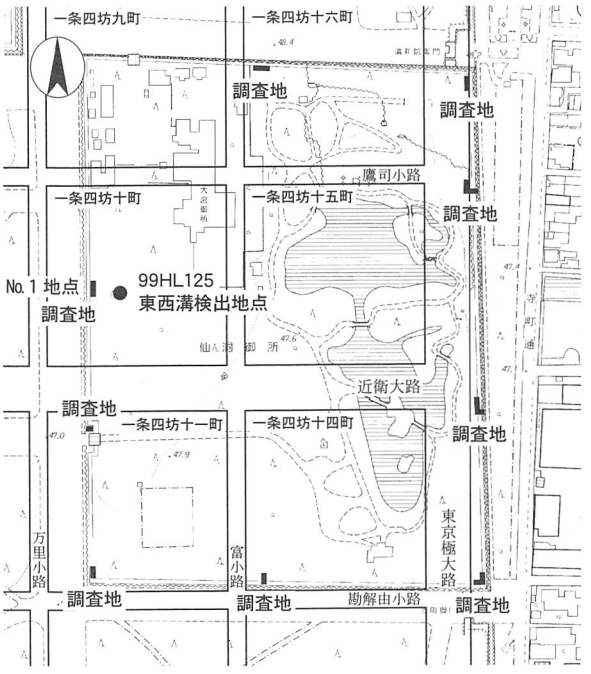


図11　調査位置図（１：5,000）

遺　　構（図12～16）

石組の東西溝は、No.１地点の地表下-0.18mの現代盛土直下の工事掘削断面で検出した。溝内幅は約0.5m、深さ0.16mを測る。

側壁の石は南側で一段を確認したが、北側は抜き取られている。南側の石は幅0.18m、高さ0.32mで溝側と上面は平坦である。石は原位置を保っているが外へやや傾いている。北側の抜き取り部分は幅0.3m、深さ0.3mを測り、南側の石と同程度の石が据わっていたと考えられる。溝底部にも幅0.33m、高さ0.08mの平たい石を据えている。底部の石と側壁の石との間には漆喰を入れ補強を行っている。また溝の下層には、両壁の下部まで包み込むように幅0.8m、厚さ0.15mで漏水防止用とみられるにぶい黄橙色粘土を敷いている。

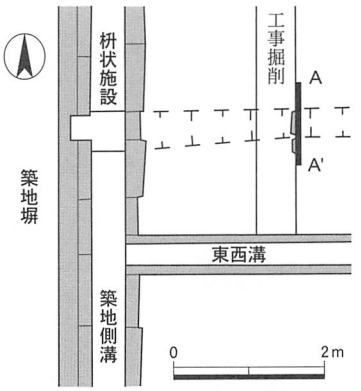
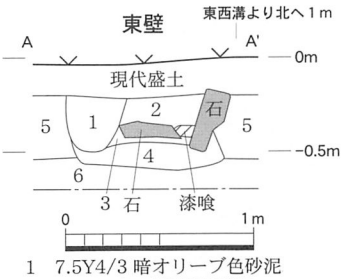


図12　遺構位置図（１：100）

ま と め

今回検出した東西溝の西へ約３mの地点には、大宮・仙洞御所の築地塀と南北築地側溝がある。築地側溝と東西溝の延長がクロスする部分の築地側溝が約0.3m程幅広くなり、溝底も一段下っており、枡状の配水施設があったと考えられる。この地点に現在は築地側溝から東へ延びる構造物などの痕跡はないが、東西溝がその地点に繋がっていたと考えられる。因に東西溝検出地点の約1.5m南に現在の東西溝がある。

更に東西溝検出地点の東へ約17m離れた地点で1999年に上水



1　7.5Y4/3 暗オリーブ色砂泥
2　10YR4/2 灰黄褐色砂泥
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
4　10YR7/4 にぶい黄橙色粘土
5　10YR3/3 暗褐色砂泥
6　10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥

図13　遺構断面図（１：40）

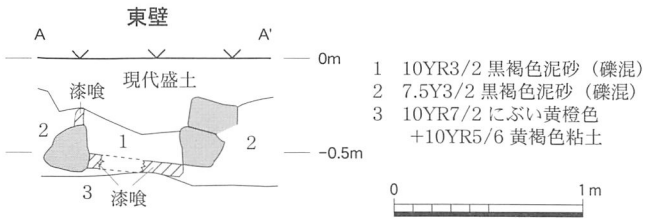


図14　99HL125東西溝断面図（1：40）

図15　東西溝と枡状配水施設（北から）

道埋設管工事に伴う立会調査[註1]（99HL125）で同じく東西溝を検出している。石組で漆喰を使い溝の内幅0.5m、深さ0.3mとほぼ同じ構造をしており、今回検出した東西溝の延長と考えられる。

検出した東西溝の南に現存する東西溝は大宮御所と仙洞御所の境界にあたり、1999年立会調査時には溝の南側に一部仕切塀も存在していた。しかし、仙洞御所の寛政期造営の御指図によれば、この付近は建物部分にあたり、境界が初見される安政期造営か、それ以後の境界に伴う溝と考えられる。

（吉本健吾）

註1　吉本健吾「Ⅱ-1　平安京左京北辺四坊二町、一条三坊十六町、四坊一・九・十・十一・十四町」『京都市内遺跡立会調査概報　平成11年度』京都市文化市民局　2000年

図16　東西溝（西から）

3　平安京左京八条三坊一町（08HL164）

調査経過（図17）

下京区木津屋橋通新町西入東塩小路町597-3、597の一部の共同住宅建築工事に伴う調査である。調査地は平安京左京八条三坊一町の南端に推定される。

左京八条三坊一町では、1995年の立会調査[註1]で平安時代末期から鎌倉時代の整地層、1999年の立会調査[註2]で平安時代の包含層、2000年の立会調査[註3]で平安時代後期の落込等を検出している。

調査は、2008年８月18日から25日まで行い、平安時代前期の地鎮遺構と時期不明の井戸などを検出した。

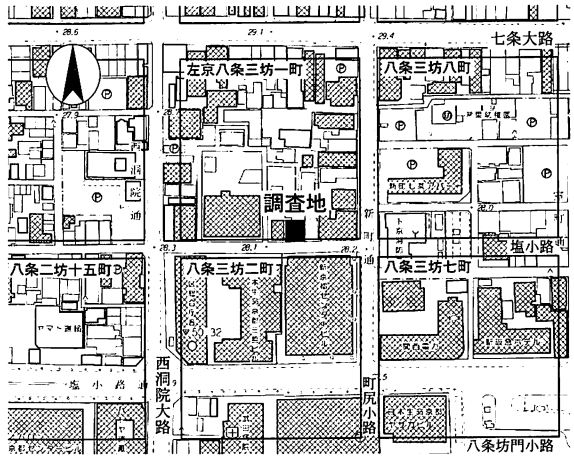


図17　調査位置図（１：5,000）

遺　　構（図18～20・22・23）

地鎮遺構を検出したNo.１地点の層序は、BM-0.6mまでは現代盛土層、-0.6mから-0.83mまでは近世以降の遺物包含層が２層、-0.83mから-1.01mまでは堅く締まった細砂が２層あり、-1.01m以下がにぶい褐色細砂の地山となる。平安時代の遺物を含む落込は-0.83mの堅く締まった細砂を切って幅0.4m以上、深さ0.41mある。

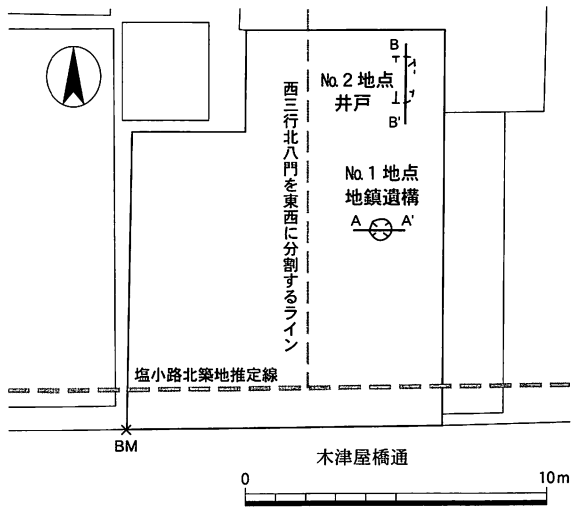
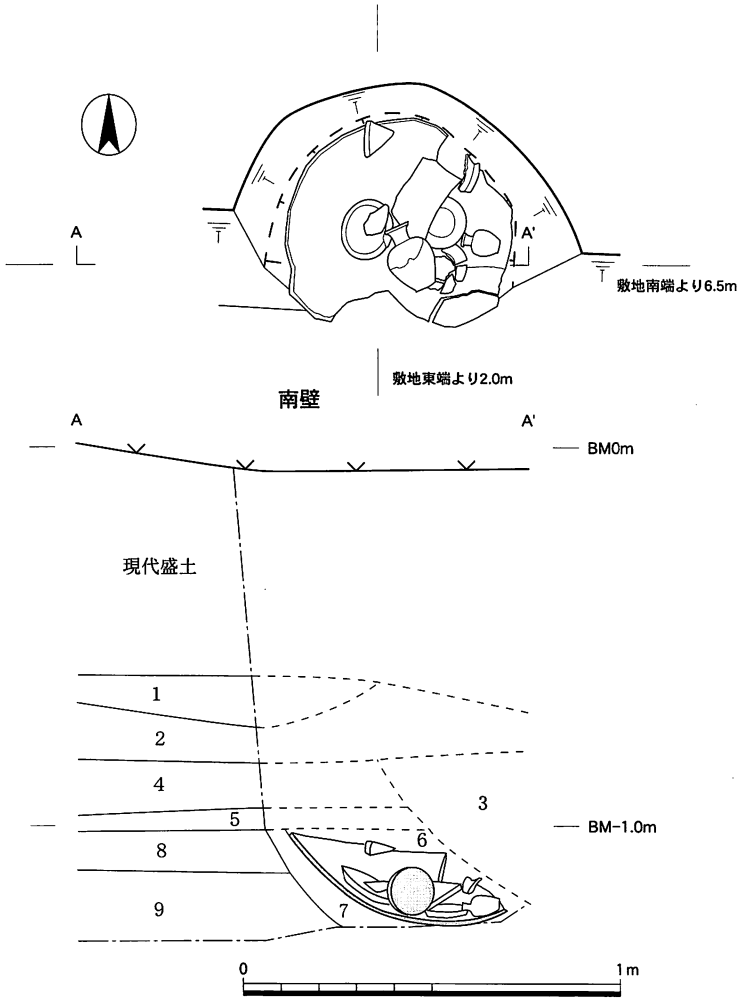


図18　遺構位置図（１：250）

地鎮遺構は地山面で検出し、幅0.7m以上、深さ0.28m以上を測る円形土坑に土器類が据えられたものである。一部西側が前述した落込に切られている。土坑内には土坑の大きさに合わせるように、須恵器大甕の底部から体部の破片を直径約63㎝、深さ23.0㎝の円盤状に成形したものを敷物に使い、その上に地鎮具として完形の土師器皿２点、土師器杯、須恵器壷、須恵器瓶子がそれぞれ一点据えられていた。他には土師器と須恵器の破片が数十点出土したが、埋土からのものであり、地鎮具として供されたものではないと考えられる。土師器皿２点、土師器杯は据えられた際の状態を保っていると考えられるが、須恵器壷と須恵器瓶子は内方に転倒した状態になっている。須恵器壷の底部が土師器皿の上にあることから、原位置で転倒したとは考えにくく、原位置を保っているかは不明である。

なお、通常地鎮具の皿や壷に銭貨などを納める場合があるが、今回出土した土器類に伴って銭貨などの出土はなかった。

井戸を検出したNo.２地点は、BM-0.91mまでは現代盛土層、-0.91mから-1.45mまでが近世以



1　7.5YR4/2 灰褐色砂泥（炭・焼土混）
2　7.5YR3/2 黒褐色砂泥（炭混）
3　7.5YR3/3 暗褐色砂泥（礫・炭混）
4　7.5YR5/4 にぶい褐色細砂（固く締まる）
5　10YR4/2 灰黄褐色細砂（炭混、固く締まる）
6　7.5YR4/2 灰褐色細砂
7　7.5YR5/3 にぶい褐色細砂
8　7.5YR5/4 にぶい褐色細砂（礫混、地山）
9　7.5YR5/6 明褐色細砂（礫混、地山）

図19　No.1 地点平面及び断面図（1 ：20）

降の遺物包含層、-1.45m以下が褐色砂礫となる。井戸は褐色砂礫層上面で検出した。

井戸は南北幅1.3m、検出面から深さ0.71mを測る。工事掘削の東壁断面で検出したので東西幅や平面の形状は不明であるが、井戸枠と考えられる幅0.4mの縦板を掘削断面とほぼ平行に確認しており、直線的な形状が推測できることから方形であると考えられる。この井戸からは遺物を検出することができず時期を特定することはできなかった。

遺　　物（図版27、図21）

報告する遺物はすべて地鎮遺構から出土したものである。

土師器杯（1）はほぼ完形である。口径は12.7cm、器高3.1cmを測る。口縁部の内外面のみをナデ調整、それ以外は指オサエで整形する。胎土は精良、焼成はやや甘く、色調は浅黄橙色（10YR8/3）である。

土師器皿（2）は完形である。口径は14.1cm、器高2.9cmを測る。内面はナデ、外面はヘラケズリで整形している。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調はにぶい黄橙色（10YR7/3）である。

土師器皿（3）も完形である。口径は15.3cm、器高2.4cmを測る。内面はナデ、外面はヘラケズリで整形している。胎土は雲母を含み精良、焼成は良好、色調はにぶい黄橙色（10YR7/3）である。

須恵器壷（4）は完形である。口径は7.0cm、器高17.5cmを測る。外面全体に回転ヨコナデがみられ、底部には糸切り痕がある。一部口縁に自然釉が認められる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は灰色（N5/0）である。

須恵器瓶子（5）は完形である。口径は3.45cm、器高10.0cmを測る。外面全体に回転ヨコナデがみられ、底部には糸切り痕がある。胎土は精良、焼成は良好、色調は灰色（N4/0）である。

須恵器甕（図版27－６）は底部とその付近を円板状の形状に成形し敷物にしたと考えられるものである。残存最長径は63.0cm、厚さ1.1cmから1.6cmを測る。一部は平安時代の落込と今回の掘削工事によって破損している。外面に格子目タタキ、内面に青海波の当具痕跡が全体にみられる。胎土は２㎜から３㎜大の小石を含む、焼成は良好、色調は緑灰色（5G5/1）である。

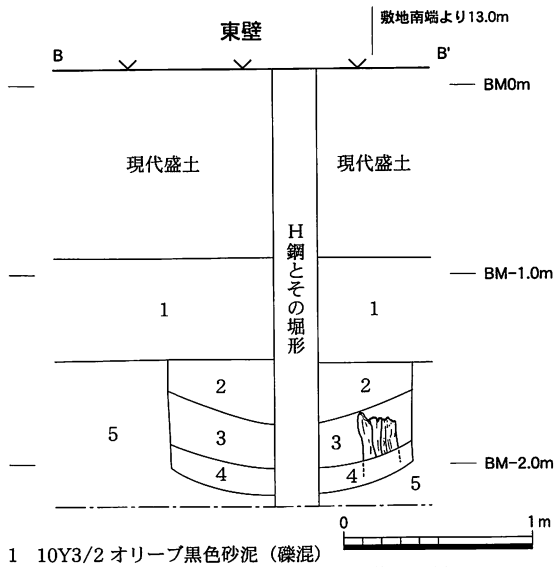
ま と め

今回検出した地鎮遺構の上層には、厚さ19cmの堅く締まった細砂が２層認められ、これらの層は整地層ではないかと考えられる。これらの層からは遺物の検出ができなかったので、確定はできないが、地鎮はこの整地に伴うものと考えることができる。

今回検出した地点は、四行八門の区画ラインには該当しないが、ただ地鎮遺構は宅地の境界の付近から検出する例が多く認められる[註4]ので、西三行北八門を東西に２分する区画があったと仮定すれば、そのラインから東へ約２mの地点にあたる。

今回の遺構は、地鎮具である土師器や須恵器を埋納するにあたり、その下に須恵器甕の破片を敷くもので、これまでに検出例の無い遺構である。

（吉本健吾）



1　10Y3/2 オリーブ黒色砂泥（礫混）
2　10Y3/2 オリーブ黒色砂泥（礫多量混、井戸埋土）
3　10Y3/1 オリーブ黒色砂泥（礫混、井戸埋土）
4　10YR4/2 オリーブ灰色微砂（井戸埋土）
5　10YR4/6 褐色砂礫

図20　No.２地点断面図（１：40）

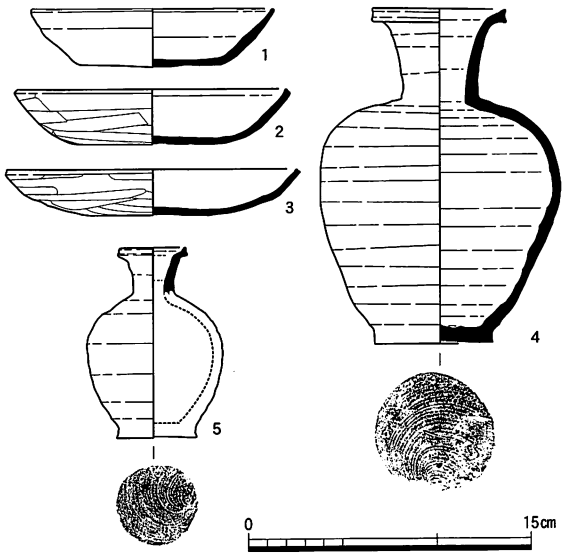


図21　出土土器実測図（１：４）

註１　「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報　平成７年度』京都市文化市民局　1996年
註２　「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報　平成11年度』京都市文化市民局　2000年
註３　「一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報　平成12年度』京都市文化市民局　2001年
註４　久世康博「京都市域における埋納（祭祀）遺構の集成」『研究紀要　第５号』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1999年

図22　地鎮遺構（北から）

図23　井戸（北から）

4　平安京右京北辺二坊七町（08HR122）

調査経過（図24）

北区大将軍西町163、166番地の診療所建築工事に伴う調査である。調査地の西側は平安京左京北辺二坊七町の東部に推定され、また調査地の東側は野寺小路にあたっている。

調査地の南側では1994年の立会調査[註1]で平安時代前期の野寺小路の路面、両側溝、井戸、土坑などを検出しており、平安時代の遺構の残存状態が良い地点である。特に調査地は野寺小路の延長部にあたり、遺構の検出が期待された。

調査は2008年７月17日から10月16日まで行い、平安時代中期の井戸を検出した。

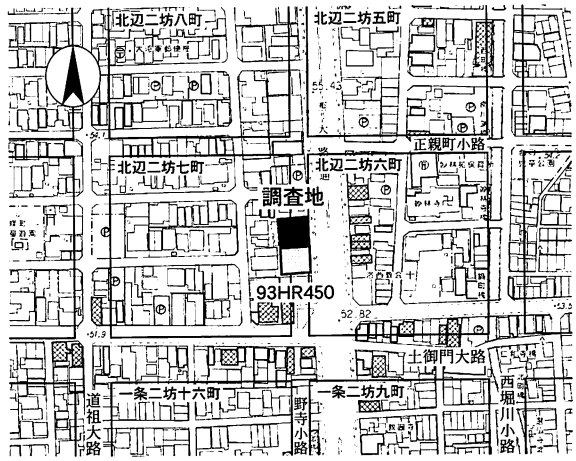


図24　調査位置図（１：5,000）

遺　　構（図版29、図25～27・29）

調査地の大半は旧建物の基礎で撹乱を受け遺構は残存していなかった。遺構が検出できたのは、建物が建っていなかった南西部のみであった。井戸はこの地点で検出した。

調査地の基本層序はBM+0.17mから-0.35mまでが現代盛土層、-0.35mから-0.6mまでが時期不明の包含層、-0.6mから-0.71mまでが平安時代中期の包含層、-0.71m以下がにぶい黄橙色粘土の地山となる。井戸はこの地山を切って成立している。

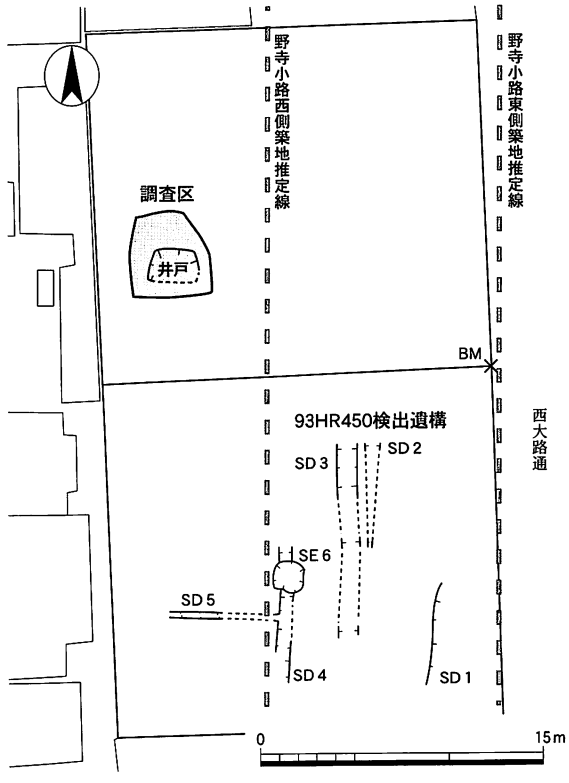


図25　遺構位置図（１：400）

井戸の平面形状はほぼ方形を呈し、掘形を含めた幅は南北約1.7m、東西2.07m、深さ1.12mを測る。井戸材は認められなかったが、一部井戸材があったであろうと思われる場所で層の違いを確認でき、木組であったと考えられる。埋土は井戸内、底部、掘形の３層に分層できるが、包含する遺物はほぼ時期差のない平安時代中期のものである。

今回の調査で期待されていた野寺小路に関連する遺構は、残念ながら旧建物の基礎による撹乱で検出することはできなかった。

遺　　物（図版27、図28）

報告する遺物はすべて井戸から出土したものである。

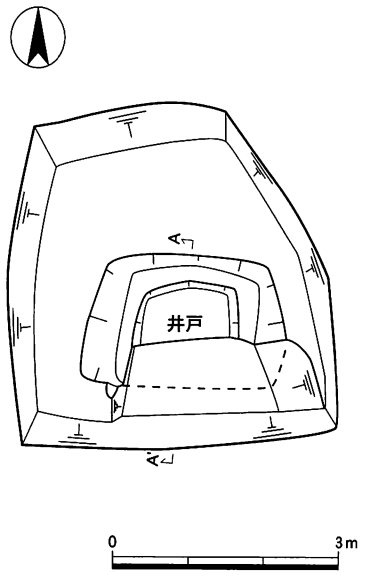
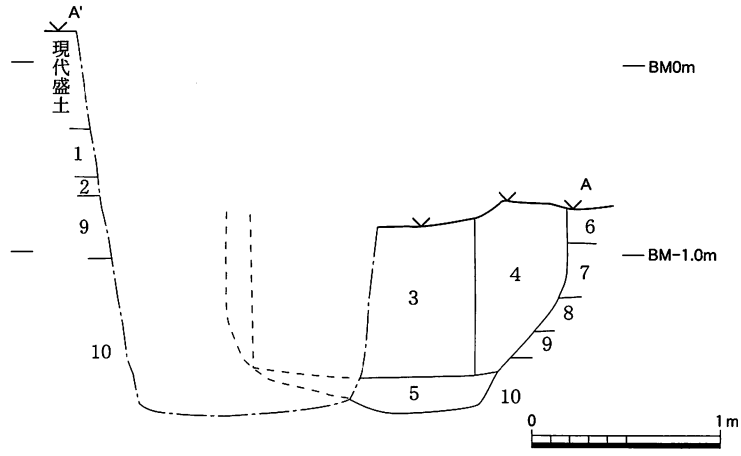


図26　遺構平面図（１：100）



1　10YR4/2 灰黄褐色砂泥
2　10YR2/1 黒色砂泥
3　7.5Y3/2 オリーブ黒色砂泥（礫混）
4　10Y3/2 オリーブ黒褐色砂泥（礫混）
5　7.5Y3/1 オリーブ黒褐色砂泥（礫多量混）
6　10YR2/1 黒色砂泥
7　10YR5/2 灰黄褐色砂礫（地山）
8　10YR5/2 灰黄褐色粘土（地山）
9　10YR7/2 にぶい黄橙色砂粘土（地山）
10　10YR7/2 にぶい黄橙色砂礫（地山）

図27　遺構断面図（１：40）

土師器皿（７）は半分以上残る破片である。口径は14.4㎝、器高1.7㎝を測る。胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く、色調は橙色（7.5YR6/6）である。４層から出土。

土師器杯（８）はほぼ完形である。口径は13.6㎝、器高3.2㎝を測る。胎土は１～２大の石粒を含み、焼成はやや甘く、色調は浅黄色（2.5Y7/4）である。４層から出土。

土師器杯（９）は口縁から底部にかけて６分の１程残存する破片である。推定口径は14.2㎝、器高3.0㎝を測る。胎土は精良、焼成は良好、色調はにぶい黄色（2.5Y4/6）である。５層から出土。

土師器杯（10）は半分以上残る破片である。口径は16.0㎝、器高3.0㎝を測る。胎土は砂粒を含む、焼成は良好、色調はにぶい黄橙色（2.5Y6/4）である。４層から出土。

土師器甕（11）は口縁から胴部にかけての破片である。推定口径は15.35㎝を測る。外面は肩部から口縁にかけてタテ方向のハケ成形の後、ヨコナデを施す。胴部にはナナメ方向のハケメを施す。内面は胴部にカキメを施し、肩部から口縁はヨコナデである。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調はにぶい黄橙色（10YR6/3）である。４層から出土。

土師器甕（12）は口縁部のみの破片である。口縁外面はタテ方向のハケ成形の後、ヨコナデを施す。内面はヨコ方向のハケ成形の後、ヨコナデを施している。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好、色調はにぶい橙色（7.5YR7/3）である。４層から出土。

黒色土器皿（13）はA類のほぼ完形品である。内面にはヘラミガキが施され、暗文がみられる。高台は貼付けである。口径は14.0㎝、器高2.65㎝を測る。胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く、色調は外面が黒色（2.5Y2/1）、内面がにぶい橙色（7.5YR6/4）である。４層から出土。

須恵器皿（14）は口縁から底部にかけて５分の１程残存する破片である。推定口径は16.3㎝、器高2.5㎝を測る。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、色調は緑灰色（5G6/1）である。４層から出土。

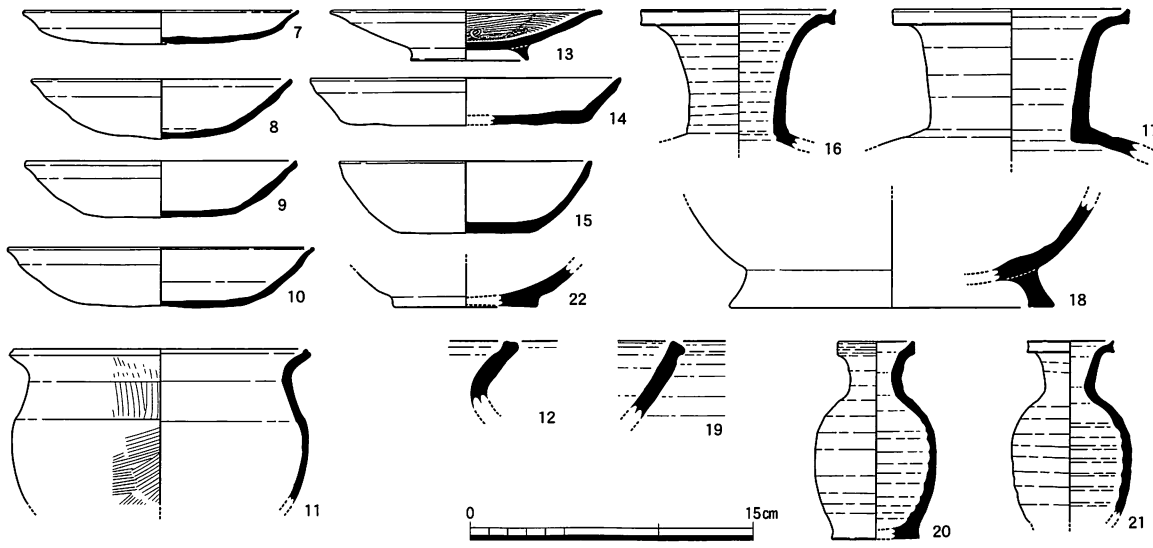


図28　出土遺物実測図（１：４）

須恵器杯（15）は口縁から底部にかけて４分の１程残存する破片である。推定口径は13.1㎝、器高3.8㎝を測る。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、色調は灰白色（10YR8/2）である。４層から出土。

須恵器壷（16）は頸部のみの破片である。口径は10.25㎝を測る。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は紫灰色（5RP5/1）である。

須恵器壷（17）は頸部から肩部にかけての破片である。口径は12.4㎝を測る。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好、色調は緑灰色（10GY6/1）である。

須恵器壷（18）は底部の破片である。外傾する高台を貼付けている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好、色調は緑灰色（10GY6/1）である。緑釉陶器であるが調査地南側の1994年の立会調査[註1]で出土した壷に底部が類似している。４層から出土。

須恵器鉢（19）は口縁部のみの破片である。５層から出土。

須恵器瓶子（20）は口縁から底部にかけて３分の１程残存する破片である。推定口径は3.9㎝、器高10.4㎝を測る。外面全体に回転ヨコナデがみられ、底部には糸切り痕が確認できる。胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く、色調は明緑灰色（5G7/1）である。４層から出土。

須恵器瓶子（21）は口縁から胴部にかけての破片である。口径は4.5㎝を測る。外面全体に回転ヨコナデがみらる。胎土は精良、焼成は良好、色調は青灰色（5B6/1）である。５層から出土。

緑釉陶器椀（22）は底部の破片である。磨滅が激しく釉はほとんど残っていない。高台は削り出しである。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、色調は釉が淡緑灰色、素地が白灰色（10YR8/2）である。４層から出土。

ま と め

今回は調査地の大半が旧建物の基礎で破壊されていたにも関わらず、平安時代中期の遺物を含む井戸を１基検出することができた。この井戸は、井戸内埋土の遺物と掘形の遺物に時期差がみられず、井戸を造り、廃棄するまでの期間が短かったことが考えられる。また調査地南側の立会

調査[註1]では野寺小路西築地推定ライン際に平安時代前期の井戸（SE６）を検出しているが、今回検出した井戸も築地推定ラインから西へ約３ｍの地点で検出している。本来なら内溝が施設されている場所と考えられる。南側の立会調査では西側溝とされる溝（SD３）が溝の推定ラインより東へ約２ｍの地点で検出されている。また、上述のように今回検出の井戸の位置も同様に１丈程度のズレがあるともみられ、条坊施工時の施工誤差であることを示唆していると考えられるが、『延喜式』に記載された規格通りに造られていなかったことも考えられる。今後の周辺の調査に期待したい。

（吉本健吾）

註１　川村雅章・吉村正親・吉本健吾「Ⅱ-5　右京北辺二坊七町」『京都市内遺跡立会調査概報　平成６年度』京都市文化観光局　1995年

図29　井戸完掘状況（南から）

5　平安京右京三条一坊十六町（07HR407）

調査経過（図30）

本調査は、中京区西ノ京船塚町朱雀公園グラウンド内にある京都地方気象台の風観測装置の建設に伴う立会調査である。調査対象地は平安京条坊復元の右京三条一坊十六町に西接する西大宮大路にあたる。

同敷地北部で実施した1986年の発掘調査[註1]では、条坊関係の遺構はなく、溝・土坑・落込・土取穴群などを検出している。

調査は2008年３月４日に行い、敷地の東端北寄りと北西角の２箇所で観察を行った。調査の結果、西大宮大路の路面と溝状遺構を検出した。掘削面積は約20㎡である。

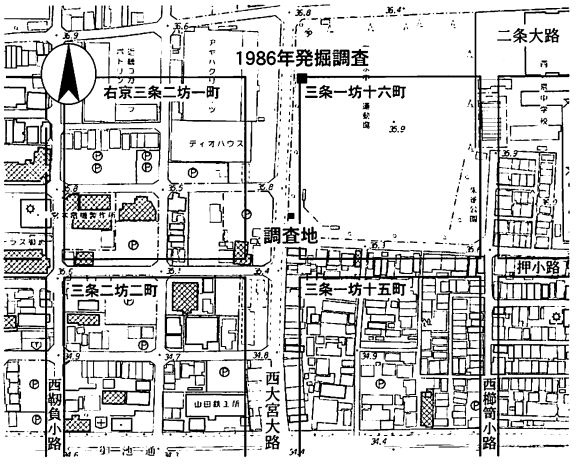


図30　調査位置図（１：5,000）

遺　　構（図31～34）

調査地の基本層序は、No.１地点ではBM−0.74mまでが現代盛土層、−0.74mから−0.94mがオリーブ褐色泥砂層、−0.94mから−1.14mが中世の遺物を含む褐色泥砂層、−1.14mから−1.18mが路面層、−1.18m以下、にぶい黄色泥土の地山となる。

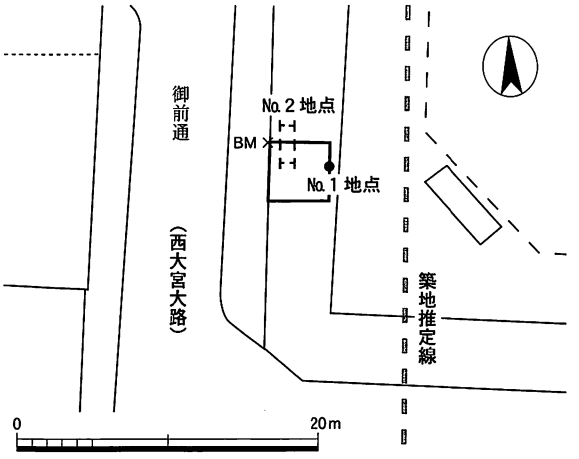


図31　遺構位置図（１：500）

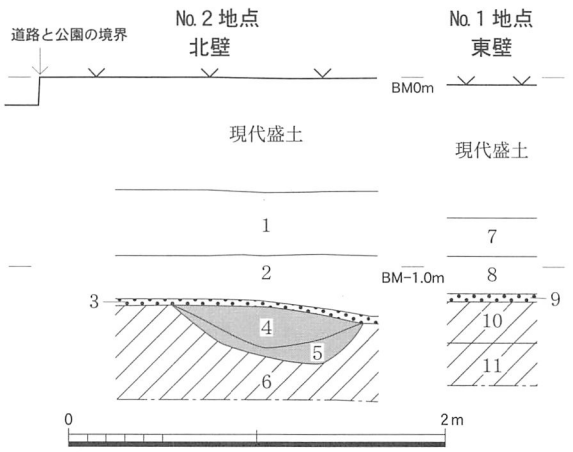
No.２地点では、BM−0.6mまでが現代盛土層、−0.6mから−0.94mが暗褐色砂泥層、−0.94mから−1.17mが遺物を含むにぶい黄褐色砂泥層、−1.17mから−1.2mが路面層、−1.2m以下、明黄褐色泥土の地山となる。

路面層はNo.１・２の両地点で検出した。路面は厚さ0.03mで直径約0.01mから0.02m大の礫を多量に敷き詰めている。No.２地点では西から東へ緩やかな傾斜を持っている。この路面からは鎌倉時代の常滑の焼締陶器甕が出土している。

溝状遺構はNo.２地点の路面の下層で検出した。溝状遺構は南北方向で幅1.02m、深さ0.3mを測る。埋土は２層に分層することができ、下層から平安時代中期の平瓦が出土した。土坑とも考えられるが、埋土の上層が泥土で下層が砂礫であるので溝と考えた。

ま と め

今回検出した路面は、出土遺物が少なく明確に時期を特定することはできなかった。1999年に立会調査[註2]で検出した三条大路の路面は須恵器甕の破片や瓦片を敷き詰めていた例があるので、今回路面から出土した焼締陶器甕などもそうした路面舗装に使用された可能性を持つ。



1　10YR3/4 暗褐色砂泥（炭混）
2　10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥（炭混）
3　10YR5/2 灰黄褐色砂泥（礫多量φ１～２㎝）
4　10YR5/4 にぶい黄褐色泥土
5　10YR6/3 にぶい黄橙色砂礫（φ１～２㎝）
6　10YR7/6 明黄褐色泥土（地山）
7　2.5Y4/4 オリーブ褐色泥砂（炭混）
8　10YR4/4 褐色泥砂（炭混）
9　10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂（礫多量φ１～２㎝）
10　2.5Y6/3 にぶい黄色泥土（地山）
11　10YR7/8 黄橙色泥土（地山）

図32　遺構断面及び柱状断面図（１：40）

『延喜式』によると大路の側溝は築地推定ラインより溝心までが３ｍであり、検出した溝状遺構は西大宮大路の東築地推定ラインより西へ約８ｍの地点に位置しているので側溝とは考えにくい。西大宮大路には道路部分に西大宮川が流れていたとされ、今回検出した溝状遺構がどういう性格のものであるかは不明であるが、西大宮大路の構造を考える上でのひとつの資料となる。路面及び溝状遺構について、今後近隣の西大宮大路の調査に期待したい。

（卜田健司）

註１　小森俊寛「平安京右京三条一坊」『昭和61年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1989年

註２　吉本健吾「Ⅱ－６　平安京大路・小路の路面および側溝」『京都市内遺跡立会調査概報　平成11年度』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2000年

図33　No.１地点路面（西から）

図34　No.２地点路面及び溝状遺構（南から）

6　平安京右京八条二坊十六町（08HR263）

調査経過（図35）

下京区西七条南月読町92-４、92-５におけるマンション建築工事に伴う立会調査である。調査地のほぼ全域が道祖大路に推定され、北側の一部が七条大路との交差部にあたる。

十六町内では北端と東端の２箇所で発掘調査[註1]が行われ、共に条坊に伴う側溝と路面（平安時代前期と鎌倉時代）を検出している。

調査は2008年10月27日と28日に行い平安時代中期の遺物を含む南北方向の溝と考えられる落込を検出した。

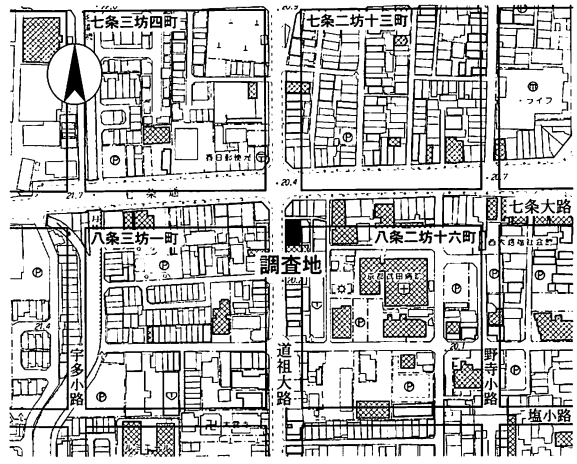


図35　調査位置図（１：5,000）

遺　　構（図36・37・39）

調査地（No.１地点）の基本層序はBM+0.18mから-0.37mまで現代盛土層、-0.37mから-0.52mまで耕作土層、-0.52mから-0.66mまでが時期不明の灰オリーブ色砂泥層、-0.66mが遺構面となり、遺構の下層は灰オリーブ色砂礫の地山となる。

遺構は、調査地の東端の工事掘削壁No.１地点のBM-0.66mで平安時代中期の遺物を含んだ湿地状堆積を検出した。この地点が道祖大路東築地推定ラインの西側にあたり、この層と下層のオリーブ灰色細砂層が道祖大路東側溝ではないかと考え、工事業者にNo.１地点の北1.8mの地点を東西方向に掘削してもらった。このNo.２地点で平安時代中期の遺物を含んだ湿地状堆積が-0.62mで幅0.5m以上、深さ-0.41mで東へ落ち込んでいるのを検出し、東側溝であることを確認した。　またこの溝の肩を形成している層は２層に分層でき、下層からは平安時代前期の遺物が出土している。これらの層は平安時代前期の整地層ではないかと考えられる。

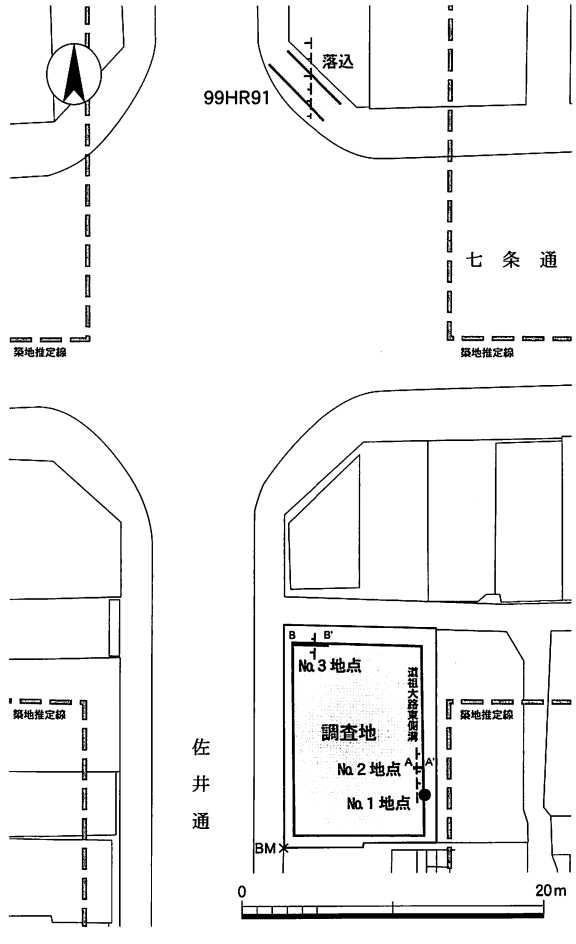
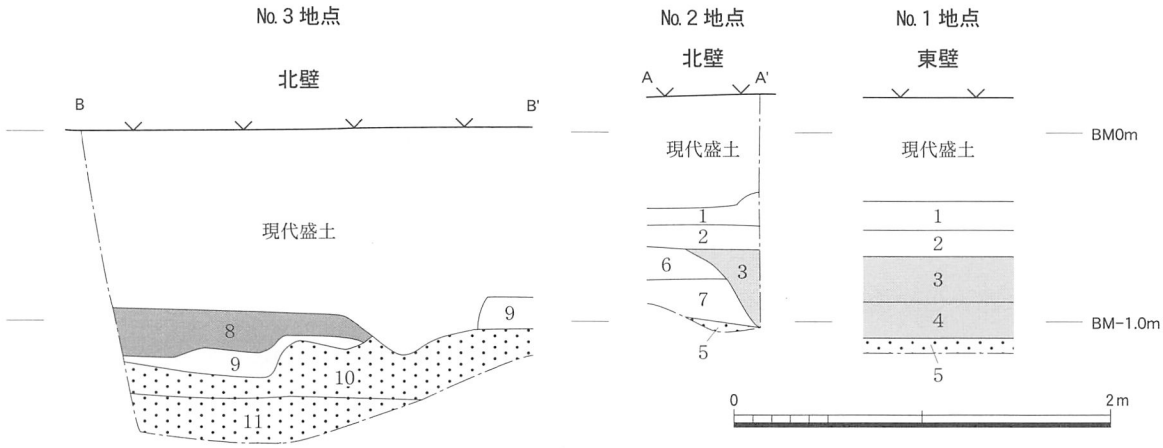


図36　遺構位置図（１：500）

調査地の北西隅のNo.３地点でも湿地状堆積の落込の東肩を検出した。湿地状堆積はBM-0.94mで幅1.39m以上、深さ0.25mを測る。遺物は検出できなかった。



1　7.5Y4/2 灰オリーブ色砂泥（粘質、耕作土）
2　7.5Y5/3 灰オリーブ色砂泥（粘質）
3　10Y4/2 オリーブ灰色砂泥（粘質、礫・炭混、平安時代中期の遺物含む。側溝埋土）
4　10Y4/2 オリーブ灰色細砂（側溝埋土）
5　7.5Y5/2 灰オリーブ色砂礫（地山）
6　7.5Y4/2 灰オリーブ色砂泥（小礫混、時期不明の遺物含む）
7　7.5Y4/2 灰オリーブ色細砂（礫混、平安時代前期の遺物含む）
8　10Y3/2 オリーブ黒色砂泥（粘質、礫混、道祖川埋土）
9　10YR4/2 灰黄褐色砂泥（礫混、固く締まる）
10　10YR4/6 褐色細砂（地山）
11　2.5YR4/6 オリーブ褐色砂礫（地山）

図37　No.１・２・３地点遺構断面及び柱状断面図（１：40）

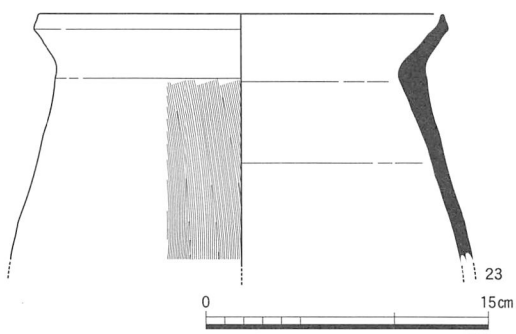


図38　出土土器実測図（１：４）

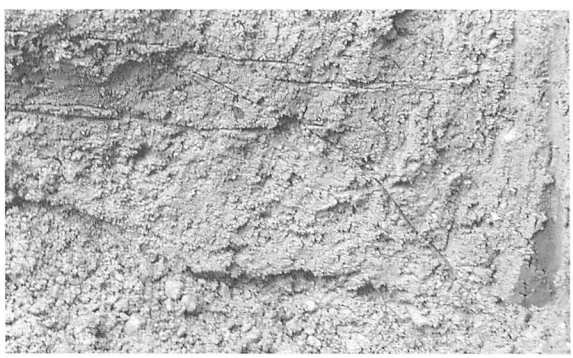


図39　No.２地点道祖大路東側溝（南から）

遺　　物（図38）

遺物は、３層から平安時代中期の土師器皿・甕、灰釉陶器皿・椀、７層から平安時代前期の土師器甕、黒色土器椀、丸瓦が出土している。ここでは７層から出土した土師器甕（23）の実測図を掲載する。

ま と め

1999年に七条佐井の交差点北東角の水道工事の立会調査[註2]で平安時代から鎌倉時代の遺物を含む湿地状堆積の落込を検出している。今回、No.３地点で検出した湿地状堆積と同じく道祖大路東築地ラインより路面側へ約９ｍに位置し、湿地状堆積が北へ続いているとみられ、道祖大路の中央を流れていたとされる道祖川と考えられる。

（吉本健吾）

註１　吉崎伸「34右京八条二坊（２）」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1983年、北田栄造「Ⅱ右京八条二坊」『平安京跡発掘調査概報』昭和59年度　（財）京都市埋蔵文化財研究所　1985年

註２　吉本健吾・竜子正彦「Ⅱ－６　平安京大路・小路の路面および側溝」『京都市内遺跡立会調査概報平成11年度』（財）京都市文化市民局　2000年

Ⅲ　その他の遺跡

1　長岡京左京二条四坊七町（08NG65・150）

調査経過（図40）

本調査は、南区久世東土川町にある倉庫新築工事に先立つ擁壁工事に伴う立会調査（08NG65）と西接する消火栓新設工事に伴う立会調査（08NG150）であり、隣接するため合わせて報告する。

倉庫新築工事地は2008年４月30日から５月２日かけて京都市文化市民局文化財保護課が試掘調査を行い、二条条間大路の南・北側溝を検出しており、倉庫部分は発掘調査対象地となり、敷地境界の擁壁部分は立会調査となった。

調査地の西側には、名神高速道路桂川パーキングエリアがあり、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター（以下「府」と略称）が1993年から1997年にかけて発掘調査[註1]を行い、長岡京期以前の流路や、長岡京期の二条条間大路や側溝・建物・井戸など多数の遺構を検出している。

また、本立会調査後に倉庫部分の発掘調査[註2]を(財)京都市埋蔵文化財研究所（以下「市埋文」と略称）が行い、長岡京期以前の流路や長岡京条坊遺構を検出した。

調査は、2008年５月26・27、６月16～18、８月４日に08NG65を、８月４日に08NG150の調査を行い、長岡京期以前の溝２条、長岡京期の溝、時期不明の落込を検出した。

図40　調査位置図（１：5,000）

図41　№２地点東西溝（西から）

図42　08NG150落込（西から）

遺　　構（図41～44）

調査地の層序は、08NG65の№１・２地点では地表下-0.2mまでが耕作土層、以下-0.8mまでが褐色泥土層となる。№３地点では地表下-0.7mまでが耕作土層、以下-1.14mまでが明黄褐色泥土層となる。08NG150では、地表下-

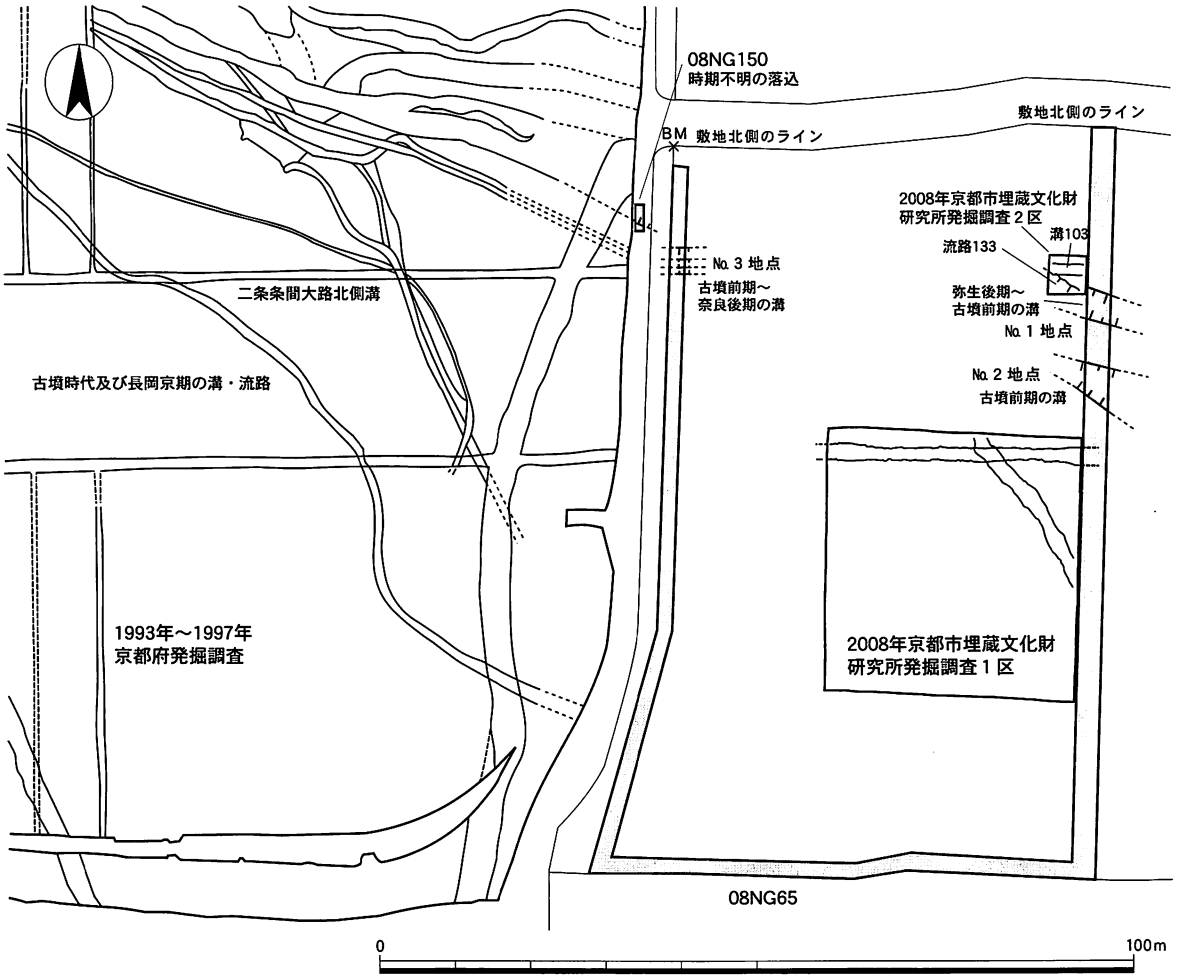


図43　本調査及び近辺調査遺構位置図（１：1.000）

0.38mまでが現代盛土層、-0.64mまでが耕作土層、-0.78mまでがにぶい黄褐色砂泥層、-0.78m以下、黄褐色粘土の地山になる。

遺構はNo.１地点では、耕作土層直下の褐色泥土層を切り込む形で、東西方向の溝を検出した。規模は、南北幅4.2m、深さ0.48m以上ある。埋土から弥生時代後期から古墳時代後期の遺物が出土している。No.２地点では、耕作土層直下の褐色泥土層上面で東西方向の溝を検出した。規模は、南北幅4.1m、深さ0.6m以上ある。埋土から古墳前期の遺物が出土している。No.３地点では、耕作土直下の明黄褐色泥土層に東西方向の溝を検出した。規模は、南北幅3.04m、深さ0.5m以上ある。埋土から古墳時代前期から奈良時代後期の遺物が出土している。08NG150では、南北幅2.72m以上深さ0.7mの時期不明の東西方向の溝と考えられる落込の南肩を検出した。

ま と め

今回検出した08NG65のNo.１・２地点の溝と08NG150の溝は、北西から南東方向に流れており、府の調査した際に検出された、幅約10mの弥生時代後期から古墳時代後期の流路の支流の一部と考えることができる。No.１地点の溝は、市埋文が発掘調査で検出した流路133の続きである。

No.３地点の溝は、奈良時代後期の遺物が含まれており、長岡京に関連する遺構の可能性がある。この溝は、府の調査と市埋文が発掘調査で検出した二条条間大路北側溝を結ぶライン上にあたり、

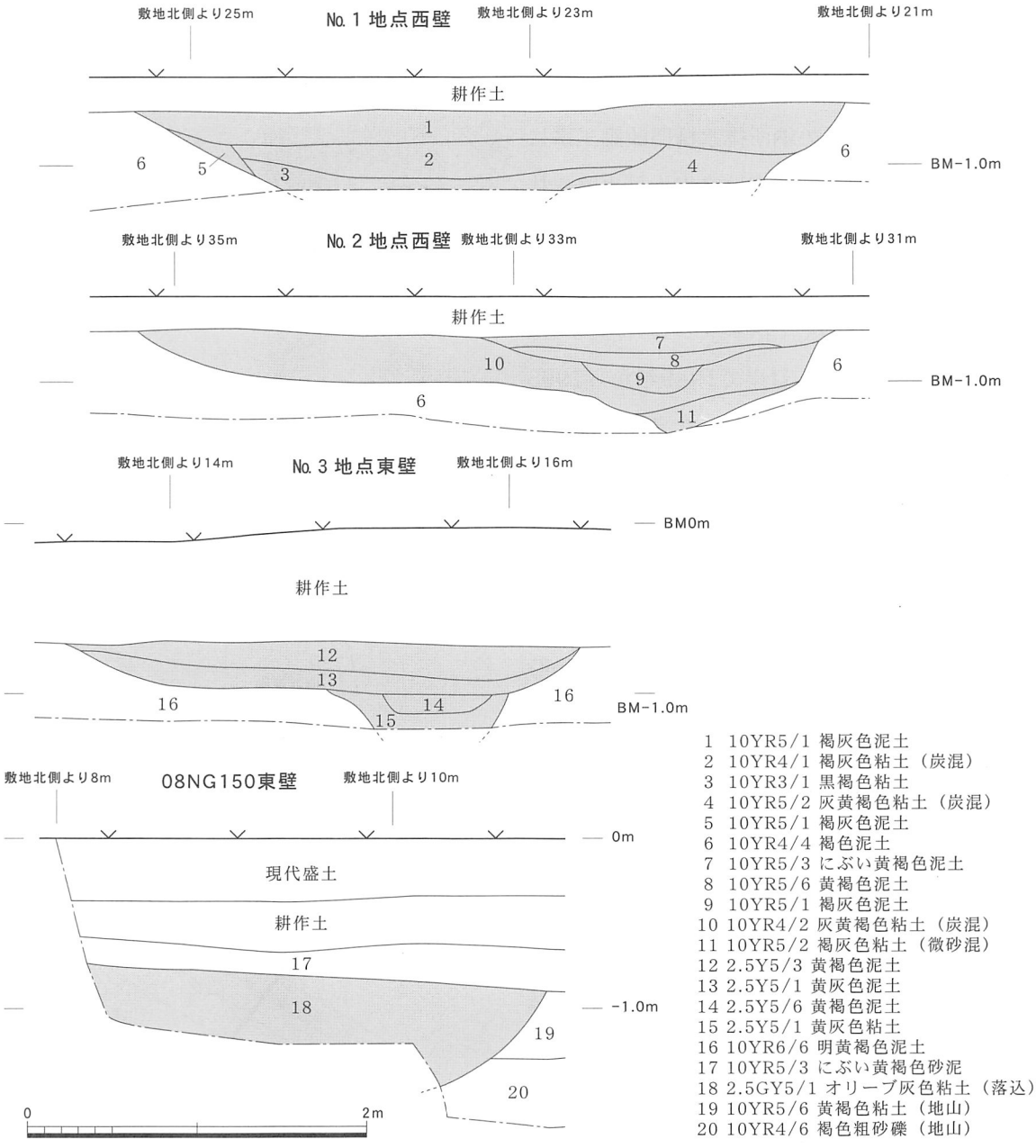


図44　遺構断面図（１：40）

同じ溝であると考える。

今回の調査では、隣接する府の発掘調査と市埋文が発掘調査を行った間の部分や市埋文の調査成果の東側延長部分を一部明確にすることができた。

（卜田健司）

註１　（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査報告書　第28冊』2000年

註２　加納敬二・津々池惣一『長岡京左京二条四坊六・七町跡』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2009年

2　長岡京左京八条四坊三町（07NG87）

調査経過（図45）

伏見区納所町地先の納所排水樋門改築工事に伴う立会調査である。工事は洛南十号水路を桂川に排水する地点の樋門を改築するにあたり、桂川左岸堤防及び新千本通を縦断掘削するものである。当地は長岡京八条四坊三町に位置する。

近辺の発掘調査は、対岸で1989年から1995年にかけて水垂遺跡発見となった発掘調査[註1]が行われているが、付近では立会調査が数件行われているのみで、明瞭な遺構、遺物は検出されていない。

調査は2007年６月４日から2008年１月30日まで行い、時期不明の堤防に伴う石垣と飛鳥時代の竪穴住居址を検出した。

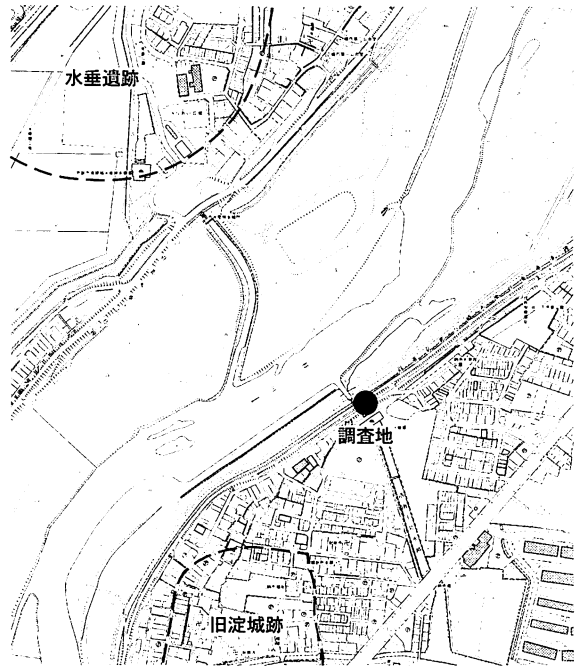


図45　調査位置図（１：10,000）

遺構・遺物（図46～49）

石垣と竪穴住居址は、共に桂川左岸堤防及び新千本通を縦断掘削したA-A'間で検出した。

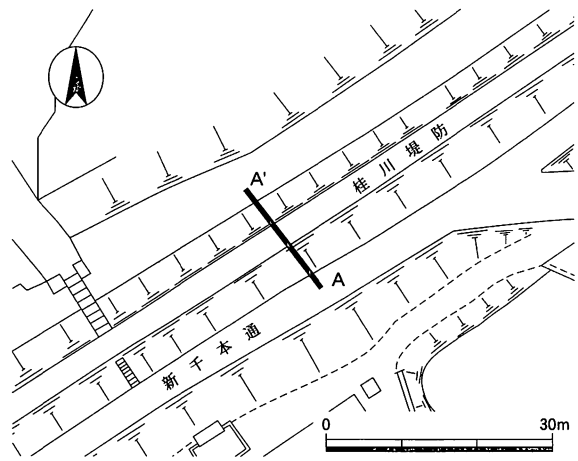


図46　断面図実測地点位置図（１：1,000）

A-A'間の基本層序は標高10.0m前後までが現代盛土層、現代盛土直下から石垣が検出され、石垣を挟んで北西部（桂川部分）と南東部（陸部）では堆積層が違う。北西部では7.35mまで南東から北西方向に傾斜を持つ砂礫と粘土の互層堆積となる。桂川の氾濫堆積と考えられる。7.35m以下は黄褐色砂泥の地山となる。南東部では8.52mまでに２層の堆積層があるが、遺物では時期の特定はできなかった。8.52mから8.09mで中世の遺物包含層、8.09mから7.45mでオリーブ褐色砂泥層、7.45m以下は黄褐色砂泥の地山となる。竪穴住居址は8.09mのオリーブ褐色砂泥の上面で検出した。

石垣は標高10.15mから8.54mの間で９段の石積みで北西を面として検出した。各石は高さ15㎝から30㎝、奥行き30㎝から40㎝大のものが使われている。幅は断面での観察なので不明である。石は上から２段目より下が北西方向に倒れかけいる。裏込は石垣より幅2.0mの厚みを持っており、埋土は砂泥層で栗石はほとんどみられない。遺物もほとんど検出できず、時期の特定には至らなかった。

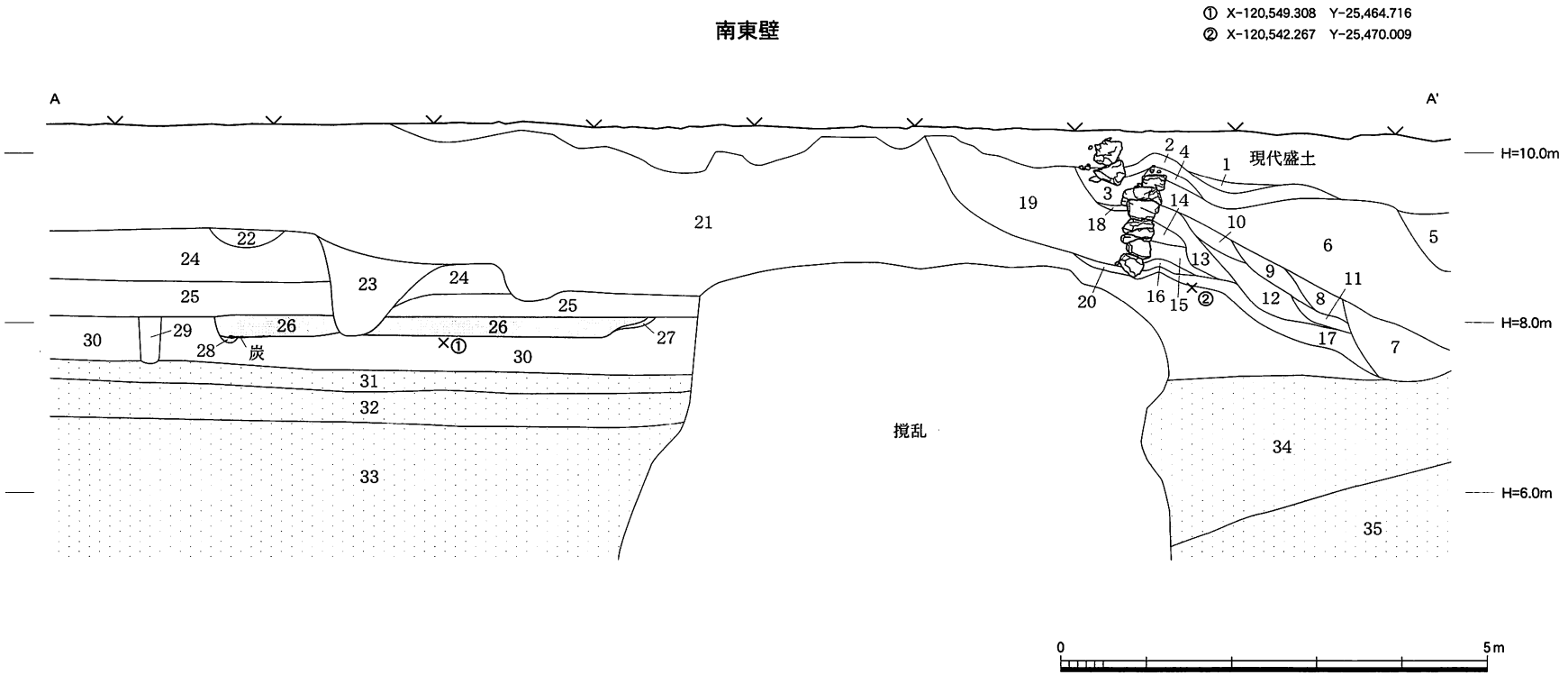


図47 A-A'間遺構断面図（1：80）

1	10YR4/1 褐灰色砂礫	13	10Y5/2 オリーブ灰色砂礫	25	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
2	10Y4/1 灰色粘土	14	2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土	26	2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥（竪穴住居跡）
3	10GY4/1 暗緑灰色砂泥	15	10YR6/4 にぶい黄橙色砂礫	27	7.5YR4/6 褐色砂泥（竈跡）
4	10Y5/2 オリーブ灰色砂礫	16	5GY4/1 暗オリーブ灰色粘土	28	7.5Y4/2 灰オリーブ色砂泥（壁溝）
5	10YR6/4 にぶい黄橙色砂礫	17	10Y4/2 オリーブ灰色砂礫	29	2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥（ピット）
6	2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土	18	10Y5/2 オリーブ灰色細砂	30	2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥
7	2.5GY5/1 オリーブ灰色砂礫	19	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂泥	31	10Y4/2 オリーブ灰色砂泥（地山）
8	10Y5/1 灰色砂礫	20	10Y4/2 オリーブ灰色砂礫	32	2.5Y5/3 黄褐色砂泥（地山）
9	10Y5/2 オリーブ灰色砂礫	21	5GY4/1 暗オリーブ灰色砂泥	33	10Y4/2 オリーブ灰色砂泥（地山）
10	10YR4/1 褐灰色砂礫	22	7.5Y5/2 灰オリーブ色砂泥	34	2.5Y5/3 黄褐色砂泥（地山）
11	2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土	23	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂泥	35	2.5Y5/3 黄褐色砂礫（地山）
12	7.5Y5/2 灰オリーブ色砂礫	24	7.5Y5/3 灰オリーブ色砂泥		

図48　石垣（北東から）

竪穴住居址は、幅5.18m、深さ0.23mを測る。南東壁際には幅0.2m、深さ0.08mの壁溝がある。壁溝上面から床面にかけて幅0.5mの範囲で薄く炭層が認められる。北西壁には壁溝はなく幅0.54m、高さ0.23m、厚さ0.1mで斜め方向に竈の痕跡の一部が認められる。貼り床は認められない。埋土からは飛鳥時代（７世紀中頃）の土師器椀・甕・甑、須恵器杯身の破片が出土している。

ま と め

今回調査した付近は長岡京の範囲内にあたるが、これまでそれ以前の遺跡の確認はなかった。検出した竪穴住居址は飛鳥時代のものであり、この地にこの時代の集落があったことを明確にした。新たな遺跡の範囲を確定するためにも、この付近の今後の調査に期待したい。

（吉本健吾）

註１　『水垂遺跡　長岡京左京六・七条三坊町　京都市埋蔵文化財研究所調査報告第17冊』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1998年

図49　竪穴住居址（北から）

3　上久世遺跡（08MK276）

調査経過（図50）

南区久世上久世町350、383-1で行われた共同住宅建築工事に伴う立会調査である。調査地は上久世遺跡の南西部分にあたり、調査地の北側では1994年に発掘調査[註1]、2007年に立会調査[註2]を行い弥生時代中期から古墳時代の竪穴住居跡などを検出している。

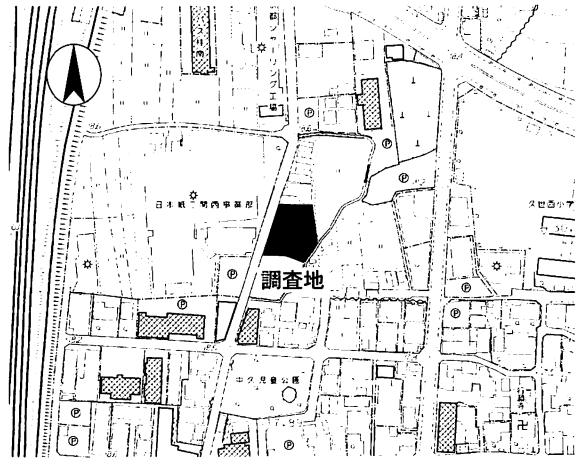


図50　調査位置図（１：5,000）

調査は2008年７月24日に試掘調査を行い、湿地状堆積から古墳時代前期（庄内式併行期）の遺物を検出した。立会調査は2008年11月５日から17日まで行い、奈良時代の遺物を含む南北方向の溝と弥生時代後期から古墳時代前期（布留式併行期）の遺物を含む湿地状堆積の肩部を検出した。

遺　構（図51～56）

調査地の基本層序は、BM-0.64mまでが現代盛土層、-0.64mから-0.88mまでが耕作土層、-0.88mから-1.08mまでが時期不明の包含層、-1.08mから-1.29mまでが平安時代の包含層、-1.29mから-1.74mまでが明褐色砂泥層、-1.74mから-2.04mまでが緑灰色砂泥層、-2.04m以下が緑灰色砂礫層である。南北方向の溝と湿地状堆積は-1.29mの明褐色砂泥層の上面で検出した。なお、明褐色砂泥層以下からは、遺物は出土していない。

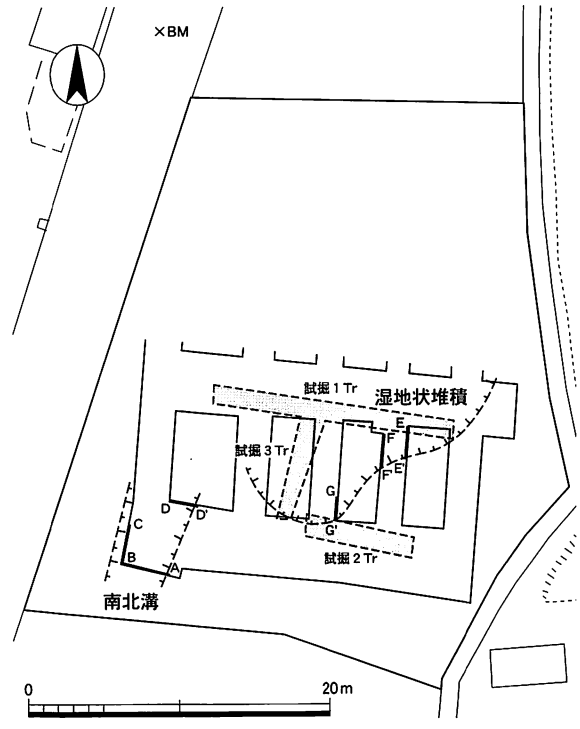


図51　遺構位置図（１：500）

南北方向の溝は調査地南西隅で検出した。工事掘削南壁（A-B）で溝の横断面を、西壁（B-C）では溝の方向に沿って検出した。またD-D'間で東肩の延長部を検出している。幅2.65m以上、深さ0.3mを測る。埋土は大きく２層に分層でき、上層からは奈良時代の甕が出土している。溝底からは護岸と考えられる杭が、杭跡も含めてA-B間で３本、B-C間で２本検出した。内１本は径0.1m、長さ0.65m以上を測る。溝の方向はA-B間とD-D'間で検出した東肩の位置や、B-C間の杭の並びの方向から実際には北北東から南南西の向きであると考えられる。

湿地状堆積は、試掘調査では肩部など確認できなかったが、立会調査では湿地状堆積の南肩を

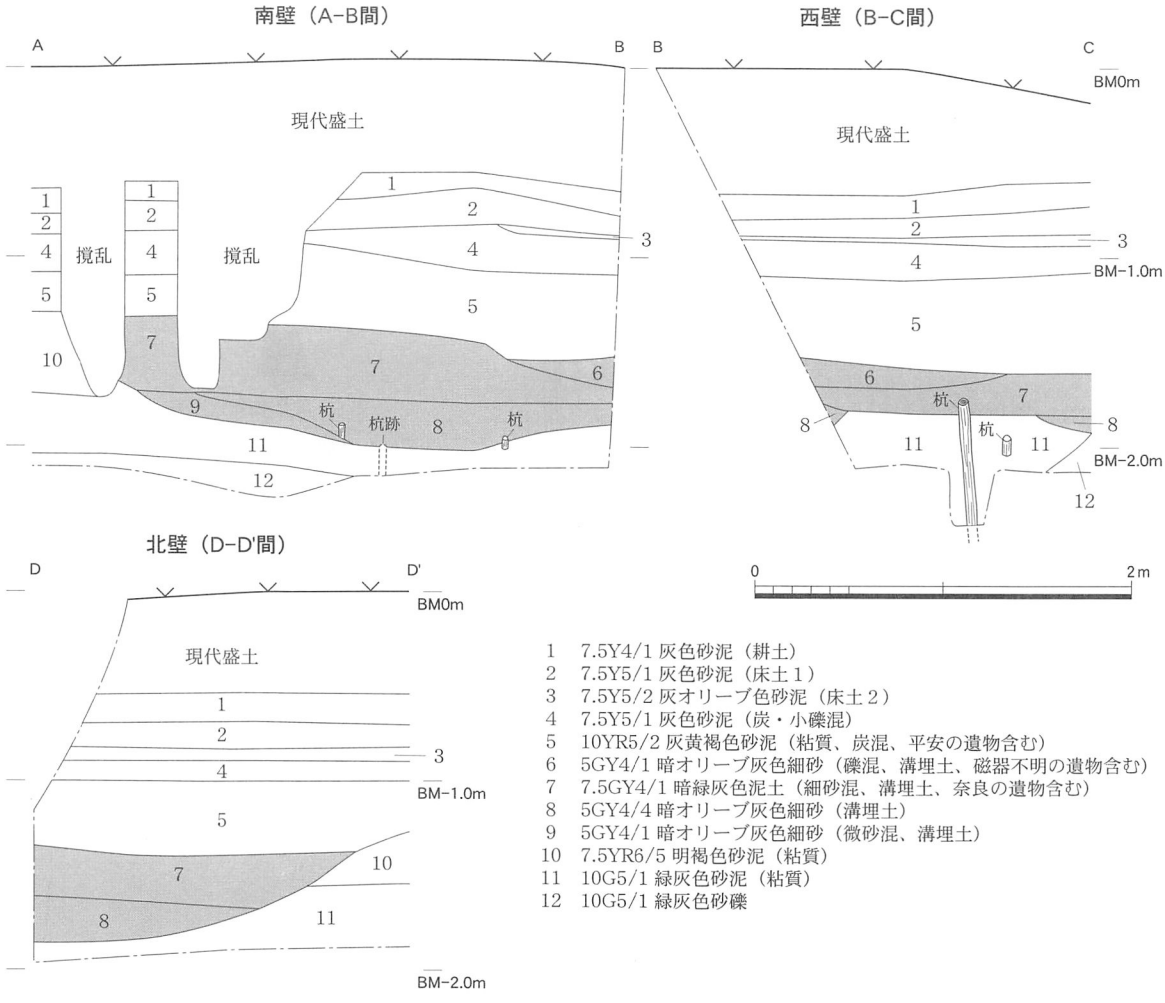


図52　南北溝断面図（１：40）

E-E'間、F-F'間、G-G'間の工事掘削断面で検出した。何れの地点も工事掘削によってBM-1.2mまで削平を受けていたが、平安時代の遺物を含む包含層の下層BM-1.3mで湿地状堆積を検出した。E-E'間では肩口の部分が上層の落込に切られているが1.56mの長さで0.44m下る傾斜を持っている。埋土は３層に分層することができ、上２層から遺物が出土している。特に上層からはまとまって多量に遺物が出土している（図56）。F-F'間は、南肩口から1.3mの長さで0.56m下る傾斜をもち、そこから北へ1.45mでは0.09m下るなだらかな傾斜となる。５層に分層することができ、上から３層には炭が多量に含まれている。遺物はすべての層から検出している。G-G'間では肩口に至る立ち上りの部分が工事掘削で削平されているが1.57mの幅で0.36m下る傾斜を持っている。埋土は３層に分層することができ、上２層から遺物が出土している。

図53　南北溝と杭（東から）

湿地状堆積の範囲は、工事掘削断面で湿地状

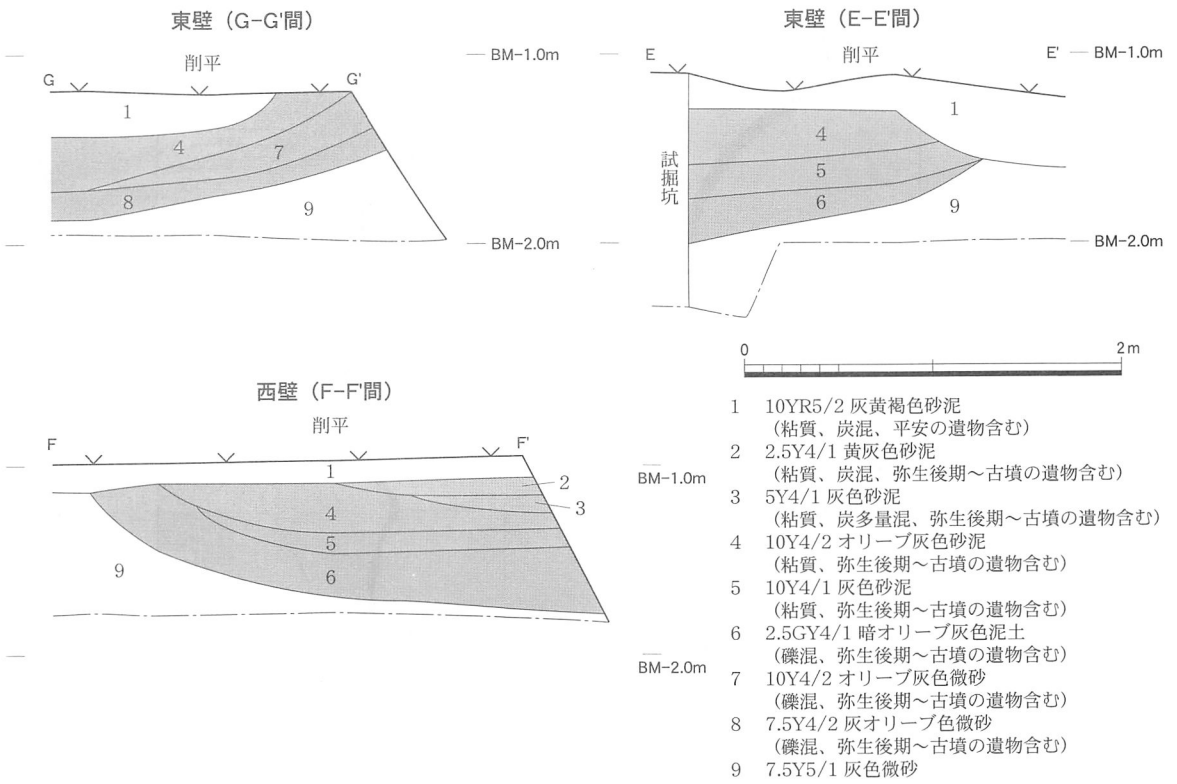


図54　湿地状堆積肩部断面図（１：40）

堆積の肩口を確認した地点、確認できなかった地点を総合すると、調査地でU字状に肩のラインが復元でき、北側に広がっていると考えられる。

湿地状堆積の埋土から出土した遺物は、弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）から古墳時代前期（布留式併行期）にかけてのものであり、大多数は古墳時代前期（庄内式併行期）に属する。布留式土器はF-F'間の４層から１点のみ出土している。また、試掘調査で検出した遺物は、E-E'間の北で検出したものである。

遺　物（図版28、図57）

遺物はすべて土器類で、湿地状堆積から弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）から古墳時代前期（布留式併行期）にかけてのもの、南北方向の溝から奈良時代、包含層から平安時代のものが出土し

図55　F-F'間肩部（東から）

図56　E-E'間肩部土器出土状況（西から）

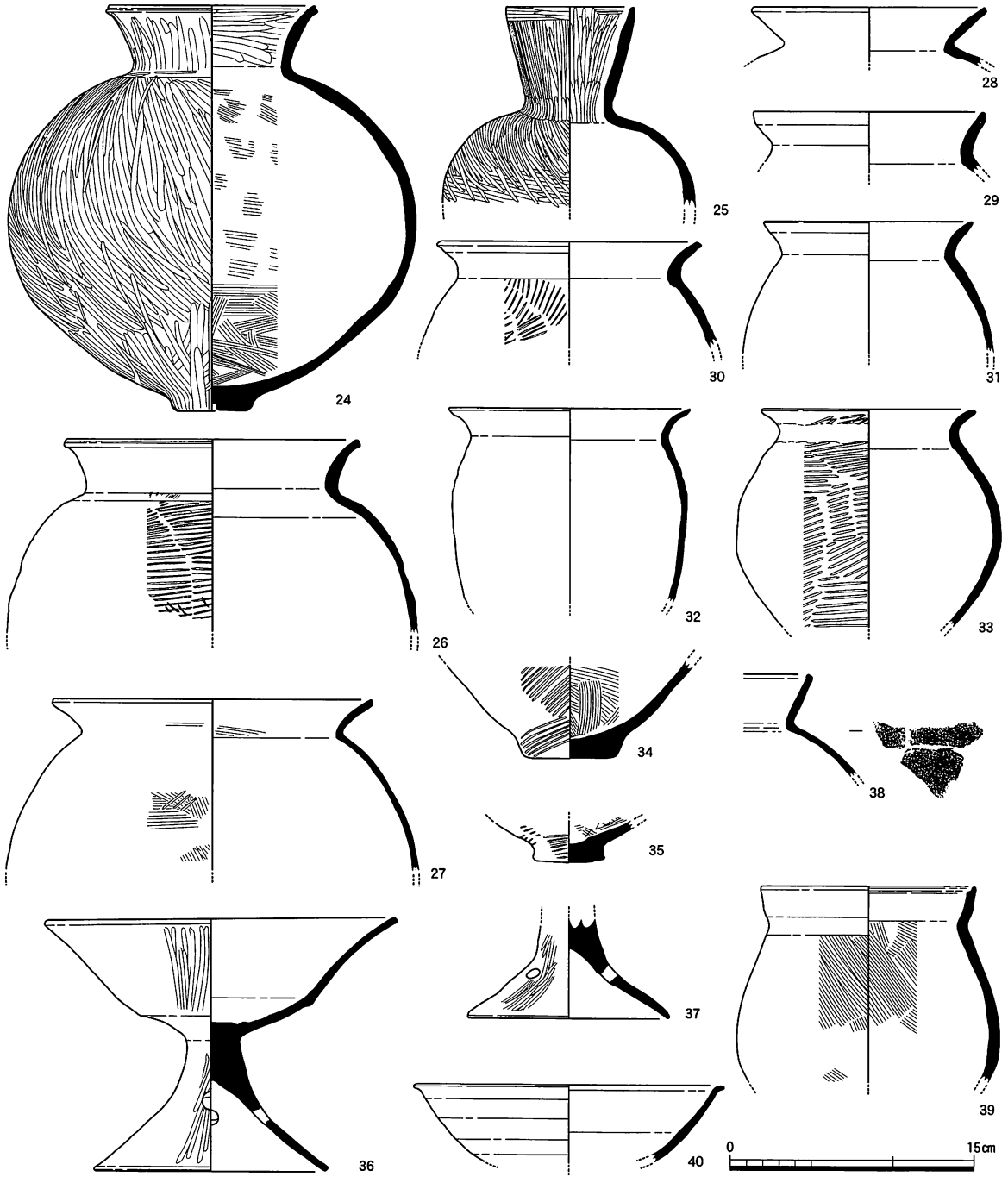


図57　出土遺物実測図（１：４）

ている。湿地状堆積からは多量の遺物の出土がみられたが、溝と包含層からは少量の出土にとどまった。

（24～38）は湿地状堆積から出土したものである。（24～37）は弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）から古墳時代前期（庄内式併行期）、（38）は古墳時代前期（布留式併行期）のものである。なお、試掘調査で出土した遺物は、E-E'間の北側が出土地点である。

壷（24）は口縁から胴部にかけてと胴部から底部にかけての破片に大きく分れ、接点は判然としないが胎土、調整などから同一個体である。口径12.5㎝、復元体部最大径25.0㎝、復元器高

24.85cmを測る。外面は口縁端部を除き全面にヘラミガキ調整を施し、内面は、口縁の部分がヨコ方向のヘラミガキ、胴部にはハケメ整形を施している。なお胴部中央部あたりから頸部にかけては、ハケメを消すようにナデ調整を施している。胎土は1㎜から3㎜大の砂粒を多量に含み、焼成は良好、色調はにぶい橙色（7.5YR6/4）である。E-E'間の4層から出土。

壷（25）は口縁部から胴部にかけて残存する長頸壷の破片である。口径は7.8cmを測る。外面は全面ヘラミガキを施す。内面は頸部にタテ方向のヘラミガキを施し、胴部はタテ方向のナデ調整を施している。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調はにぶい黄色（2.5Y6/3）である。E-E'間の4層から出土。

甕（26）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径は17.8cmを測る。口縁は内外面ともにナデ調整を施している。胴部外面はタタキメを施し、内面は磨滅が著しいが、ハケメ調整の後、ナデを施している。胎土は1㎜から7㎜大の砂粒を多量に含み、焼成は良好、色調は外面が灰黄色（2.5Y7/2）、内面が灰白色（10YR7/1）である。試掘調査で出土。

甕（27・28）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径は（27）が19.5cm、（28）が14.0cmを測る。全体に磨滅が著しく、調整痕は不明瞭であるが、胴部にはタタキメの後ハケメ調整が認められる。胎土には角閃石を含む。色調は（27）が暗オリーブ褐色（2.5YR3/3）、（28）は黒褐色（10YR2/2）である。（27）はG-G'間の4層から出土。（28）は試掘調査で出土。

甕形土器（29）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径は14.0cmを測る。全体に器面が荒れており、調整は不明瞭であが、一部外面の頚部付近にタタキメが確認できる。胎土は砂粒を多く含み、焼成は甘く、色調は赤褐色（5YR4/6）である。試掘調査で出土。

甕形土器（30）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径は15.8.0cmを測る。外面は口縁をヨコナデ調整、胴部はタタキメを施している。内面は器面が荒れており、調整は不明瞭。胎土は1㎜から5㎜大の砂粒を含み、焼成はやや甘く、色調はにぶい褐色（7.5YR6/3）である。試掘調査で出土。

甕形土器（31）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径は12.8cmを測る。内外面共に磨滅が著しく、調整は不明瞭。胎土は1㎜から4㎜大の砂粒を多量に含み、焼成は甘く、色調はにぶい褐色（7.5YR5/4）である。試掘調査で出土。

甕形土器（32）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径は14.7cmを測る。内外面共に磨滅が著しが、一部胴部外面にタタキメの痕跡が残る。胎土は1㎜から3㎜大の砂粒を多量に含み、焼成は甘く、色調は褐灰色（10YR4/1）である。試掘調査で出土。

甕（33）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径は12.75cmを測る。成形は、口縁叩出しによる技法によっているが、頚部の形成時に粘土紐を1条補填して成形している痕跡が明瞭に残る。内面の胴部は磨滅が著しく、調整は不明。胎土は1㎜から2㎜大の砂粒を含み、焼成は良好、色調はにぶい黄橙色（10YR7/6）である。E-E'間の4層から出土。

甕（34・35）は底部から胴部にかけての破片である。共に外面はタタキメを施し、内面はハケメ調整を行っている。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好、色調は（34）の外面が灰黄褐色

(10YR5/2)、内面は黒褐色（10YR3/1）である。（35）は外面が灰黄褐色（10YR6/2)、内面は暗緑灰色（5G4/1）である。（34）はE-E'間の４層から出土。（35）は試掘調査で出土。

高杯（36）は部分的な欠落があるがほぼ完形に復元できる。口径21.3cm、器高15.4cm、底径14.0cmを測る。杯部外面および脚部にヘラミガキが認められる。穿孔は４箇所認められる。胎土は１mmから３mm大の砂粒を多量に含み、焼成は甘く、色調はにぶい褐色（7.5YR6/3）である。試掘調査で出土。

高杯（37）は脚部の破片である。底径12.2cmを測る。内外面共に磨滅が著しいが、外面にヘラミガキが認められる。穿孔は３箇所認められる。胎土は砂粒を多く含み、焼成は甘く、色調はにぶい黄橙色（10YR6/4）である。E-E'間の４層から出土。

甕（38）は口縁部から胴部にかけての破片である。口縁は内外面にヨコナデを施す。胴部は外面が細かいハケメ、内面は頚部との境界よりやや下った以下にヨコ方向のヘラケズリを施す。胎土は砂粒を多く含み、焼成はやや甘く、色調はにぶい褐色（7.5YR5/3）である。F-F'間の４層から出土。

土師器甕（39）は口縁部から胴部にかけての破片である。口径13.0cm、体部最大径16.5cmを測る。口縁は内外面共にヨコナデを施し、胴部は内外面共にハケメを施す。胎土は３mm大の砂粒を含み、焼成はやや甘く、色調は暗緑灰色（5G4/1）である。A-B間の７層から出土。奈良時代である。

灰釉陶器椀（40）は口縁部から胴部にかけての破片である。推定口径18.5cmを測る。内外面共にヨコナデを施す。釉は微かにかかっている。胎土は精良、焼成は良好、色調は明緑灰色（5G7/1）である。D-D'間の５層から出土。平安時代である。

ま と め

今回の調査では奈良時代の南北溝と弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）から古墳時代前期（布留式併行期）の遺物を含む湿地状堆積を検出した。肩部に近い地点から多量の遺物が出土したことは、この湿地状堆積の南側に弥生時代後期（畿内第Ⅴ様式）から古墳時代前期（布留式併行期）かけての集落が存在していたことを想定させる。これは1994年の発掘調査[註1]、2007年の立会調査[註2]で検出した集落と湿地状堆積を挟み対岸に集落が存在したことになり、奈良時代の南北溝が南行していくのと共に上久世遺跡が南へ広がることや奈良時代まで集落が存続していたことを示唆している。

（吉本健吾）

註１　上村和直・出口勲「上久世遺跡」『平成５年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1996年

註２　吉本健吾「Ⅲ-2　上久世遺跡」『京都市内遺跡立会調査報告　平成19年度』京都市文化市民局　2008年

Ⅳ　主要な出土遺物

1　平安京左京三条三坊八町の出土遺物（08HL173）

古墳時代から平安時代の土器及び陶器類（図版28、図58～62）

中京区室町通押小路上る蛸薬師町284-4で行われた住宅建築工事に伴う立会調査で、古墳時代前期から平安時代前期の遺物を検出したので報告する。

調査地は地表下約-５mまで全面土壌改良を行うので、土壌改良前に調査地の西側を重機の掘削できる深さまで確認することになり、地表下-2.2mまで堆積層の確認調査を行った。基本層序は地表下-0.3mまで現代盛土層、-0.3mから-1.6mまでは桟瓦・漆喰を多量に含む近世以降の包含層、-1.6mから-1.7mまでは焼土・炭を含む暗褐色砂泥層、-1.7mから-1.9mまでは平安時代前期から中期の遺物が出土した包含層、-1.9mから-2.2mまでは古墳時代前期から後期の遺物が出土した包含層となる。

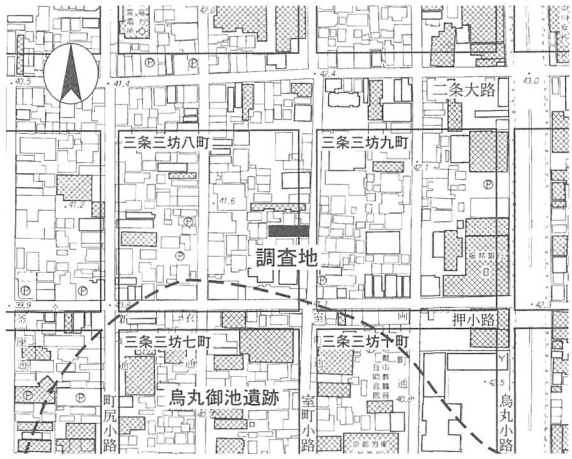


図58　調査位置図（１：5,000）

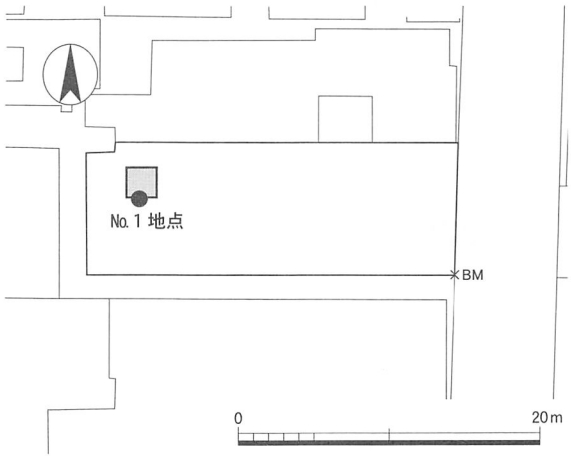


図59　No.1 地点位置図（１：500）

古墳時代前期から後期の土器

土師器甕（41）は口縁部のみの破片である。口縁部はヨコナデ調整行う。胎土には砂粒を含み、焼成はやや甘い、色調はにぶい橙色（7.5YR 7/4）を呈する。

土師器高杯（42）は杯部の破片である。磨滅が激しく明瞭ではないが、杯部内外面共にヨコ方向のヘラミガキを施している。胎土には約３㎝大の小石を含み、焼成は甘い、色調は橙色（5YR 6/8）を呈する。

土師器の小型丸底土器（43）はほぼ完形で出土した。口縁部はヨコナデ調整を行い、胴部外面はハケメを施し、内面は指オサエの後、整形を兼ねた強いヨコ方向のナデを行っている。胎

図60　No.１地点断面（北西から）

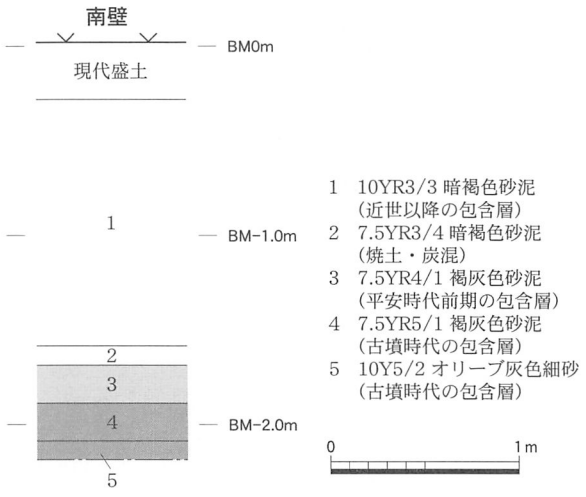


図61　No.１地点柱状断面図（１：40）

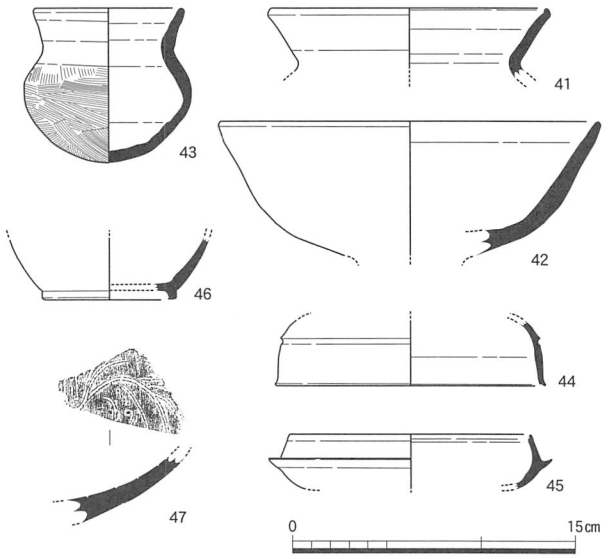


図62　出土遺物実測図（１：４）

土は砂粒、小石を多く含み、焼成は良好、色調は橙色（5YR6/6）を呈する。

須恵器蓋（44）は口縁部のみの破片である。口縁部はナデ調整を行う。胎土には砂粒を含み、焼成は良好、色調は暗紫灰色（5RP 4/1）を呈する。

須恵器杯身（45）は口縁部のみの破片である。口縁部はナデ調整を行う。胎土には砂粒を含み、焼成は良好、色調は灰色（N4/0）を呈する。

調査地は烏丸御池遺跡より約500m北にあたる。この地点からこれらの古墳時代の遺物が出土したことは、烏丸御池遺跡の範囲がこの地点まで北に拡大すると考えてよい。

平安時代前期の土器及び陶器

須恵器杯（46）は底部から杯部へかけての破片である。残存部分はすべてナデ調整。高台はケズリ出し後ナデ調整を施している。胎土には砂粒を含み、焼成は良好、色調は青灰色（5PB5/1）を呈する。

灰釉陶器鉢（47）は胴部の破片である。内外面共にナデ調整行う。内面には草木と思われる模様の線刻が描かれている。線刻は幅１㎜から1.5㎜、深さ0.5㎜から１㎜で、焼成前に施されている。胎土は精良、焼成は良好、色調は明緑灰色（N4/0）を呈する。

内面に線刻を施した灰釉陶器鉢は平安時代中期のものが、仁和寺境内の発掘調査で出土している。その線刻文様は内面底部に輪宝施し、廻りに梵字や花が飾られた仏教色の濃いものである[註1]。今回出土したものが、仏教に関連する文様かどうかは、破片があまりに小さく不明である。

（吉本健吾）

註１　百瀬正恒「遺物」『仁和寺境内発掘調査報告』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1990年

2　平安京右京九条一坊四町の出土遺物（08HR69）

古墳時代前期（庄内式併行期）の甕（図63～66）

南区新千本通東側、東寺西門通から九条通の間で行われた上水道配管工事に伴う立会調査で、古墳時代前期（庄内式併行期）の遺物を検出したので報告する。

検出地点は九条通の一本北の東西通との交差点の北東角で、基本層序は地表下-0.3mまで現代盛土層、-0.4mから-0.98mまでは湿地状の粘土層、-0.98mから-1.22mまでが遺物を検出した粗砂層、そして-1.38m以下がにぶい黄褐色粗砂層となる。

甕（48）は口縁の一部のみの破片である。口縁は受け口状を呈し、端部が強く外反している。胎土は砂粒を多量に含み、焼成はやや甘く、色調はにぶい橙色（7.5YR7/4）である。他には高杯・手焙形土器とみられる破片が出土している。

この地点には平安時代以前の遺跡はなく、検出した層が粗砂層であるので、流路の堆積層と考えられるので、いずれかの遺跡から流れてきたものとみられる。しかし、検出した遺物はあまりローリングによる磨耗を受けていないので、この付近に新たな庄内式土器併行期の遺跡が存在するのか、近辺の周知の遺跡からの流失遺物かは、今後のこの近辺の調査の課題である。

（吉本健吾）

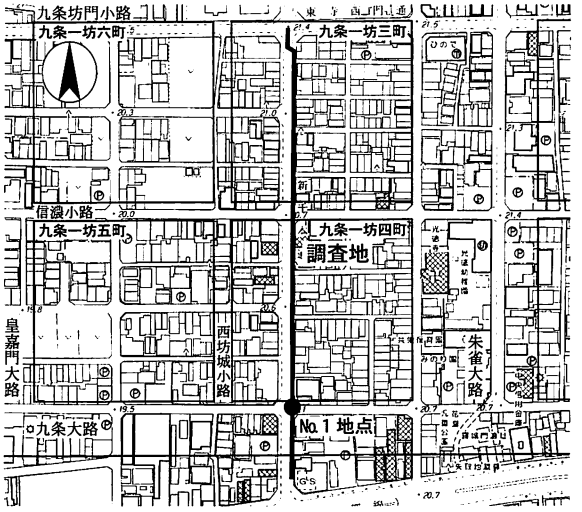


図63　調査位置図（1：5,000）

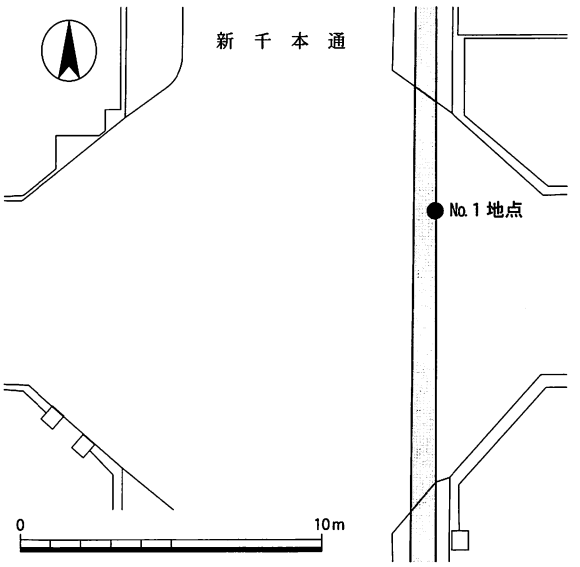


図64　No.1 地点位置図（1：250）

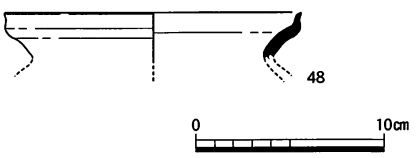


図65　出土土器実測図（1：4）

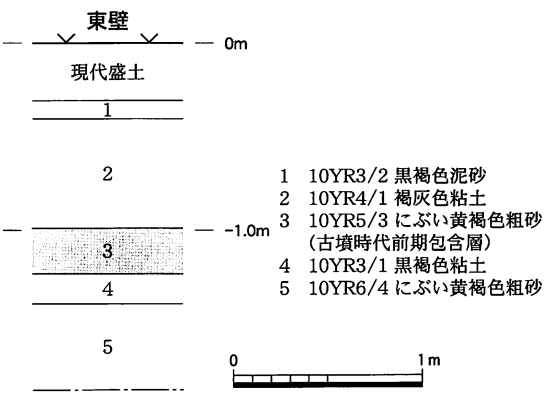


図66　No.1 地点柱状断面図（1：40）

調査一覧表

Ⅰ　2008年　1～3月期（平成19年度）

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省	上・千本通一条下る西側西中筋町19-72	2/14	-0.33mまで現代盛土。	07K474	HQ 379	1
大蔵省隣接地	上・一条通六軒町西入二丁目西今出川町411	2/21	-0.98mでにぶい黄褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07K472	HQ 392	1
大蔵省	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町656-46	1/30	-0.45mまで現代盛土。	07K395	HQ 369	1
大宿直	上・浄福寺通中立売下る菱丸町173　他	1/23・25	-0.12mで暗褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07K307	HQ 362	1
宴松原	上・七本松通下長者町下る三番町273-1、273-2、273-3、273-4、273-5	1/7	-0.15mまで現代盛土。	07K440	HQ 341	1
宴松原	上・六軒町通下長者町下る七番町330番19	2/21・29	-0.5mまで現代盛土。	07K499	HQ 393	1
縫殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町35-1、35-2	2/26	-0.06m、時期不明の焼土層。	07K500	HQ 398	1
造酒司	中・聚楽廻松下町11番21	2/12	-0.08mまで現代盛土。	07K497	HQ 375	1
豊楽院	中京区聚楽廻中町59-1他3筆、聚楽廻西町136-7他3筆	2/25～28、3/17・25・27、4/2、7/10	№1；-0.88m、平安～江戸以降の包含層（施釉陶器、平瓦）。-1.28m以下、黄褐色泥砂の地山。№2；-0.6m、平安～江戸以降の包含層（軒平・平・軒桟瓦）を検出。	07K079	HQ 396	1
大膳職	上・北伊勢屋町736-2	3/10	-0.36mで明黄褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07K480	HQ 409	1
兵部省	中・西ノ京内畑町32番11及び51番	1/11	-0.22mまで現代盛土。	07K378	HQ 348	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊　一町	上・大宮通今出川通～一条通他　地内	07/12/4～08/6/20	-1.0mで黄褐色粘土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H367	HL 322	2・21-2
北辺二坊　六町	上・堀川上之町他　地内	07/11/22～08/1/25	№6；-0.8m以下、暗オリーブ色砂礫の地山。№7；-0.8m、時期不明の包含層（土師器）。	07H241	HL 309	2・20-1
北辺四坊　一町	上・京都御苑3番地	07/12/21～08/2/5	№6；-0.5m、近世以降の包含層。№9；-0.15m、近世の包含層。	07H371	HL 337	3・20-1
一条二坊　二町	上・大宮通出水下る家永町775	1/15	№1；-0.7mで黒褐色泥砂を検出。№2；-0.74mで黄褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H451	HL 350	2
一条二坊　六町	上京区枡屋町　他地内	1/7・18	BM-4.65mまで現代盛土。	07H278	HL 342	2
一条三坊十五町	上・京都御苑438-1	1/22・3	-0.15mでオリーブ灰色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H439	HL 361	3
一条四坊　二町	上・京都御苑3番地	2/28～3/28	江戸後期の庭石、石列、路面を検出。**本報告3ページ。**	07H560	HL 401	3
一条四坊　十町	上・京都御苑2番地　大宮仙洞御所	07/11/19～08/1/8	東西方向の石組の溝を検出。**本報告7ページ。**	07H362	HL 301	3
二条四坊　一町	上・京都御苑3番地	1/15・18・22・31	№2；-0.3m、江戸の包含層（土製品伏見人形）。-0.92m、江戸前期の包含層（施釉陶器唐津皿、土師器）。　№3；-0.7m、近世以降の包含層。	07H349	HL 351	3
二条四坊十二町	中・富小路通御池上る守山町～富小路通夷川下る鍛冶屋町　地先	07/11/5～08/2/29	№3；-0.48m、近現代の包含層。-1.2m、時期不明の包含層（土師器）。№4；-0.3m、近代以降の包含層。	07H354	HL 289	3
三条三坊十一町	中・烏丸通御池下る虎屋町547番地他13筆	07/10/22・12/13、08/5/12	BM-3.6m、鎌倉～室町の湿地状堆積（土師器皿、焼締陶器常滑甕、須恵器甕、瓦器火鉢・鍋、施釉陶器瀬戸おろし皿）。	06H652	HL 272	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
四条三坊十四町	中・東洞院通錦小路上る元竹田町631番地2	07/11/30～08/1/30	-1.37m、時期不明の包含層（土師器）。-1.77m、江戸中期の包含層（土師器皿）。試掘調査済地点。	06H185	HL 319	5
四条四坊　二町	中・蛸薬師通東洞院東入御射山町282他地内（御射山公園）	3/10～28	-1.0mまで現代盛土。立会調査後、発掘調査。	07H543	HL 410	5
四条四坊　八町	中・三条通高倉東入る桝屋町54-1・54-2	1/15	-0.45mで焼土を含むにぶい黄褐色泥砂を検出。	07H435	HL 352	5
五条二坊　十町	下・油小路通、四条通～五条通　地内	2/5～7/2	№12；-1.14m、時期不明の包含層（土師器）。 №13；-0.16m～-1.22m、時期不明の路面9。 №14；-0.2m～-1.2m、時期不明の路面7。 №15；-0.3m～-1.26m、時期不明の路面7。 №18；-0.28m～-1.14m、時期不明の路面5。 №19；-0.3m～-1.1m、路面5。内-0.3mで時期不明の土師器、-0.42mで近世初頭の灰釉陶器皿、-0.84mで平安の須恵器甕と室町後期の瓦が出土。路面はそれぞれ油小路に位置する。	07H405	HL 372	4
六条三坊　三町	下・若宮通五条下る毘沙門町33-1、37-2	2/18	-2.9mまで現代盛土。	07H394	HL 385	5
九条二坊　四町	南・西九条南小路町1番地　他（京都市立九条中学校）	3/21	-0.8mで灰黄褐色粘土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H423	HL 418	6
九条二坊十五町	南・西九条鳥居口町～西九条院町 地先	07/8/20～08/12/18	-0.65m、時期不明の包含層（土師器）。	07H262	HL 204	6
九条二坊十五町	南・西九条北ノ内町12番、18番、鳥居口町1番、2番、4番1、4番2、院町25番、26番、26番2	07/4/16～08/12/18	№1；-0.7m、時期不明の包含層。-0.8m、中世の包含層。№7；-0.88m、時期不明の土坑（土師器、須恵器甕、瓦器）。№8；-0.23m、江戸の落込（染付椀、施釉陶器、木製品箸）。御土居の一部。	06H487	HL 014	6・7
九条二坊十五町	南・西九条鳥居口町　地先	1/15・18・21・31	-0.84mで黒褐色粘土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H465	HL 353	6
九条四坊　三町	南・東九条南山王町10番地	2/7・8	№1；-1.1m以下、褐灰色粗砂の地山。№2；-1.0m、中世の包含層（土師器、瓦器把手付鍋）。	07H322	HL 373	7
九条四坊十二町	南・東九条河西町7番1の一部、7番3	2/8	-0.8mでにぶい黄褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H446	HL 376	7

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊　一町	上・一条通御前西入大東町84番18	1/8	-0.2mまで現代盛土。	07H383	HR 344	9
北辺二坊　三町	上・一条通紙屋川下る西町184番地西町公園	1/11・15、2/7	掘削深-2.0mまで現代盛土。	07H390	HR 349	9
北辺二坊　五町	北・大将軍川端町3番の一部	3/10	-1.26mまで現代盛土。	07H490	HR 413	9
北辺二坊　八町	北・大将軍西町193、197の一部、198の一部	3/26～5/28	№1；-1.26m、江戸後期の包含層（施釉陶器）。 №2；-1.26m、時期不明の包含層（土師器）。 №4；-0.9m以下、黄橙色粘土の地山。 №6；-0.42m、江戸後期の土坑（施釉陶器）。	07H303	HR 423	9
二条二坊　一町	中・丸太町通南側、西大路通～御前通地内	07/11/26～08/4/16	№4；-1.2m以下、緑灰色粘土の地山。 №5；-1.2m以下、浅黄色粘土の地山。	07H281	HR 313	9
三条一坊十六町	中・西ノ京船塚町7番地の1	3/4	鎌倉の西大宮大路の路面を検出。本報告17ページ。	07H479	HR 407	9
三条四坊十三町	右・山ノ内西八反田町	1/23～2/8	-2.5m以下、黄褐色粘土の地山。	07H397	HR 363	8
六条四坊十三町	右・西院月双町～西京極北裏町　地内	07/11/19～08/11/10	№4；-1.0m以下、明黄褐色砂礫の地山。 №18；-1.63m、時期不明の包含層（須恵器壺）。-2.03mで時期不明の包含層（土師器、須恵器）。 №20；-2.13mで時期不明の包含層（土師器）。	07H242	HR 302	10・12
六条四坊十六町	右・西京極葛野町4番地	1/28～9/12	-0.4mまで現代盛土。試掘調査済地点。	07H137	HR 367	10
七条三坊十四町	右・西京極宮ノ東町～西京極三反田町地先	1/15～2/28	-0.9mで褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H464	HR 354	12
八条一坊　七町	下・西七条東久保町55-58	2/20・21	-0.2mまで現代盛土。	07H417	HR 391	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八条四坊十三町	右・西京極橋詰町～吉祥院新田弐ノ段町 地内	07/2/19～08/9/5	-0.6m～-1.0m、時期不明の路面５。-1.25m以下、褐色砂礫の地山。	07H268	HR 387	12
九条二坊十六町	下・七条御所ノ内南町4番、5番の各一部	3/31	-0.2mまで現代盛土。	07H442	HR 426	13
九条三坊 四町	南・吉祥院中島町110 新幹線高架下	1/15・18	-1.2mまで現代盛土。	07H273	HR 355	12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
八幡古墳群	左・岩倉幡枝町	07/12/3～08/4/25	№２；-1.4m以下、暗オリーブ色粗砂の地山。№３；-0.95m以下、明黄褐色泥土の地山。	07S296	RH 320	23-1
角社瓦窯跡	北・西賀茂角社町145番の一部	2/29	-0.20mで褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S553	RH 404	20-3
角社瓦窯跡	北・西賀茂角社町145番の一部	2/29	巡回時、工事終了。	07S552	RH 403	20-3
植物園北遺跡	北・上賀茂南大路町35番	3/21・24	-0.16mで褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S466	RH 419	21-1
植物園北遺跡	北・上賀茂蝉ヶ垣内町46-1、46-3	1/25	-0.55mで古墳の包含層（須恵器杯身）。-0.98m以下、黄褐色泥土の地山。	07S326	RH 365	21-1
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町他 地内	3/6～6/13	№３；BM-0.23m・-0.56m、古墳の包含層（土師器）２。№４；BM-0.1mで弥生～古墳の包含層を切って時期不明の土坑（土師器高杯、瓦）。№５；BM-0.12m、弥生～古墳の土坑。-0.31m以下、褐色泥土の地山を検出。№６；-0.6mで古墳の包含層（土師器）。№７；-1.1m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山を検出。№９；BM-0.56m、弥生～古墳の落込（土師器高杯）。№11；-0.66m、古墳時代の包含層（土師器）。№12；-0.72mで時期不明の包含層（土師器）。	07S564	RH 408	21-1
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町57、58、58-2の一部	3/4～18	-0.76m以下、黄褐色泥土の地山。	07S528	RH 406	24-1
世尊寺跡・上京遺跡	上・紋屋町 地内	1/28・30・31	-1.76mまで現代盛土。	07S399	RH 368	21-2
上京遺跡	上・今出川通大宮東入元伊佐町～五辻通大宮東入西石屋町 地先	07/12/5～08/2/1	-0.34mでオリーブ黒色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S413	RH 325	21-2
上京遺跡	上・大宮通一条上る西入栄町647	2/28、3/3	-0.5mで江戸の包含層（染付椀）。	07S441	RH 402	21-2
上京遺跡	上・橘町 地内	1/21・22	№１；-0.6m、時期不明の包含層（須恵器杯）。№２；-0.9m以下、明黄褐色粘土の地山。	07S398	RH 360	21-2
上京遺跡	上・西船橋町332、329	1/21・22・30・31、2/1・4	№１；-0.75m・-0.92m・-1.16m、江戸の包含層（土師器皿・焙烙、緑釉陶器、施釉陶器灯明皿・京焼、白磁、瓦）３。№２；-1.0m・-1.14m、時期不明の包含層（土師器）２。-1.27mで明黄褐色粘土の地山を切って平安後期のピット（土師器皿）と時期不明のピット（土師器）。№３；BM-1.17mでにぶい黄褐色粘土の地山を切って鎌倉の落込（土師器皿、瓦器椀）。	07S075	RH 359	20-1
上京遺跡・寺ノ内旧域	上・上立売通堀川東入堀之上町8-2	3/26・27・4/1	-0.9mまで現代盛土。	07S403	RH 420	20-1
公家町遺跡	上・京都御苑15番	07/12/5～08/2/5	-0.4mで暗褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S113	RH 323	20-1
公家町遺跡	上・京都御苑3番地	1/10・11	-0.57mで褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	06H666	RH 346	20-1

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
嵯峨院跡	右・北嵯峨北ノ段町～北嵯峨山王町地先	07/10/10～08/4/2	-025mで明黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の落込（土師質土製品）。	07S309	UZ 263	24-3
嵯峨北堀町遺跡・嵯峨遺跡	右・嵯峨天竜寺今堀町他	2/14～29、3/7・13	-0.22m以下、明黄褐色泥土の地山。	07S433	UZ 380	24-4
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺今堀町他	1/30・31、2/4～29、3/7・13	№1；-0.47m以下、黄褐色砂泥の地山。 №3；-0.30m、時期不明の包含層（土師器）。 №8；-0.34m、時期不明の包含層（土師器）。	07S351	UZ 370	24-4
音戸山古墳群	右・太秦三尾町1-213の一部	07/12/11～08/2/18	-0.24mまで現代盛土。	07S288	UZ 329	24-5
名勝龍安寺庭園	右・龍安寺御陵ノ下町13-1	07/11/8～08/4/28	№1；-0.15m、時期不明の路面。-0.24m、近世以降の包含層。№3；-0.3m、近世以降の包含層。№27；-0.08m、時期不明の石敷遺構。	19N029	UZ 288	24-6
和泉式部町遺跡	右・太秦森ヶ西町～太秦森ヶ前町地先	07/12/5～08/2/20	№3；-0.95mで黄橙色砂泥を検出。 №13；-0.67mでにぶい黄褐色砂礫を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S386	UZ 326	16
太秦馬塚町遺跡	右・太秦中筋町12-2	2/25・29	-1.32m以下、灰白色粘土の地山。	07S427	UZ 397	16

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一乗寺向畑町遺跡・向畑古墳隣接地	左・白川通西側、北山通～北大路通地内	2/19～4/21	№2；-0.3m以下、オリーブ黄色細砂の地山。 №10；-0.73m以下、にぶい黄色粗砂の地山。	06S402	KS 388	25-1
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎徳成町11番8	3/10	-0.5mまで現代盛土。	07R453	KS 411	17
法勝寺跡・岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町75-2、74-5番地の一部	3/12	-0.36mで暗褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07R532	KS 414	17
法勝寺跡・岡崎遺跡	左・岡崎法勝寺町　岡崎公園内	2/12・18・25、3/3・10・17・24	№1；-0.36mで灰色粗砂を検出。 №3；-0.60mで暗オリーブ褐色砂泥を検出。 №4；-0.30mで暗褐色細砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07R509	KS 378	17
岡崎遺跡・白河街区跡	左・岡崎円勝寺町124番地	3/17・18・21・24	-0.34mまで現代盛土。	07R510	KS 415	17
白河街区跡	左・仁王門通新高倉東入北門前町474-1、474-3、475-1他	07/6/12～08/12/18	-0.5m、時期不明の包含層（土師器）。	07S116	KS 101	17

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
寺町旧域	中・新京極桜之町453	2/26・27	-0.88m、灰黄褐色粗砂の氾濫状堆積。	07S140	RT 399	18
法住寺殿跡	東・今熊野日吉町59-1	2/27～6/30	-1.8m以下、明黄褐色粘土の地山。	07S337	RT 400	18
法住寺殿跡	東・大和大路通七条下る四丁目本池町530、531	2/14・25	巡回時、工事終了。	07S493	RT 382	
法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡	東・茶屋町527	1/15・18・21	-0.43m、近世以降の包含層。	07S459	RT 356	18
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町105番	1/23	BM-1.35mまで現代盛土。	07N389	RT 364	23-3
中臣遺跡	山・栗栖野打越町18番16	1/28・30	-0.88m以下、明黄褐色砂泥の地山。	07N450	RT 366	23-3
中臣遺跡	山・東野舞台町77-2	2/4	掘削深BM-1.43mまで現代盛土。 試掘調査済地点。	07N402	RT 371	23-3
中臣遺跡	山・栗栖野華ノ木町1-1、1-8	2/15	-0.24mまで現代盛土。	07N485	RT 384	23-3
中臣遺跡・中臣十三塚	山・栗栖野打越町　他地内	07/7/31～08/5/1	-1.7m以下、黄褐色砂礫の地山。	06N654	RT 193	23-3

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	南・上鳥羽火打形町41-4、44番地	2/22、3/5	-1.36m以下、明黄褐色砂泥の地山。	07T478	TB 395	22-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・竹田浄菩提院町62の一部	1/7	-0.6mまで現代盛土。	07T393	TB 343	22-1

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
深草寺跡	伏・深草田谷町1他4筆、西伊達町3他3筆、直違橋町5丁目318	3/18	№1；-0.7mで灰褐色泥土を検出。№2；-1.06mで黄灰色細砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S484	FD 417	25-8
板橋廃寺・伏見城跡	伏・御駕籠町97番地他（京都市立伏見中学校）	2/7	-0.6mで黒褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07F421	FD 374	14
伏見城跡	伏・桃山水野左近東町19番地	3/31～4/14	-0.2m以下、明褐色泥土の地山。	07F516	FD 425	14
伏見城跡	伏・平野町64番1	2/29	-0.24mまで現代盛土。	07F518	FD 405	14
伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏・桃山長岡越中北町～桃山町永井久太郎　地内	07/11/26～08/7/7	-0.76m以下、黄褐色粘土の地山。	07F157	FD 317	14・15-1
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷400	3/11	BM+1.43m～+0.43mまで現代盛土。	07F498	FD 412	15-1
伏見城跡	伏・桃山町正宗49-11	1/8	BM-1.15m以下、明褐色泥土の地山。	06F355	FD 345	15-1
伏見城跡	伏・深草大亀谷五郎太町25　他3筆	07/11/26～08/6/30	-0.15mでオリーブ褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07F366	FD 314	15-1
伏見城跡	伏・桃山町遠山103番地12	2/18・19・22・25	№1；BM+6.38m以下、灰白色泥土の地山。№3；BM-0.10m以下、黄橙色砂泥の地山。	07F260	FD 386	15-1
がんぜんどう廃寺	伏・深草谷口町69-1の一部、69-3の一部、69-4一部、88の一部	07/10/9～08/2/7	BM+6.04m以下、にぶい黄橙色細砂の地山。	06S713	FD 259	15-2

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺三坊八町・中久世遺跡・下久世構跡・下久世城跡・大藪遺跡・戌亥遺跡	南・久世殿城町～久世東土川町　地先（一般国道171号）	2/14・15・19・20・21・22・25・29、3/3・4・5・13	-1.7mまで現代盛土。	07NG513	NG 377	23-4
左京一条三坊五町・鶏冠井遺跡	南・久世東土川町　地先（一般国道171号）	2/19～3/10	巡回時、工事終了。	07NG514	NG 389	19
左京二条四坊八町	南・久世東土川町386	1/15	BM-0.6m、耕作土。	07NG401	NG 357	19
左京二条四坊一町・東土川遺跡	南・久世東土川368番地1	3/17	-1.04m以下、にぶい黄橙色粘土の地山。	07NG375	NG 416	19
左京三条三坊十六町	伏・久我西出町4番6、4番7、4番40	2/21～6/24	-1.78mまで現代盛土。	07NG437	NG 394	19
左京四条二坊十五町・芝ヶ本遺跡	伏・羽束師菱川町　地先（一般国道171号）	2/14・15・19・20	-1.3m以下、灰色泥土の地山。	07NG515	NG 383	19
左京四条三坊十三町	伏・羽束師菱川町53番1の一部	1/17	-0.84mまで現代盛土。	07NG376	NG 358	19
左京四条四坊十町	伏・久我西出町　地内	2/14～19	-0.88m以下、暗緑灰色粘土の地山。	07NG463	NG 381	19
左京八条四坊三町	伏・納所町　地先	07/6/4～08/1/30	江戸の桂川堤防護岸の石垣の断面を検出。飛鳥の竪穴住居址を検出。本報告24ページ。	06NG495	NG 087	22-2
左京九条四坊五町	伏・葭島渡場島町32他	07/10/30～08/5/23	-0.8m以下、泥土・細砂・粗砂・粘土の互層の氾濫状堆積。	07NG211	NG 284	22-2

南桂川地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中久世遺跡	南・久世中久世町三丁目～久世殿城町地先	07/12/21、08/1/7・8・9・10・11・16・18・21・25・28・30・31、2/1	№1；-1.0m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。 №2；-0.6m、平安の包含層（須恵器甕）。 №9；-0.44m、弥生の土坑（弥生土器甕=Ⅳ様式）。 №12；-0.48m以下、褐色粘土の地山。 №13；-0.34m、時期不明（土師器、須恵器）の包含層。-0.56m、鎌倉の土坑（弥生土器=混入、土師器皿、須恵器壺、瓦器椀）。	07S415	MK 339	23-4
中久世遺跡	南・久世殿城町～久世中久世町三丁目地先	1/10～30	巡回時、工事終了。	07S400	MK 347	23-4
中久世遺跡	南・久世川原町～久世殿城町　地先（一般国道171号）	2/19～3/5	-1.6mまで現代盛土。	07S512	MK 390	23-4
中久世遺跡	南・久世殿城町143番2の一部	3/28・31	-0.2mまで現代盛土。	07S377	MK 424	23-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-209の一部　1号地	3/25～27	-0.44mまで現代盛土。	07S549	MK 421	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-209の一部　2号地	3/26・28	-0.4mまで現代盛土。	07S550	MK 422	26-7
大原野神社遺跡	西・大原野南春日町1152-1　地内	12/25～1/7	-0.1m以下、黄褐色砂礫の地山。	07S341	MK 340	26-8

Ⅱ　2008年　4～12月期（平成20年度）

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵省	上・七本松通一条下る三軒町74番地	12/15	-0.15m以下、黒色砂泥の地山。	08K353	HQ 327	1
大蔵省	上・仁和寺街道六軒町西入四番町109番地1	6/9	巡回時、工事終了。	08K037	HQ 079	1
大蔵省	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町656-25、656-26の一部	5/8	-0.3m、時期不明の包含層。	07K575	HQ 050	1
大蔵省	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町661-21、661-22	5/26	-0.28mで暗褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	08K040	HQ 064	1
大蔵省	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町661-1、661-16	6/13	-0.4mまで現代盛土。	08K065	HQ 085	1
大蔵省	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町　地先	9/22	-0.75mまで現代盛土。	08K285	HQ 214	1
大蔵省	上・仁和寺街道千本東入西富仲町470-41	10/20・21	-0.4m・-0.55m、近世以降の包含層２。	08K271	HQ 255	1
主殿寮	上・智恵光院通中立売上る新白水丸町　地先	7/3・4・7	-1.1mまで現代盛土。	08K158	HQ 105	1
主殿寮	上・裏門通中立売上る今新在家町206-12	9/16	-0.15mまで現代盛土。	08K221	HQ 203	1
茶園	上・新白水丸町462-42	4/18	-0.30m、江戸の包含層。	07K511	HQ 033	1
茶園	上・中立売通日暮東入新白水丸町462番地82	4/28・30	BM-0.82mで黄褐色砂泥を検出。試掘調査済地点、近世の遺構を検出。	08K003	HQ 041	1
宴松原	上・七本松通下長者町上る三番町257-6	7/29・30	-0.12mまで現代盛土。	08K107	HQ 136	1
宴松原	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町255-32の一部	9/30	-0.3mまで現代盛土。	08K251	HQ 234	1
宴松原	上・下長者町通七本松西入鳳瑞町255-50、255-32の一部	9/30	-0.3mまで現代盛土。	08K250	HQ 235	1
縫殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町48	6/25・26	-0.8m、近世の包含層（焼締陶器擂鉢）。-1.05m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	08K119	HQ 096	1
縫殿寮	上・下長者町通裏門西入坤高町82番、85番2	8/5～8・11	№１；-0.4m、近世以降の包含層。-0.7m、近世の落込。 №２；-1.05m、平安の包含層（須恵器甕）。	07K081	HQ 153	1
縫殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御幸町50	11/21	-1.0m、江戸の包含層（土師器皿）。-1.2m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08K377	HQ 304	1
左近衛府	上・出水通大宮西入清元町751-2	12/9	-0.2mまで現代盛土。	08K222	HQ 325	1
職御曹司	上・多門町、山本町	7/1～3・7～9・11・14	-1.0mで黄褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07K608	HQ 101	1
職御曹司	上・中立売通智恵光院東入多門町～智恵光院通下長者町下る山本町　地先	7/22	-0.9mで褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	08K101	HQ 128	1
職御曹司	上・智恵光院通出水上る天秤丸町183番他	8/1・4～6	-0.92m、時期不明の包含層（土師器）。-1.36m以下、黄褐色砂泥の地山。試掘調査済地点。 聚楽第南二之丸西濠を検出。	07K420	HQ 142	1
内裏	上・下立売通千本東入田中町465、463、461-1	6/2・3・4・5	-1.22mまで現代盛土。	08K061	HQ 068	1
左兵衛府	上・下立売通大宮西入浮田町608-1	8/4	-0.5mまで現代盛土。	08K014	HQ 146	1
左兵衛府	上・日暮通下立売上る天秤町597-2、下立売通日暮西入中村町549-2	11/10	-0.25mまで現代盛土。	08K351	HQ 281	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町7-22	6/11	-0.4mまで現代盛土。	07K533	HQ 080	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町6番14	12/12	-0.17mまで現代盛土。	08K372	HQ 326	1
典薬寮	中・西ノ京車坂町～聚楽廻松下町　地先	9/1～10/20	№２；-0.5m以下、黄褐色微砂の地山。 №５；-0.5m以下、オリーブ褐色砂礫の地山。	08K260	HQ 190	1
豊楽院	中・聚楽廻南町～聚楽廻中町　地先	7/30、8/6・11	-0.7mで暗褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	08K207	HQ 138	1
豊楽院	中・西ノ京内畑町～聚楽廻南町　地先	8/20、9/1	-0.6mで灰黄褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	08K208	HQ 172	1
朝堂院	上・竹屋町通千本東入主税町1185、1186、1184	9/29、10/6	-1.18m以下、褐色砂泥の地山。	08K070	HQ 231	1
朝堂院	中・聚楽廻東町9番3	11/17	-0.3mまで現代盛土。	08K292	HQ 291	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
朝堂院隣接地	上・千本通下立売下る小山町908-67	11/17・20	-0.5mで黄褐色粘土を検出。-0.7mでオリーブ褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	08K219	HQ 290	1
陰陽寮	上・千本通二条下る東入主税町979番	8/18	-0.6m、平安の包含層（須恵器蓋、丸・平瓦）。	08K156	HQ 163	1
主水司	上・竹屋町通千本東入主税町1111番	12/16	-0.2mまで現代盛土。	08K357	HQ 329	1
大膳職	上・松屋町通丸太町上る三丁目665	10/10～20	-0.2m、近世以降の包含層。	08K273	HQ 251	1
大炊寮	上・松屋町通丸太町下る藁屋町　地先	9/18～10/8	-0.3m、近世以降の包含層。	08K299	HQ 209	1
大炊寮	上・丸太町通黒門東入藁屋町535-117	11/28	-0.25mまで現代盛土。	08K375	HQ 309	1
御井	中・西ノ京車坂町15番地	4/2・3	-0.5mまで現代盛土。	07K526	HQ 005	1
御井	中・西ノ京車坂町 14番12、14番13、14番17	7/10	巡回時、工事終了。試掘調査済地点。	08K087	HQ 113	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町10-4	8/8	-0.25mまで現代盛土。	08K206	HQ 158	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町1-14の一部（1号地）	11/20	-0.2mまで現代盛土。	08K297	HQ 301	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町1-14の一部（3号地）	11/20	-0.3mまで現代盛土。	08K296	HQ 300	1
式部省隣接地	中・西ノ京小堀町2-63	7/10	-0.2mまで現代盛土。	07K594	HQ 112	1
兵部省	中・西ノ京内畑町43-2	9/22	-1.09mまで現代盛土。	07K428	HQ 215	1

平安京左京（HL）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条二坊十三町	上・西洞院通下立売下る東裏辻町402番地（京都まなびの街生き方探求館）	8/1	-1.7mまで現代盛土。	08H112	HL 144	2
一条三坊　六町	上・室町通出水下る勘解由小路町164-2	6/16・17・18・19・20	-0.44m、近代の包含層。-0.6m、時期不明の東西方向の石組遺構。	08H100	HL 086	3
二条三坊　二町	中・釜座通丸太町下る枡屋町147番地	4/16・17・18・22	-1.16m、江戸中期の包含層（施釉陶器信楽甕）。-1.26m、江戸前期の包含層（土師器皿、土師質土器焙烙、壁土）。	07H444	HL 030	3
二条三坊十一町	中・両替町通夷川上る松竹町135番	8/26・27	-0.3mで近世以降の包含層。	08H218	HL 185	3
二条三坊十二町	中・夷川室町東入巴町90-1、 両替町通二条上る北小路町94-1	11/6・10	-1.9mまで現代盛土。	08H326	HL 277	3
二条三坊十二町	中・両替町通二条上る北小路町 104番の一部、106番、107番地	11/25・26	-0.4mまで現代盛土。	08H286	HL 305	3
二条四坊　四町	中・間之町通二条上る夷町575	8/5～8・21	№3；-0.7m、近世以降の瓦溜。-2.2m、江戸の包含層（土師器）。-2.5m、平安～中世の湿地状堆積（須恵器蓋、土師器皿、焼締陶器）。	08H166	HL 154	3
二条四坊　六町	中・堺町通夷川上る絹屋町 123番、124番	7/24、8/5～8・11・18～20・22	№1；-1.4m、近世の包含層。-1.9m以下、黄褐色細砂の地山。№2；-1.64m以下、黄褐色砂礫の地山。№3；-1.5m、時期不明の包含層（土師器）。-2.3m以下、灰オリーブ色砂礫の地山。№4；-0.4m、近世以降の包含層。-0.45m、時期不明の包含層。	07H563	HL 131	3
二条四坊　七町	中・堺町通竹屋町上る橘町82番2	4/11・14・18	№1；-0.74m、江戸後期の包含層（土師器皿、焼締陶器擂鉢）。№2；-1.34m・-1.68m・-1.94m、江戸後期の包含層（施釉陶器京焼胡麻炒り、施釉陶器狐人形台座、焼締陶器信楽甕、染付）3。№3；-1.48m以下、にぶい黄褐色粗砂の地山。	07H432	HL 019	3
二条四坊十三町	中・寺町通二条上る要法寺前町 714-1、713-3	9/24～10/3	-1.0m、時期不明の包含層。	08H052	HL 220	3
二条四坊十五町	中・麩屋町通竹屋町上る舟屋町422	8/29、9/2・4	-0.7m、近世以降の包含層。-1.16m、近世の包含層。	07H587	HL 187	3
三条一坊十一町	中・西ノ京池ノ内町27	9/22・24・25・29	№1；-1.1m、暗オリーブ灰色砂泥の湿地状堆積。-1.47m以下、褐色砂礫の地山。№2；-1.03m、近世以降の包含層。	08H171	HL 216	2
三条一坊十三町	中・大宮通姉小路下る姉大宮町西側83番	12/25	0m、南北方向の時期不明の暗渠の石組。	08H342	HL 336	2
三条二坊　二町	中・御池通猪熊西入俵屋町203-1	4/7・11・14	№2；-0.4m、江戸後期の包含層（土師器皿）。-1.0m、中世の包含層（土師器皿）。№3；-1.0m、平安後期の包含層（土師器、平瓦）。	07H339	HL 008	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊　八町	中・丸太町他　地内	8/18、8/29	-3.3m以下、黄褐色砂礫の地山。	08H126	HL 165	2
三条二坊十三町	中・油小路通姉小路下る宗林町87	9/8・10	№1；-0.1m、近世以降の包含層。 №2；-0.9m、近世の包含層。 -1.13m、平安末期～鎌倉の包含層（土師器皿）。 -1.37m以下、灰オリーブ色細砂の地山。	08H161	HL 197	2
三条二坊十三町	中・小川通姉小路下る西堂町 496-4番、499番	11/14・ 18・20	-0.9m、室町の包含層（土師器皿、須恵器、瓦器椀・羽釜、輸入白磁・青磁、焼締陶器甕、石製品滑石羽釜）。-1.1m・-1.25m、鎌倉の包含層（土師器皿）2。	08H247	HL 288	2
三条二坊十五町	中・西洞院通押小路下る押西洞院町 613番1、小川通御池上る下古城町 387番1	8/25、 9/4・8・ 10・11	№1；-1.7m以下、にぶい黄褐色細砂の地山。 №2；-0.83m、近世以降の包含層。-1.05m、平安～江戸の包含層（輸入白磁、施釉陶器椀、瓦質土器火鉢）。	08H067	HL 181	2
三条三坊　八町	中・室町通押小路上る蛸薬師町284-4	8/20・26	古墳前～中期・古墳後期・平安前期の包含層を検出。**本報告33ページ。**	08H200	HL 173	3
三条三坊　十町	中・両替町通押小路下る金吹町 457番地1、457番地3	9/8・10・ 11	№1；-0.23m、近世以降の土坑と時期不明の落込。-1.1m、室町の包含層（土師器皿）。 №3；-0.76m、室町の包含層（土師器皿、平瓦）。-0.96m、鎌倉の包含層（土師器皿）。	08H025	HL 196	3
三条三坊十二町	中・両替町通姉小路下る柿本町398-2	11/10・ 12・14	-0.9m、時期不明の包含層（土師器、焼締陶器常滑甕、白磁）。-1.1m、江戸の包含層（土師器皿、瓦質土製品）。-1.28m・-1.55m、鎌倉～室町の包含層（土師器皿）2。	08H125	HL 282	3
三条四坊　七町	中・高倉通御池上る柊町578番	6/17・24	-2.0m、時期不明の包含層（土師器）。	07H578	HL 088	3
三条四坊　八町	中・高倉通二条下る瓦町549	9/16～25	№1；-0.6m、近世以降の落込。№2；-0.7m、中世の包含層（土師器皿、土製品、平瓦）。	08H210	HL 204	3
三条四坊十二町	中・富小路通三条上る福長町105番地 他	4/10・11・ 14・15・ 17・18・ 22、6/6・ 9・20	№1；-2.3m・-2.6m・-2.9m・-3.0m、江戸前期の包含層（土師器皿、施釉陶器美濃天目椀・瀬戸天目椀・擂鉢、瓦、壁土）4。№2；-1.4m、江戸中期の包含層（土師器）。-2.0m、江戸初期の包含層（土師器皿）。 №4；-0.75m、江戸前期の包含層（土師器皿）。-1.0m、時期不明の包含層（土師器）。 №5；-3.1m以下、灰黄褐色微砂の地山。	07H183	HL 016	5
三条四坊十六町	中・麩屋町通二条下る尾張町227	6/23・26、 7/23	№1；-0.24m・-0.6m、近世以降の包含層2。-0.72m、時期不明の包含層（土師器）。 №2；-1.63m、時期不明の包含層（土師器）。	07H596	HL 094	3
四条一坊　八町	中・壬生馬場町8-8	10/31~11/12	-0.45m以下、黄褐色粘土の地山。	08H157	HL 265	4
四条二坊　三町	中・黒門通蛸薬師下る下黒門町 450、452	6/9・10・ 11	№2；-0.2m、時期不明の包含層（土師器）。	08H045	HL 074	4
四条二坊　九町	中・三条通油小路下る三条油小路町 172-3他	5/7・8・ 14・21・28	-1.48m以下、褐色泥土の地山。	08H005	HL 046	4
四条三坊十三町	中・東洞院通錦小路下る阪東屋町 664-1、664-6	10/3・7	-0.8mまで現代盛土。	08H269	HL 237	5
四条四坊　三町	中・東洞院通蛸薬師下る元竹田町 651、651-1	7/1	-0.8m、近世の包含層。	07H545	HL 103	5
四条四坊十三町	下・四条通寺町西入奈良物町360	6/12・13	№1；-0.8m、江戸中期の包含層（土師器皿、焼締陶器信楽甕、金属製品鉄製小刀）。 №2；-0.5m、江戸以降の包含層。	08H064	HL 084	5
四条四坊十五町	中・寺町通六角下る式部町254番地	4/15・22	-0.52mで灰黄褐色細砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	08H009	HL 029	5
四条四坊十六町	中・六角通麩屋町西入大黒町94	8/11・12	-3.0mまで現代盛土。	08H148	HL 161	5
五条一坊　六町	中・壬生相合町18番1、18番7	4/7・8・ 14・22・25	№1；-0.6m、江戸後期の包含層（土師器、焼締陶器信楽擂鉢）。	07H520	HL 009	4
五条二坊　二町	下・黒門通綾小路下る塩屋町 173、175-2、綾大宮町52-1	4/14・15・ 16・17	-0.5mでにぶい黄褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H574	HL 026	4
五条二坊　五町	下・猪熊通高辻下る高辻猪熊町 375番地1	6/17・18	-0.22m、中世の包含層（土師器皿、須恵器）。	08H004	HL 089	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条二坊十一町	下・西高辻町他　地内	11/4・5・10・12・14・26	№1；-0.22m～-1.2m、近世及び時期不明の路面及び整地層12。№2；-0.12m～-1.12m、近世以降及び時期不明の路面及び整地層11。№4；-0.45m～-0.91m、時期不明の路面及び整地層5。路面はそれぞれ油小路に位置する。	08H176	HL 268	4·5
五条二坊十三町	下京区高辻通東中筋西入永養寺町232	6/3・9、7/7～10、8/29、9/1・2	№1；-1.0m、中世の包含層（土師器皿・椀、瓦器）。-1.4mで平安後期の包含層（土師器皿、緑釉陶器椀、瓦器椀）を切って時期不明のピット。-1.6m以下、黄褐色砂泥の地山。№2；-0.8m、中世～江戸前期の包含層（施釉陶器天目椀、焼締陶器常滑擂鉢）。-1.45m、室町の包含層（土師器皿、焼締陶器壷）。-1.6m以下、黄褐色砂泥の地山。№3；-1.25m、平安～江戸前期の包含層（土師器皿、須恵器甕）。-1.36mで黄褐色砂泥の地山を切って江戸前期の落込（土師器皿、施釉陶器唐津）。№4；-1.24m、江戸中期以降の土坑（土師器皿、染付鉢、焼締陶器擂鉢、青磁皿）と江戸前期の落込（土師器皿）。№5；-1.23m、中世～江戸の土坑（土師器皿、施釉陶器志野皿、焼締陶器信楽擂鉢）。	07H336	HL 070	4
五条二坊十六町	下・西洞院通四条下る妙伝寺町598、687、691-1、692-2、693-1、693-2、695-1	9/2	-0.5m、近世以降の包含層。	08H217	HL 193	4
五条三坊十五町	下・仏光寺通烏丸東入上柳町310他	9/26、10/1・6・9	№1；-0.5m、中世～江戸の包含層（土師器皿）。-1.0m、室町の包含層（土師器皿、瓦器羽釜、平瓦）。-1.4mで褐色砂泥の地山を切って平安末期～鎌倉の落込（輸入白磁椀、施釉陶器古瀬戸、平瓦）と平安後期の土坑（土師器皿、施釉陶器山茶椀）。№2；-1.1m、室町の包含層（土師器皿、焼締陶器甕）。№3；BM-2.43m、室町後期の土坑（土師器皿、瓦器羽釜、施釉陶器、焼締陶器甕）。	08H036	HL 229	5
五条四坊　四町	下・東洞院通高辻下る燈籠町599番1	12/8	-0.9mまで現代盛土。	08H226	HL 319	5
六条三坊　九町	下・諏訪町通松原下る弁財天町327	8/22～9/29	№1；-1.0m、近世以降の包含層。-1.1m、室町末期～桃山の包含層（土師器皿、瓦器）。№2；-0.1m・-0.4m・-0.5m、近世以降の包含層3。	08H240	HL 179	5
六条三坊十五町	下・五条通烏丸東入松屋町432、429、430-1、430-2	6/18、8/25・26	№1；-0.16m、近世以降の包含層。№2；-2.07m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。	08H060	HL 090	5
六条四坊　十町	下・本明神町417	11/4・10	-1.25m、近世以降の包含層。	08H335	HL 269	5
七条二坊　七町	下・堀川通花屋町下る本願寺門前町60	7/8～15	-0.95mまで現代盛土。発掘調査済地点。	20N011	HL 108	6
七条二坊十五町	下・油小路通花屋町下る仏具屋町228-2、228-3	7/30・31、8/1・4・6・7	№1；-0.2m、近世以降の包含層。-1.0mで平安末～鎌倉の包含層（土師器皿、須恵器鉢）を切って鎌倉のピット（土師器皿、焼締陶器常滑甕）。№2；-0.7m・-0.95m、江戸前期の包含層（土師器皿、輸入明染付皿）2。-1.6m以下、灰黄褐色砂礫の地山。№3；-0.34m、近世以降の包含層。-1.0m、平安末期の包含層（土師器皿）。№4；-0.2m・-0.7mで近世以降の包含層2。	08H055	HL 134	6
七条二坊十六町	下・西洞院通六条下る西側町194、506合併	10/2・3・7	№1；-0.75m、近世以降の包含層。-1.1m、平安の包含層（平瓦）。-1.45m、平安中期の包含層（土師器皿）。№2；-0.9m・-1.1mで近世の包含層2。-1.8m以下、褐色砂礫の地山。	08H139	HL 236	6
七条三坊　一町	下・若宮町548、550	8/21・26	-0.15mで灰褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	08H140	HL 176	7
七条三坊　二町	下・若宮通花屋町下る四本松町579番地	8/8	-0.27mまで現代盛土。	08H205	HL 159	7
七条三坊　六町	下・烏丸通七条上る常葉町754	5/19～7/23	№5；-1.0m、江戸後期の包含層（施釉陶器椀、磁器椀）。№9；-0.12m、江戸後期の包含層（施釉陶器椀）。-0.55m、時期不明の包含層（土師器）。　№8；-0.12m・-0.37m・-0.45m、近世以降の包含層3。	06H644	HL 061	7

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
七条三坊十四町	下・東洞院通正面西入廿人講町17番	7/7～10・14	№1；-1.0m、鎌倉の包含層（土師器皿）。-1.25m、平安後～鎌倉の包含層（土師器皿）。№3；-1.46m、鎌倉の包含層（土師器皿、須恵器甕、瓦器盤）。-1.25m、平安末～鎌倉の包含層（土師器皿）。	07H605	HL 106	7
七条三坊十五町	下・上数珠屋町通東洞院西入上数珠屋町329	4/1・2	№1；-0.34m、江戸後期の包含層（焼締陶器信楽擂鉢）。№2；-1.2m、近世以降の包含層。	07H455	HL 001	7
七条四坊十一町	下・土手町通正面下る紺屋町382番地	4/11～18	-1.0m以下、にぶい黄褐色粗砂の地山。	07H504	HL 020	7
七条四坊十三町	下・七条通木屋町上る大宮町211番4	11/20・25	-0.5m、近世以降の包含層。-0.54m、近世の包含層。-0.69m以下、黄褐色細砂の氾濫状堆積。	08H182	HL 302	7
八条一坊　一町	下・観喜寺町3番8、3番16	12/1・2	-1.7mまで現代盛土。	07H567	HL 310	6
八条一坊十三町	南・八条町417-2、八条坊門町6-1	11/7	-2.2m以下、暗褐色砂礫の地山。	08H135	HL 280	6
八条一坊十六町	下・大宮通木津屋橋上る上之町425-1、425-2，427-1	7/28～31	-2.3mまで現代盛土。	07H599	HL 132	6
八条二坊　十町	下・東堀川通木津屋橋下る御方紺屋町1番1	11/26	-0.2mまで現代盛土。	08H388	HL 306	6
八条二坊十二町	南・西九条寺ノ前町2番1	6/11～23	-0.7m、近代の包含層。	07H411	HL 081	6
八条三坊　一町	下京区木津屋橋通新町西入東塩小路町597-3、597の一部	8/18～22・25	平安前期の地鎮遺構を検出。**本報告９ページ。**	08H121	HL 164	7
八条三坊　四町	南・西九条院町1番2、下・東塩小路釜殿町1番9	5/7・8・9	-0.5m、中世の包含層（土師器皿）。-0.7m以下、褐灰色砂礫の地山。	05H359	HL 047	7
八条三坊　七町	下・木津屋橋通新町東入東塩小路町～木津屋橋通烏丸西入東塩小路町　地先	5/12～8/22	-1.2mまで現代盛土。	08H053	HL 055	7
八条四坊　九町	下・材木町、郷之町、上之町	4/23～7/2	-1.6m以下、暗褐色砂礫の地山。	07H555	HL 035	7
八条四坊　九町	下・材木町～上之町　地先	8/25～12/16	-1.6mまで現代盛土。	06H676	HL 180	7
八条四坊十五町	下・上之町	5/19・26・27	-0.9mで黄褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H610	HL 060	7
九条一坊十六町	南・大宮通八条下る九条町621番地	8/4	-0.57mまで現代盛土。	08H127	HL 152	6
九条二坊　二町	南・大宮通東側　針小路通～九条通地内	8/1～11/17	№1；-0.85mで灰オリーブ色砂泥を検出。№2；-0.8mでオリーブ灰色微砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H557	HL 143	6
九条二坊　六町	南・西九条唐橋町64番、65番	8/4～6	-0.95m、室町の包含層（土師器皿）。-1.05m、室町の土坑（土師器皿）。-1.85m以下、灰オリーブ色砂礫の地山。	07H508	HL 147	6
九条二坊十三町	南・九条通北側、油小路通～烏丸通　地内	7/28～11/25	-1.29m以下、褐色砂礫の地山。	07H611	HL 133	6･7
九条二坊十四町	南・西九条春日町46番地（一部）	11/17・25	-0.93m以下、灰黄褐色細砂の氾濫状堆積。	08H223	HL 292	6
九条三坊　十町	南・東九条上殿田町1-3、1-4-1	10/9・15	-1.03m以下、灰オリーブ色細砂の地山。	08H225	HL 248	7
九条三坊十二町	南・東九条南烏丸町24、25、26、27-1、28-1、29、30、31	4/8・11・14	-0.64m、江戸中期以降の包含層（施釉陶器把手付き壷、落し蓋）。-1.7m以下、灰黄褐色粗砂の地山。	07H346	HL 015	7

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊　七町	北・大将軍西町158	7/11・14・16・17	№1；BM-0.36m、平安前期の土坑（土師器杯）。BM-0.66m以下、にぶい黄橙色粘土の地山。№2；BM-0.15m、時期不明の包含層（土師器甕、平瓦）。BM-0.19mで時期不明の包含層（土師器）を切って時期不明の土坑（土師器）。BM-0.55m以下、にぶい黄橙色粘土の地山。№3；BM-0.5m、平安の包含層（土師器、緑釉陶器）。BM-0.6m、時期不明のピット（土師器）。BM-0.7m以下、にぶい黄橙色砂泥の地山。	07H579	HR 115	9
北辺二坊　七町	北・大将軍西町163、166番地	7/17～10/16	平安前期の井戸を検出。**本報告13ページ。**	07H600	HR 122	9
北辺二坊　八町	北・大将軍西町200-1、200-2、200-3、200-5	9/24	BM-0.3mまで現代盛土。	08H248	HR 221	9
一条三坊　四町	中・西ノ京南大炊御門町18-1、18-2	10/24～28	-0.35m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08H232	HR 261	8

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
一条四坊十二町	右・太秦安井小山町9番地	10/22	-0.6mまで現代盛土。	08H309	HR 259	8
二条二坊十一町	中・西ノ京北壺井町47	8/20	-1.9mまで現代盛土。	08H032	HR 174	9
二条三坊　四町	中・西ノ京南壺井町57、58	8/18～20	-1.7m以下、黄褐色微砂の地山。	08H086	HR 169	8
二条四坊　六町	右・太秦安井馬塚町18-49	4/28	-0.10m、時期不明の包含層（土師器）。	07H530	HR 038	8
二条四坊　六町	右・太秦安井馬塚町18-50	4/28・30	-0.36mで褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H531	HR 039	8
三条一坊　十町	中・西ノ京永本町22-13	11/4～14	-0.6m以下、明黄褐色粘土の地山。	08H314	HR 270	9
三条四坊十三町	右・山ノ内西八反田町6-1、6-8	4/1	-1.1mまで現代盛土。	07H569	HR 002	8
四条一坊　九町	中・壬生神明町1-164	4/16・22	-0.36mでにぶい黄褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H559	HR 031	11
四条一坊十二町	中・壬生森町2-2番地	9/22～29	-1.1m以下、明黄褐色砂礫の地山。	08H105	HR 219	11
四条二坊　九町	右・西院上今田町15番地他	8/19・26、9/17・19・22	-0.87m、平安の包含層（須恵器、平瓦）。 -1.35m、時期不明の落込。 -1.94m以下、灰オリーブ色粘土の地山。	07H576	HR 171	11
四条三坊十四町	右・山ノ内赤山町	5/14	№1；-0.94m、時期不明の包含層（土師器）。 №2；-0.9m、時期不明の包含層（土師器、須恵器）。-1.06m以下、明黄褐色泥土の地山。	07H147	HR 059	10
四条三坊十四町	右・山ノ内赤山町13番、14番、15番	6/9～13	-0.9mまで現代盛土。	07H452	HR 075	10
五条一坊　二町	中・壬生高樋町43-14の一部	10/31	-0.5m以下、明褐色粗砂の地山。	08H319	HR 267	11
五条一坊　二町	中・壬生高樋町43-14の一部、48-1、50-3の一部、50-9	11/28	巡回時、工事終了。	08H371	HR 308	11
五条一坊　八町	中・壬生高樋町21-1の一部	7/2	-0.77m以下、オリーブ灰色粘土の地山。	08H104	HR 102	11
五条一坊　十町	中・仏光寺通中新道西入壬生下溝町2番地の5	8/4	-1.2mまで現代盛土。	07H604	HR 148	11
五条一坊十五町	中・壬生下溝町57-5	4/14	-0.26mまで現代盛土。	07H379	HR 027	11
五条二坊　五町	中・壬生東高田町18-2番地	4/16・21・22・23	№4；-1.0m、平安前期の包含層（須恵器壺）。 -1.44m以下、にぶい黄褐色細砂の地山。 №5；-0.84m、明治以降の包含層（施釉陶器椀）。-0.96m、室町の包含層（土師器皿）。 -1.6m以下、黄褐色砂礫の地山。	07H496	HR 034	11
五条二坊　五町	中京区壬生槍町3番2、壬生西槍町29番8	10/21・24	-0.2mまで現代盛土。	08H268	HR 258	11
五条二坊十二町	右・西院平町4番1	7/30	巡回時、工事終了。	08H092	HR 139	11
五条三坊　六町	右・西院北井御料町25-10	11/10	-1.4mまで現代盛土。	08H235	HR 283	10
五条三坊　十町	右・西院久田町3-1の一部、4の一部	4/7・11	-0.7mで黒褐色粘土を検出。遺構、遺物は検出できず。	07H590	HR 010	10
五条三坊　十町	右・西院久田町2-1の一部	10/21	BM-0.27mまで現代盛土。	08H304	HR 256	10
六条一坊　七町	下・中堂寺北町43-1の一部	12/8・9	-0.33mまで現代盛土。	08H365	HR 321	11
六条一坊　十町	下・中堂寺庄ノ内町41-1	10/9	-0.54m以下、褐色砂泥の地山。	08H186	HR 245	11
六条二坊　六町	下・西七条東御前田町22番の一部、23番1	4/4・8	-0.95mまで現代盛土。試掘調査済地点。	07H434	HR 007	11
六条三坊十三町	右・西京極豆田町9-1、9-3、9-4、9-5	8/21～10/17	-0.67m以下、黄橙色砂泥の地山。	08H099	HR 178	10
六条四坊　六町	右・西院南高田町～西京極東大丸町地先（一般国道9号）	9/17	-1.8mまで現代盛土。	07H517	HR 208	10·11
六条四坊十六町	右・西京極葛野町2	5/19・21	-0.84m、室町の包含層（土師器皿）。	07H582	HR 062	10
六条四坊十六町	右・西京極葛野町13-1	9/18～24	-0.96m以下、褐色砂泥の地山。	08H233	HR 210	10
七条三坊十四町	右・西京極東池田町他7町、七条御所ノ内西町他4町	7/9・14、11/4・10	№1；-2.64m以下、黄褐色粘土の地山。 №3；-1.95m以下、褐色砂礫の地山。	06H432	HR 110	12
七条四坊　二町	右・西京極町ノ坪町7-2	12/8	-0.7mまで現代盛土。	08H402	HR 317	12
七条四坊　五町	右・西京極東町16	6/16	-0.3mまで現代盛土。	08H051	HR 087	12
八条二坊十六町	下・西七条南月読町92-4、92-5	10/27・28	平安中期の道祖大路東側溝を検出。**本報告19ページ。**	08H276	HR 263	13
八条三坊　三町	下京区七条御所ノ内西町　地先	9/30～11/14	-0.19m、時期不明の落込。	08H298	HR 233	12
八条三坊　七町	右・下京区七条御所ノ内西町71-1（京都市立西大路小学校）	8/4	巡回時、工事終了。	08H181	HR 149	12
九条一坊　四町	南・新千本通東側、東寺西門通～九条通　地内	6/2～7/7	古墳初期の包含層を検出。**本報告35ページ。**	07H592	HR 069	13
九条一坊十一町	南・唐橋門脇町40番地	6/9・10	-0.58m以下、褐色砂礫の地山。	08H011	HR 076	13

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
蟹ヶ坂瓦窯跡	北・西賀茂蟹ヶ坂町26-2の一部	12/2	-0.95m以下、明黄褐色粘土の地山。	08S356	RH 314	20-2
角社瓦窯跡	北・大宮西総門口町1-6	12/25	BM+0.7m～+0.2mまで現代盛土。	08S410	RH 337	20-3
本山古墳群・八幡古墳群隣接地	左・岩倉幡枝町（洛北第三地区土地区画整備事業内）　地内	4/9～5/21	№1；-1.26m以下、灰白色粘土の地山。 №4；-0.6m以下、黄橙色泥土の地山。	07S414	RH 017	23-1
南ノ庄田瓦窯跡	左・岩倉幡枝町　地内	9/25	-1.2m以下、黄色と灰白色細砂の地山。	08S293	RH 227	23-1
植物園北遺跡	左・下鴨北茶ノ木町4	9/24・25	BM-0.16mまで耕作土。	08S287	RH 222	21-1
植物園北遺跡	北・上賀茂榊田町35番地1、35番地2	8/7・8	-0.7m以下、オリーブ褐色砂泥の地山。	08S179	RH 157	21-1
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町79-1	7/23～8/1	№1；-1.1m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。 №2；-0.5m以下、褐色砂泥の地山。	08S120	RH 129	21-1
大徳寺旧境内	北・紫野大徳寺町74	8/1～10/1	-0.3mで上面に平坦面を持つ石を検出。	08S130	RH 145	24-1
御土居跡	北・紫竹西栗栖町11-1番地、2番地	9/16・17・19・22	№1；-0.43m、時期不明の落込。 №2；-0.5m以下、黄褐色砂泥の地山。	08S090	RH 205	24-2
御土居跡	北・紫野西御土居町1-4他	6/18・20・23・25	№1；-1.02m以下、明黄褐色砂泥の地山。 №2；-0.7m以下、黄褐色砂礫の地山。	07S431	RH 091	21-2
北山蓮台寺境内	北・紫野十二坊町6番	5/12・13	№1；-0.2m、中世の包含層（土師器皿）。 №2；-0.16m、中世の包含層（土師器皿）。 №3；-0.14m、中世の包含層（土師器皿、瓦）。	07S566	RH 057	21-2
紫野斎院跡	上・大宮通廬山寺上る西入社横町288番地	12/8・9	-1.0mまで現代盛土。	08S376	RH 322	21-2
紫野斎院跡	上・廬山寺通大宮西入東社町329番地、331番地等	8/21・22・26	-0.71m、室町の包含層（土師器皿）。 -1.0m、時期不明の包含層（土師器）。 -1.36m以下、黄褐色シルトの地山。	08S146	RH 177	21-2
北野鳥居前町遺跡	上・御前通今出川上る鳥居前町671番、664番6、五辻通七本松西入二丁目西柳町598番、五辻通七本松西入上る老松町103番78	12/8	-0.3mまで現代盛土。	08S379	RH 323	21-2
北野遺跡	上・一条通御前西入三丁目西町25番地の1、25番地の2、25番地の4、26番地の1及び27番地	12/16・19	-0.6m以下、褐色砂泥の地山。	08S284	RH 330	21-2
北野遺跡・北野廃寺	北・北野上白梅町8番地	10/10・15	-0.2mまで現代盛土。	08S192	RH 250	21-2
上京遺跡・寺ノ内旧域	上・大宮通寺ノ内上る三丁目北仲之町511、513、507-3	9/10・12	BM-0.21m、近代以降の包含層。	08S254	RH 200	21-2
寺ノ内旧域	北・紫野宮東町1-70	10/14～17	-1.07m以下、明黄褐色粘土の地山。	08S189	RH 253	20-1
相国寺旧境内・上御霊遺跡	上・下之町通烏丸東入る相国寺門前町地先	5/1～23	№2；-0.62m、時期不明の包含層（土師器）。 №4；-0.48m、時期不明の包含層（瓦）。	08S038	RH 045	20-1
相国寺旧境内	上・室町通寺ノ内上る下柳原北半町215、217	10/3・6・8・10	№1；-0.4m、江戸の包含層（土師器皿、焼締陶器擂鉢）。№2；-1.3m、室町の包含層（土師器皿）。	08S059	RH 238	20-1
上京遺跡・相国寺旧境内	上・室町通上立売上る室町頭町257番地、259-1番地	11/6・10	-0.65m、近代の包含層。-1.1m、近世の包含層。	08S131	RH 278	20-1
上京遺跡	上・寺ノ内通堀川西入東西町372番、372番1	6/23～7/1	-0.52m、近世以降の瓦溜。-0.95m以下、灰オリーブ色砂礫の地山。	08S050	RH 095	20-1
上京遺跡	上・大宮通寺之内下る東入西北小路町444-1	8/18～20・26	-0.45mで黒褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S556	RH 166	20-1
上京遺跡	上・小川通上立売下る上小川町118-5、118-6	9/29・30、10/1	BM-0.8m、近世以降の包含層。	08S136	RH 232	20-1
上京遺跡	上・小川通元誓願寺下る鞠屋町502-2、502-3、504-7、油小路通元誓願寺下る戒光寺町495-2	9/1・2・5	-0.8m、時期不明の包含層。	08S124	RH 191	20-1
上京遺跡	上・武者小路通小川東入西無車小路町602番地	7/～8/26	-0.3m、近世以降の包含層。-0.6mで室町の包含層（土師器皿）を切って近世以降と近世の落込2。	07S551	RH 116	20-1
上京遺跡・革堂跡	上・油小路通一条上る元百万遍町549、550	7/31、8/1・4	№1；-1.1m以下、黄褐色砂礫の地山。 №2；-0.8m、時期不明の落込。	08S058	RH 140	20-1
室町殿跡（花の御所）	上・衣棚通今出川上る畠山町209番の2	10/17・20	-0.45m・-0.52m、江戸の包含層（土師器、施釉陶器、染付椀、白磁）2。	08S275	RH 254	20-1
寺町旧域	上・今出川通寺町東入一真町81番地	8/25、9/3	-0.4m、中世の包含層（焼締陶器常滑甕）。	08S110	RH 182	20-1

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡大覚寺御所跡	右・北嵯峨名古曽町　地先	7/9～11・14	№2；-0.26m、平安前期の包含層（土師器皿・杯・高杯、須恵器）。-0.5m以下、明黄褐色砂泥の地山。№3；-0.3m、時期不明の包含層（土師器）。-0.92m以下、明黄褐色砂泥の地山。	20N002	UZ 111	24-3
嵯峨遺跡	右・嵯峨釈迦堂大門町35番地の1（嵯峨小学校）	10/24・27	-0.25m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08S338	UZ 262	24-4
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺11-1の一部、広道町3番の一部	7/31	-1.26m以下、黄褐色砂泥の地山。	08S188	UZ 141	24-4
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺今堀町2-10	7/15～17	-0.17mでオリーブ褐色砂泥の地山を切って時期不明の土坑（平瓦）。	08S095	UZ 119	24-4
嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡	右・嵯峨天龍寺今堀町15番9	9/2～4	-0.5m以下、褐色砂泥の地山。	08S082	UZ 194	24-4
音戸山古墳群	右・太秦三尾町1-361	9/17	BM+0.94m～+0.79mまで現代盛土。	08S211	UZ 206	24-5
音戸山古墳群	右・太秦三尾町1-218、1-354（5号地）	4/28	-0.3mまで現代盛土。	07S607	UZ 040	24-5
仁和寺院家跡	右・宇多野馬場町8番1、9番1	4/7～6/24	-0.4m以下、黄橙色泥土の地山。	07S313	UZ 011	24-7
仁和寺院家跡	右・宇多野御屋敷町1-3	10/8～10	-0.5m、平安後期の包含層（土師器皿）。-1.16m以下、時期不明の湿地状堆積。	08S262	UZ 246	16
仁和寺院家跡	右・常盤御池6番5、常盤山下町5番2	9/25～10/7	BM+1.3m以下、黄褐色砂礫の地山。	08S253	UZ 228	16
常盤柏ノ木古墳群・草木町遺跡	右・常盤下田町11-11（3号地）	11/17	-0.6mまで現代盛土。	08S305	UZ 293	16
常盤柏ノ木古墳群・草木町遺跡	右・常盤下田町14-1の一部	11/19	-0.3mまで現代盛土。	08S183	UZ 299	16
常盤柏ノ木古墳群・草木町遺跡	右・常盤下田町11-10（2号地）	11/17・18	-0.15mまで現代盛土。	08S306	UZ 294	16
常盤柏ノ木古墳群・草木町遺跡	右・常盤下田町11-1（1号地）	12/1	-0.47mまで現代盛土。	08S307	UZ 311	16
常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡	右・常盤東ノ町26-5他	6/30、7/1～3、8/6・7、11/5・27、12/5	№1；-1.6m、時期不明の包含層（土師器、土製品）。№3；-1.7m・-1.87m、時期不明の包含層（土師器）2。№4；-0.65m、近世以降の包含層。-1.13mで黄褐色砂泥の地山を切って時期不明のピット。№5；-0.4m、近世以降の包含層。-1.14mでにぶい黄色砂泥の地山を切って時期不明のピット。	07S443	UZ 100	16
常盤東ノ町古墳群・村ノ内町遺跡	右・常盤東ノ町6番地、6番地の2、1番地の3の一部	8/19・22	-0.63mまで現代盛土。試掘調査済地点。	07S580	UZ 167	16
一ノ井遺跡	右・太秦垣内町1番地、太秦一ノ井町1番地	5/12・13	-0.58m、近世の包含層。-1.26m以下、浅黄色粘土の地山。	07S473	UZ 056	16
常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内	右・太秦東蜂岡町9-39	6/30～7/10	BM-0.45m以下、黄褐色砂泥の地山。	08S109	UZ 097	16
常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内	右・太秦東蜂岡町他　地内	7/22	-0.61mまで現代盛土。	03S294	UZ 124	16
上ノ段町遺跡・多藪町遺跡	右・太秦多藪町19番地9	10/22～24	№1；-0.18m、近世の包含層。-0.31m以下、黄褐色砂泥の地山。№2；-0.1m、近世以降の包含層。-0.3m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08S178	UZ 260	16
多藪町遺跡	右・太秦堀ヶ内町6番2	6/4～16	-0.5m以下、黄褐色泥土の地山。	08S048	UZ 071	16
門田町遺跡	右・太秦門田町10番地52の一部	11/12	-0.5mまで現代盛土。	08S031	UZ 286	16
長福寺境内隣接地	右・梅津北浦町3-1	6/9	-1.02mで暗褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S554	UZ 077	16

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
修学院遺跡	左・檜峠町11-15、11-26、11-28、23-2、23-3、35-2	11/11・19	-0.3m以下、黄褐色細砂の地山。	08S093	KS 284	24-8
一乗寺向畑町遺跡	左・一乗寺向畑町4	4/1・2・3	GL+0.7m以下、明黄褐色粗砂の地山。	07S542	KS 003	25-1
田中構え跡	左・田中里ノ内町16-1	9/24～30	-0.8m、褐色砂礫の氾濫状堆積。	08S172	KS 223	17
田中構え跡	左・田中里ノ内町16-2	9/24～30	-1.58mまで現代盛土。	08S173	KS 224	17
上終町遺跡・北白川廃寺	左・北白川堂ノ前町26-1	11/11	-0.3m、時期不明の包含層（土師器）。	08S311	KS 285	17
北白川廃寺	左・北白川大堂町39-2	8/6	BM+0.66m～+0.51mまで現代盛土。	08S184	KS 155	17
北白川廃寺	左・北白川上別当町17	9/11・12	BM+0.13mで暗オリーブ色砂泥を検出。以降、遺物は検出できず。	08S245	KS 202	17
吉田二本松町遺跡・吉田上大路町遺跡	左・吉田二本松町4-5、4-7、4-8	7/2～4・7～9・11・14	№1；-0.75mでにぶい黄橙色粗砂の地山を切って時期不明の落込。№2；-0.6mでにぶい黄橙色粗砂の地山を切って時期不明の落込。№3；-0.7mでにぶい黄橙色粗砂の地山を切って時期不明の落込。№4；-0.85mでにぶい黄橙色粗砂の地山を切って時期不明の落込。	08S076	KS 104	17
吉田二本松町遺跡・吉田上大路町遺跡	左・吉田中大路町3番1	7/14、8/29	-0.4mまで現代盛土。	08S111	KS 118	17
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・聖護院蓮華蔵町61	8/25	-0.34mまで現代盛土。	08R162	KS 183	17
岡崎遺跡・尊勝寺跡隣接地	左・岡崎徳成町18	11/17・18・20	-0.55m、近代の包含層。	08R317	KS 295	17
岡崎遺跡・延勝寺跡	左・岡崎成勝寺町5-5	5/13	-1.06mで黒褐色泥砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	08R015	KS 058	17
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎天王町62-26	4/23	-0.46mまで現代盛土。	07R609	KS 036	17
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎南御所町9-4他5筆	6/30	-0.1mまで現代盛土。	08R114	KS 098	17
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎天王町　地先	7/22・24	-0.4m、近世以降の包含層。	08R142	KS 125	17
岡崎遺跡・法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町　岡崎公園内	11/4・10	-0.25mまで現代盛土。	08R341	KS 271	17
白河街区跡	左・聖護院西町21番39、21番40及び21番110	11/17・20	-0.7m、近世の包含層。-1.0m、江戸の包含層（土師器皿）。	08S364	KS 296	17
白河街区跡	左・川端二条下る一筋目東入上る新車屋町175-1、175-5の一部、175-6の一部、175-7の一部、175-8の一部、175-9の一部	7/14～16・18・23	№1；-0.32m、近世以降の包含層。-0.7m、時期不明の包含層（土師器）。№2；-0.53m・-0.9m、時期不明の包含層（土師器）2。	08S018	KS 117	17
禅林寺境内	左・若王子町33（若王子取水池）地内	9/18～10/15	-2.0mまで現代盛土。	08S012	KS 211	17

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法興院跡・御土居跡	上・伊勢屋町他　地内	11/20～12/9	-1.45mまで現代盛土。	08S384	RT 303	25-2
六波羅政庁跡・六波羅密寺境内	東・松原通大和大路東入2丁目轆轤町81番地の1	6/9	-0.24m、近世の包含層（土師器、施釉陶器）。	08S074	RT 078	18
六波羅政庁跡	東・大和大路通五条下る石垣町東側56番地	4/10・11	-1.4mでにぶい黄橙色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S205	RT 018	18
六波羅政庁跡	東・渋谷通本町東入四丁目鐘鋳町401、403、404	10/9・15・16	-1.7mまで現代盛土。	08S143	RT 249	18
法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡	東・茶屋町527	4/11～7/23	№12；-1.1mで明黄褐色泥土の地山を切って時期不明の溝（瓦製品碑）。	07S572	RT 021	18
法住寺殿跡・六波羅政庁跡	東・茶屋町527	9/1	-0.43mまで現代盛土。	08S261	RT 192	18

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
六波羅政庁跡 隣接地	東・鞘町通正面下る上堀詰町288番地 （元貞教小学校）	7/8～10	-1.0mまで現代盛土。	08S056	RT 109	18
山科本願寺跡	山・西野広見町5-7	4/28	-0.14mまで現代盛土。	07S593	RT 042	23-2
山科本願寺南殿跡	山・音羽伊勢宿町17、18-1、19-6	10/27～31	-0.85m以下、褐色粗砂礫の地山。	08S264	RT 264	25-3
中臣遺跡	山・東野森野町23-58	5/30	-0.54mまで現代盛土。	08N027	RT 067	23-3
中臣遺跡	山・西野山中臣町26番地99	10/6	BM-0.45mで褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	08N291	RT 243	23-3
中臣遺跡・ 中臣十三塚	山・西野山中臣町44-56	4/30	-0.7mで褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	08N023	RT 043	23-3
勧修寺旧境内	山・勧修寺西北出町57	10/8	-0.7m以下、明黄褐色砂礫の地山。	08S270	RT 247	23-3
大宅廃寺・ 大宅遺跡	山・大宅山田113番地他 （京都市立大宅中学校）	4/25・28、 5/7・9・12	-0.8mまで現代盛土。	07S422	RT 037	26-1

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
唐橋遺跡	南・吉祥院定成町12番地2の一部	9/22～29	-0.5m以下、黄褐色微砂の地山。	08S152	TB 218	25-4
唐橋遺跡	南・吉祥院定成町12番地2の一部	9/22・24・ 25・29	-0.38mでにぶい黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の土坑。	08S151	TB 217	25-4
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町41番の一部	4/11	-0.3mまで現代盛土。	07T535	TB 022	22-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町41番の一部	4/11	-0.3mまで現代盛土。	07T536	TB 023	22-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町41番の一部	4/11	-0.3mまで現代盛土。	07T537	TB 024	22-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田西桶ノ井町41番の一部	4/11	-0.35mまで現代盛土。	07T538	TB 025	22-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町74	9/10	-0.4mまで現代盛土。	08T215	TB 201	22-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄菩提院町309番地	12/19	-0.65mまで現代盛土。発掘調査済地点。	08T312	TB 335	22-1
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町31番の一部	12/2	-0.4mまで現代盛土。	08T393	TB 315	22-1
鳥羽離宮跡・ 鳥羽遺跡	伏・竹田真幡木町153-1、153-2	8/29、9/1	-0.5m、時期不明の包含層（瓦質土器）。 -0.6m、中世の包含層（瓦器羽釜）。	07T586	TB 189	22-1
鳥羽離宮跡・ 鳥羽遺跡	伏・竹田真幡木町181、182、183	8/29	-0.42m、中世の包含層（瓦器椀）。 試掘調査済地点。	07T078	TB 188	22-1
鳥羽離宮跡・ 鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町100番1	7/28・29、 8/1	掘削深-0.12mまで現代盛土。試掘調査済地点。	08T190	TB 135	22-1
鳥羽離宮跡・ 鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町133番1	5/7・9	BM-0.16mで褐灰色粘土を検出。 試掘調査済地点、平安後期の遺構を検出。	07T456	TB 048	22-1
鳥羽離宮跡・ 鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町134	7/17・18	-0.52mまで現代盛土。試掘調査済地点。	07T562	TB 121	22-1
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽東芹川町39番地	12/16	-0.8mまで現代盛土。	08S390	TB 332	22-1
下三栖城跡	伏・横大路下三栖辻堂町 56番の一部、60番の一部	4/14・ 17・21	-1.0mまで現代盛土。	07S409	TB 028	25-5
淀城跡	伏・淀下津町281-3	7/29～8/12	-0.95m、にぶい黄褐色砂礫の氾濫状堆積。	08NG150	TB 137	22-2

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法性寺跡	伏・深草車阪町17-13、17-14、20-19、20-22、34-36、34-37	4/7	-0.1m以下、黄色粘土の地山。	08S001	FD 012	25-6
極楽寺跡	伏・深草大門町25-2、25-3、27-1、27-2	9/8～10	-1.0m、黒色砂泥の湿地状堆積。	08S243	FD 198	25-7
深草坊町遺跡・安楽行院跡	伏・深草坊町12-7	5/20～7/10	№2；-0.2m、時期不明の包含層。№3；-0.54m、桃山～江戸初期の包含層（焼締陶器信楽擂鉢）。№4；-0.45m以下、明黄褐色砂泥の地山。	07S356	FD 063	25-8
御香宮廃寺・伏見城跡	伏・桃山羽柴長吉東町～御香宮門前町地先	11/27～12/19	-0.73m以下、明黄褐色粘土の地山。	08F385	FD 307	14
伏見城跡	伏・深草中ノ島町21、22	12/1・2	BM-1.1m、時期不明の整地層。	08F308	FD 312	14
伏見城跡	伏・桃山町丹下9（一部）、9-3、9-4（一部）、9-12（一部）、9-14（一部）	5/9	-0.44mまで現代盛土。	08F046	FD 054	14
伏見城跡	伏・桃山井伊掃部西町～桃山井伊掃部東町、京町十丁目	8/12	-0.62mまで現代盛土。	08F234	FD 162	14
伏見城跡	伏・京町9丁目61	11/4	-0.45mまで現代盛土。	08F347	FD 272	14
伏見城跡	伏・桃山水野左近東町～桃山筒井伊賀東町	8/18～11/14	-0.8mで明黄褐色粘土を検出。遺構、遺物は検出できず。	08F122	FD 168	14
伏見城跡	伏・西町394番地、396番地の一部	7/22～28	-1.0m、近世以降の湿地状堆積の落込。-1.9m以下、暗オリーブ色砂泥の地山。	08F097	FD 127	14
伏見城跡	伏・桃山町松平筑前～鍋島町	9/24~12/16	-0.9m以下、黄褐色粘土の地山。	08F224	FD 225	14
伏見城跡	伏・片原町300番52の一部	9/26	-0.4mまで現代盛土。	08F160	FD 230	14
伏見城跡	伏・大坂町600番1、600番4	12/17	-0.27mまで現代盛土。	08F343	FD 333	14
伏見城跡	伏・車町287番地	9/19	BM-0.2mまで現代盛土。	08F266	FD 213	14
伏見城跡	伏・常盤町～豊後橋町	6/30～7/24	№2；-1.0m、近世以降の包含層。№5；-0.5m以下、にぶい黄橙色砂礫の地山。	07F583	FD 099	14
伏見城跡	伏・桃陵町　地先	11/4・5	-2.35mまで現代盛土。	08F368	FD 273	14
伏見城跡	伏・深草大亀谷万帖敷町862番、863番の3	4/1	-1.26m以下、明黄褐色細砂の地山。	07F534	FD 004	15-1
伏見城跡	伏・深草大亀谷東安信町79番	11/13	-0.2mまで現代盛土。	08F328	FD 287	15-1
伏見城跡	伏・桃山紅雪町206番1	11/5	-1.5mまで現代盛土。	08F349	FD 275	15-1
伏見城跡	伏・桃山町板倉周防	4/30	-1.44m以下、黄褐色砂泥の地山。	08F047	FD 044	15-1
太閤堤	伏・向島二ノ丸町387-3	6/19	-0.7mで黄褐色粗砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	07S360	FD 093	15-3
醍醐古墳群	伏・醍醐内ヶ井戸12-1他	5/27	-0.5m以下、黄褐色砂礫の地山。	07S461	FD 066	26-1
醍醐古墳群	伏・醍醐内ヶ井戸他　東山学園グラウンド（仮称）建設予定地	8/25	-1.96mまで現代盛土。	08S113	FD 184	26-1
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐赤間南裏町27-3、28	7/17	BM+1.76m～+1.46mまで現代盛土。	20C007	FD 123	26-2

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京二条四坊七町	南・久世東土川町472-1、473、474、475、476	5/26～8/4	長岡京期以前の溝を２条、長岡京期の溝を検出。**本報告21ページ。**	07NG470	NG 065	19
左京二条四坊七町	南・久世東土川町	8/4	時期不明の落込を検出。**本報告21ページ。**	08NG191	NG 150	19
左京四条四坊五町	伏・羽束師菱川町（神川中学校拡張敷地）	7/10～9/17	OP10.0m、奈良～平安の南北溝（土師器杯）。	08NG013	NG 114	19
左京五条二坊十六町	伏・羽束師菱川町194の一部	8/11・12	-0.75mまで現代盛土。	08NG071	NG 160	19
左京五条三坊十六町	伏・羽束師菱川町282-1	4/17～5/2	-1.22m以下、黄褐色粘土の地山。	07NG558	NG 032	19
左京五条四坊十三町	伏・羽束師古川町143-2　他　地内	5/7～7/3	-0.4m以下、黄褐色泥土の地山。	03NG253	NG 049	19
左京六条四坊五町	伏・淀樋爪町634-2番地　他	9/18～10/17	OP+7.5m、弥生後期の落込（弥生土器甕=V様式）。	08NG010	NG 212	19
左京八条四坊五町	伏・府道京都守口線、横大路六反畑～納所星柳　地内	4/2～9/3	-0.36m、時期不明の路面。-1.0m、黄褐色細砂の氾濫状堆積。	07NG539	NG 006	22-2

南桂川地区（MK）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡・名勝嵐山	西・松室北河原町9番地	12/15～19	-0.6m以下、褐色砂礫の地山。	20N016	MK 328	26-3
史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西・嵐山上海道町48-12	9/2	-0.35mでオリーブ褐色砂泥を検出。遺構、遺物は検出できず。	20N019	MK 195	26-3
松尾十三塚古墳群	西・松室追上ゲ町18-72	11/17～19	-0.15mまで現代盛土。	08S378	MK 297	24-4
松尾十三塚古墳群	西・松室追上ゲ町26-17	10/3	BM+0.4m～+0.1mまで現代盛土。	08S237	MK 239	26-4
松室遺跡	西・松室河原町84番の一部（A棟）	4/7	-0.34mまで現代盛土。	07S494	MK 013	26-4
松室遺跡	西・松室河原町84番の一部、96番（B棟）	4/7	-0.3mまで現代盛土。	07S495	MK 014	26-4
革嶋館跡	西・川島玉頭町28-1、28-6	10/10	-0.48m、江戸後期の包含層（施釉陶器信楽）。-0.84m以下、黄褐色砂泥の地山。	08S303	MK 252	26-5
革嶋館跡	西・川島玉頭町67-4の一部、67-5、67-6の一部	6/18	-0.22m、耕作土。	08S132	MK 092	26-5
上久世遺跡	南・久世上久世町350、383-1	11/5～13	奈良の溝、弥生～古墳前期の湿地状堆積を検出。**本報告27ページ。**	08S193	MK 276	26-6
上久世遺跡	南・久世上久世町388-2	10/3・6	-0.75m、平安の包含層（黒色土器）。	08S272	MK 240	26-6
上久世遺跡	南・久世中久世町1丁目45番地の一部	5/9	-0.16m以下、黄褐色泥土の地山。	07S603	MK 053	26-6
大藪遺跡	南・久世殿城町481番1	8/6	-0.4mまで現代盛土。	08S201	MK 156	23-4
福西古墳群	西・大枝東長町1-574	5/8	巡回時、工事終了。	08S016	MK 051	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-555	5/8	-0.3m以下、黄褐色泥土の地山。	08S017	MK 052	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-571（1号地）	6/5	-0.44mまで現代盛土。	08S084	MK 072	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-572（2号地）	6/5	-0.24mで褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	08S085	MK 073	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-573（3号地）	6/11	-0.2mで明黄褐色泥土を検出。遺構、遺物は検出できず。	08S083	MK 083	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-575	7/7	-0.25mまで現代盛土。	08S128	MK 107	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-576	8/4	-0.4mまで現代盛土。	08S216	MK 151	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-556	10/6	-0.3m、耕作土。	08S256	MK 241	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-578	10/6	-0.3m、耕作土。	08S315	MK 244	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-577（4号地）	11/6	-0.5mまで現代盛土。	08S344	MK 279	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-560の一部	9/17	-0.2mまで現代盛土。	08S242	MK 207	26-7
福西古墳群	西・大枝東長町1-260	12/8	-0.2mまで現代盛土。	08S395	MK 324	26-7

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさほうこく
書名	京都市内遺跡立会調査報告　平成20年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	卜田健司・吉本健吾
編集機関	財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　　TEL 075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　　TEL 075-222-3108
発行年月日	西暦2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
へいあんきょうさきょういち 平安京左京一条 じょうしぼうにちょうあと 四坊二町跡・ くげまちいせき 公家町遺跡	きょうとしかみぎょうくきょうとぎょえん 京都市上京区京都御苑 3番地	26100		35度 01分 22秒	135度 45分 43秒	2008/2/28～ 2008/3/28		配水管工事
へいあんきょうさきょういち 平安京左京一条 じょうしぼうじっちょうあと 四坊十町跡・ くげまちいせき 公家町遺跡	きょうとしかみぎょうくきょうとぎょえん 京都市上京区京都御苑 2番地　大宮仙洞御所	26100		35度 01分 18秒	135度 45分 51秒	2007/11/19～ 2008/1/8		警備装置 改修工事
へいあんきょう 平安京 さきょうはちじょう 左京八条 さんぼういっちょうあと 三坊一町跡	きょうとしししもぎょうくきづやばしどおり 京都市下京区木津屋橋 しんまちにしいるひがししおこうじちょう 通新町西入東塩小路町 597-3、597の一部	26100		34度 59分 22秒	135度 45分 22秒	2008/8/18～ 2008/8/25		共同住宅
へいあんきょう 平安京 うきょうほくへん 右京北辺 にぼうしちちょうあと 二坊七町跡	きょうとしきたくたいしょうぐんにしまち 京都市北区大将軍西町 163、166番地	26100		35度 01分 27秒	135度 43分 52秒	2008/7/17～ 2008/10/16		診療所
へいあんきょう 平安京 うきょうさんじょう 右京三条 いちぼうじゅうろくちょうあと 一坊十六町跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしのきょうふなづかちょう 西ノ京船塚町7番地の1	26100		35度 00分 44秒	135度 44分 10秒	2008/3/4		観測装置

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京一条 四坊二町跡・ 公家町遺跡	都城跡	江戸時代	庭石、石列、路面		
平安京左京一条 四坊十町跡・ 公家町遺跡	都城跡	江戸時代	石組溝		
平安京 左京八条 三坊一町跡	都城跡	平安時代	地鎮遺構、井戸	土器類	
平安京 右京北辺 二坊七町跡	都城跡	平安時代	井戸	土器類	
平安京 右京三条 一坊十六町跡	都城跡	平安時代～ 鎌倉時代	溝、路面、溝状遺構	土器類	

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさほうこく
書名	京都市内遺跡立会調査報告　平成20年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	卜田健司・吉本健吾
編集機関	財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　　TEL 075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　　TEL 075-222-3108
発行年月日	西暦2009年３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
平安京右京八条二坊十六町跡（へいあんきょうきょうはちじょうにぼうじゅうろくちょうあと）	京都市下京区西七条南月読町（きょうとしししもぎょうくにしちじょうみなみつきよみちょう）92-4、92-5	26100		34度59分20秒	135度43分47秒	2008/10/27・2008/10/28		マンション
長岡京左京二条四坊七町跡（ながおかきょうさきょうにじょうしぼうしちちょうあと）	京都市南区久世東土川町（きょうとしみなみくぜひがしつちかわちょう）472-1、473、474、475、476	26100		34度56分36秒	135度43分25秒	2008/5/26～2008/8/4		擁壁工事・消火栓新設
長岡京左京八条四坊三町跡（ながおかきょうさきょうはちじょうしぼうさんちょうあと）	京都市伏見区納所町（きょうとしふしみくのうそちょう）地先	26100		34度54分47秒	135度43分16秒	2007/6/4～2008/1/30		排水樋門改築
上久世遺跡（かみくぜいせき）	京都市南区久世上久世町（きょうとしみなみくくぜかみくぜちょう）350、383-1	26100	763	34度57分47秒	135度42分43秒	2008/11/5～2008/11/17		共同住宅
平安京左京三条三坊八町跡（へいあんきょうさきょうさんじょうさんぼうはちちょうあと）	京都市中京区室町通（きょうとしなかぎょうくむろまちどおり）押小路上る蛸薬師町（おしこうじあがるたこやくしちょう）284-4	26100		35度00分45秒	135度45分28秒	2008/8/20・2008/8/26		住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京右京八条二坊十六町跡	都城跡	平安時代	溝	土器類	
長岡京左京二条四坊七町跡	都城跡	弥生時代、奈良時代	溝	土器類	
長岡京左京八条四坊三町跡	都城跡	飛鳥時代	竪穴住居址、石垣	土器類	
上久世遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代、奈良時代	湿地状堆積、溝	土器類	
平安京左京三条三坊八町跡	都城跡	古墳時代、平安時代	包含層	土器類	

報 告 書 抄 録

ふりがな	きょうとしないいせきたちあいちょうさほうこく
書名	京都市内遺跡立会調査報告　平成20年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	卜田健司・吉本健吾
編集機関	財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所在地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　　TEL 075-415-0521
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　　TEL 075-222-3108
発行年月日	西暦2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
へいあんきょう 平安京 うきょうくじょう 右京九条 いちぼうよんちょうあと 一坊四町跡	きょうとしみなみくしんせんぼんどおり 京都市南区新千本通 ひがしがわとうじにしもんどおり 東側、東寺西門通～ くじょうどおり 九条通　地内	26100		34度 58分 46秒	135度 44分 29秒	2008/6/2～ 2008/7/7		水道工事

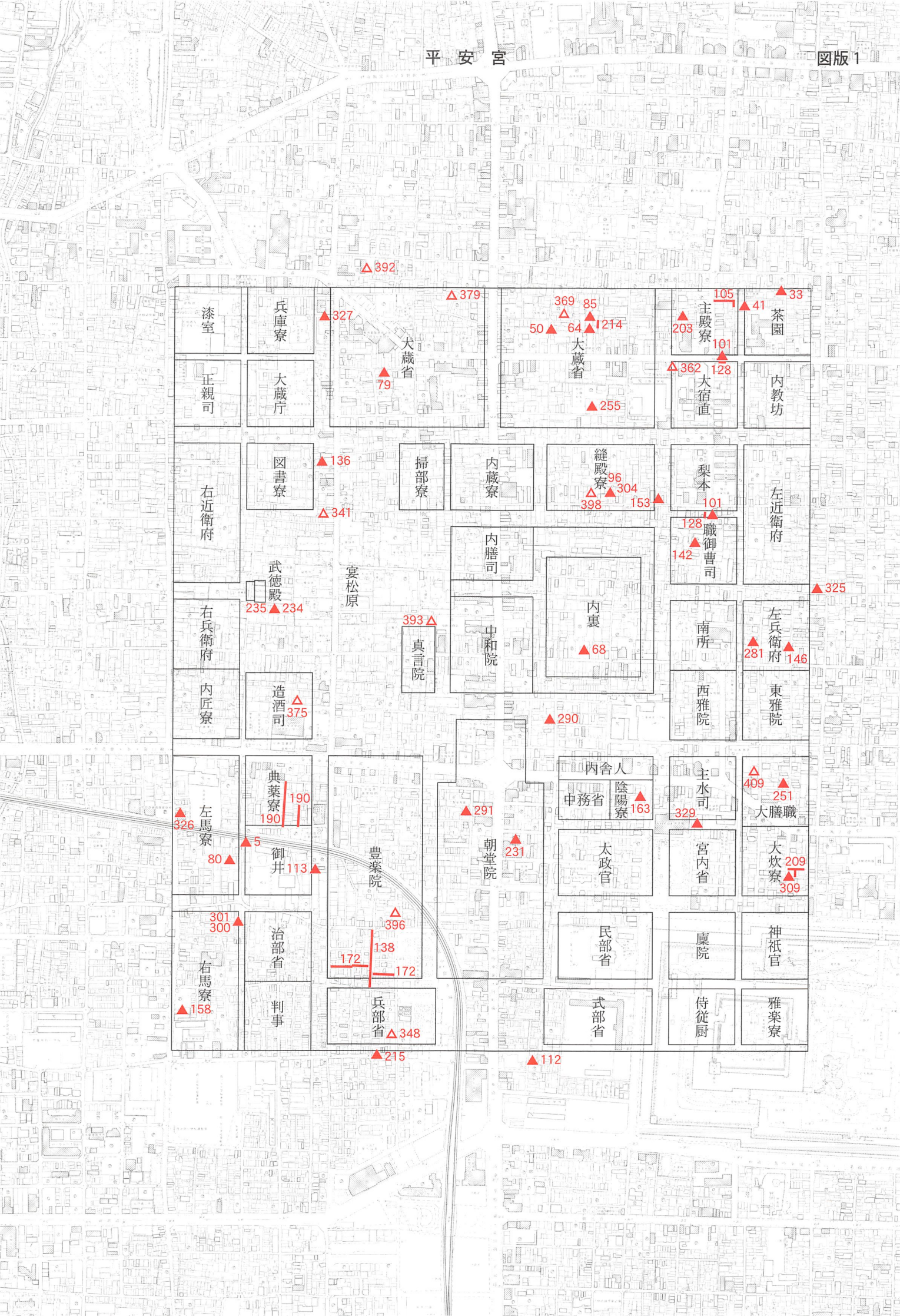
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京 右京九条 一坊四町跡	都城跡	古墳時代	包含層	土器類	

図　　版

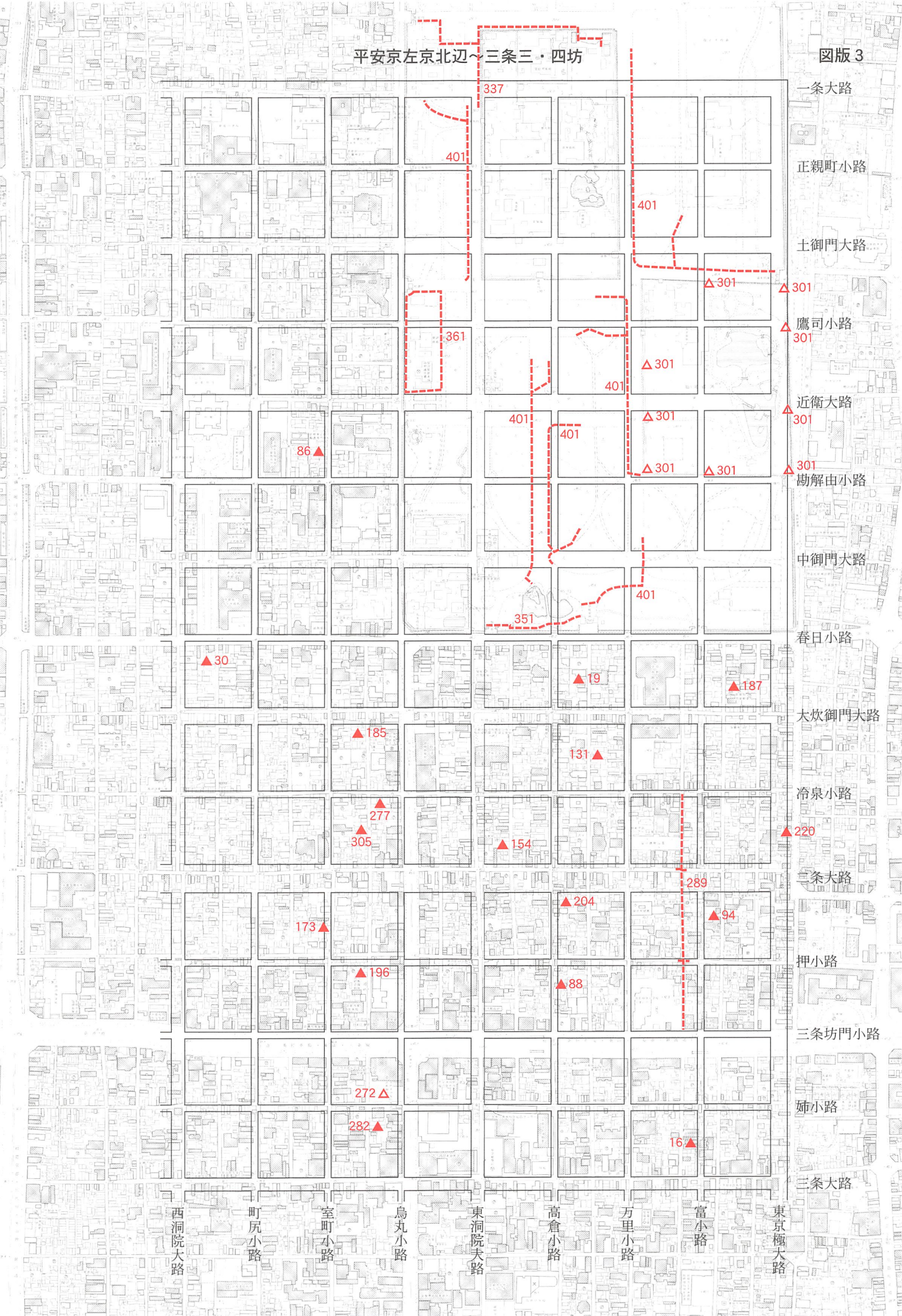
凡　例

△ ------ 2008年１～３月期（平成19年度）立会調査地点

▲ ——— 2008年４～12月期（平成20年度）立会調査地点

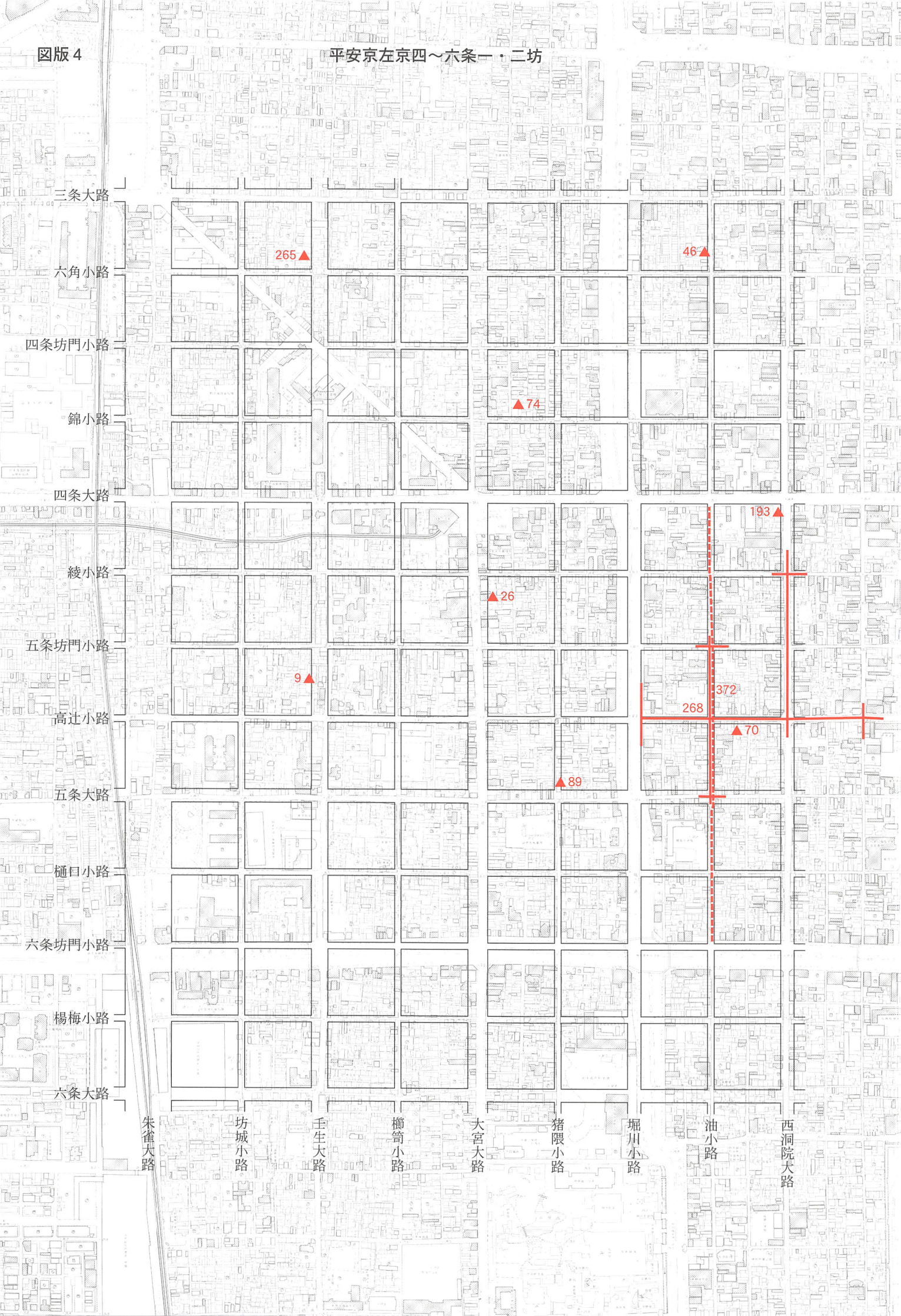

漆室
兵庫寮
327
大蔵省
379
392
正親司
大蔵庁
79
369
85
50
64
214
大蔵省
255
主殿寮
105
41
33
茶園
203
101
128
362
大宿直
内教坊
右近衛府
図書寮
136
341
掃部寮
内蔵寮
縫殿寮
96
304
398
153
梨本
101
128
職御曹司
142
左近衛府
325
武徳殿
235
234
宴松原
内膳司
右兵衛府
393
真言院
中和院
内裏
68
南所
左兵衛府
281
146
内匠寮
造酒司
375
西雅院
東雅院
290
典薬寮
190
190
左馬寮
326
5
80
御井
113
豊楽院
396
138
172
172
朝堂院
291
231
内舎人
中務省
陰陽寮
163
主水司
329
409
251
大膳職
太政官
宮内省
大炊寮
209
309
301
300
右馬寮
158
治部省
判事
民部省
廩院
神祇官
兵部省
348
215
式部省
112
侍従厨
雅楽寮

図版 2
平安京左京北辺～三条一・二坊
一条大路
正親町小路
土御門大路
鷹司小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
朱雀大路
坊城小路
壬生大路
櫛笥小路
大宮大路
猪隈小路
堀川小路
油小路
西洞院大路
309
322
△350
342
▲144
165
181▲
▲8
▲216
336▲
288▲
▲197

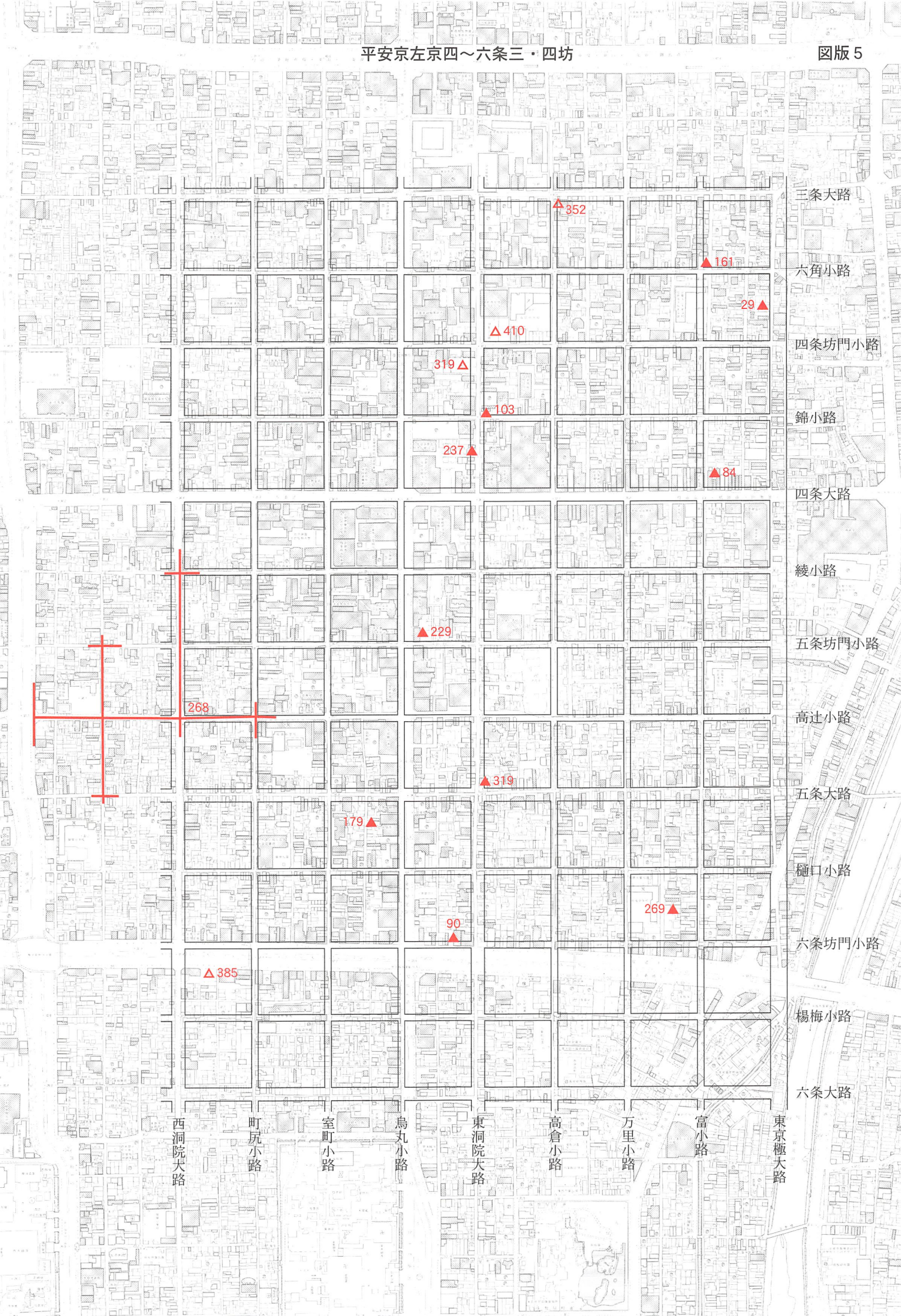

平安京左京北辺～三条三・四坊
図版3
一条大路
正親町小路
土御門大路
鷹司小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
三条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
337
401
361
351
△301
86▲
30▲
19▲
187▲
185▲
131▲
277▲
305▲
154▲
220▲
289
204▲
94▲
173▲
196▲
88▲
272△
282▲
16▲
西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
高倉小路
万里小路
富小路
東京極大路

図版 4

平安京左京四～六条一・二坊

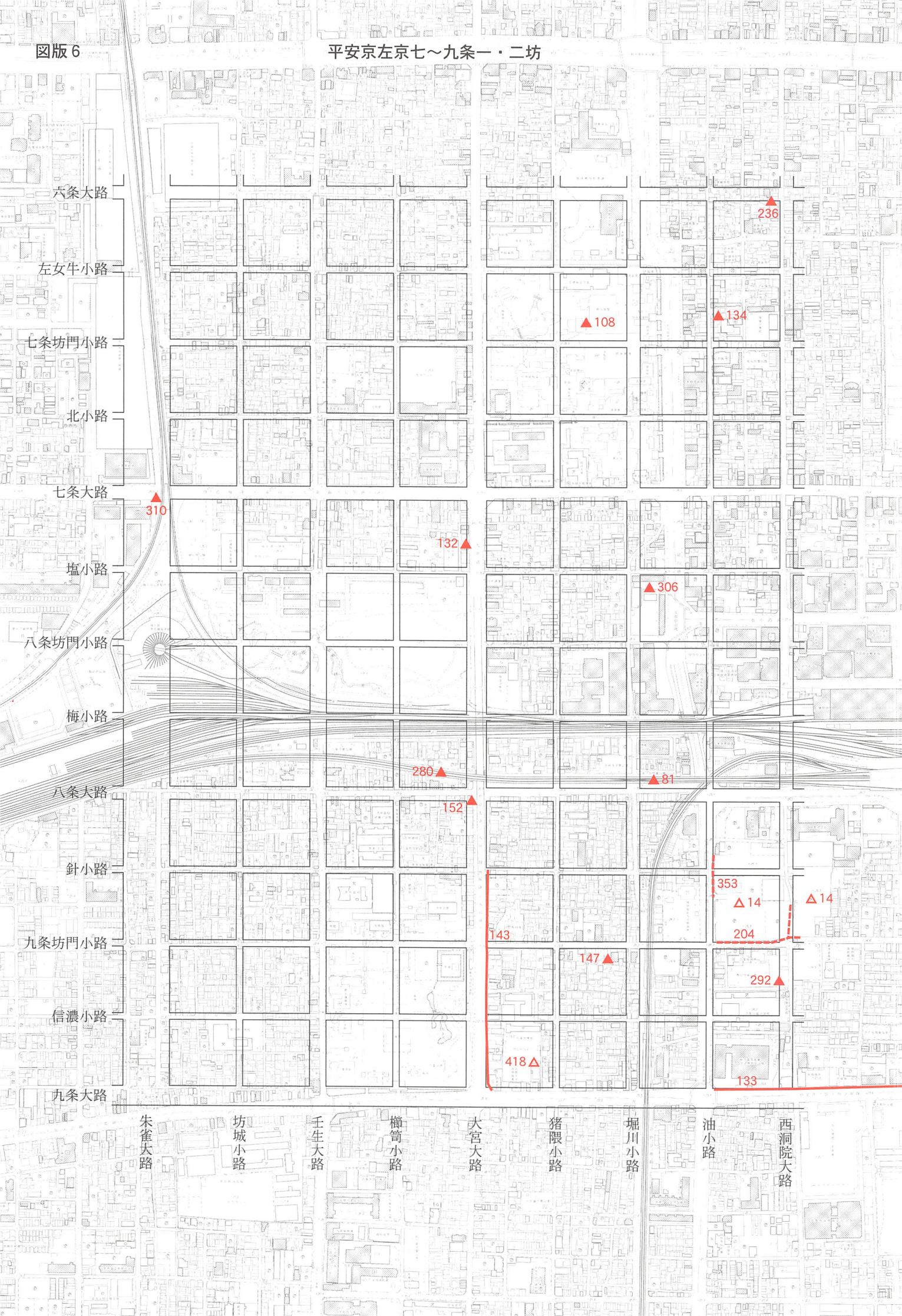


平安京左京四～六条三・四坊

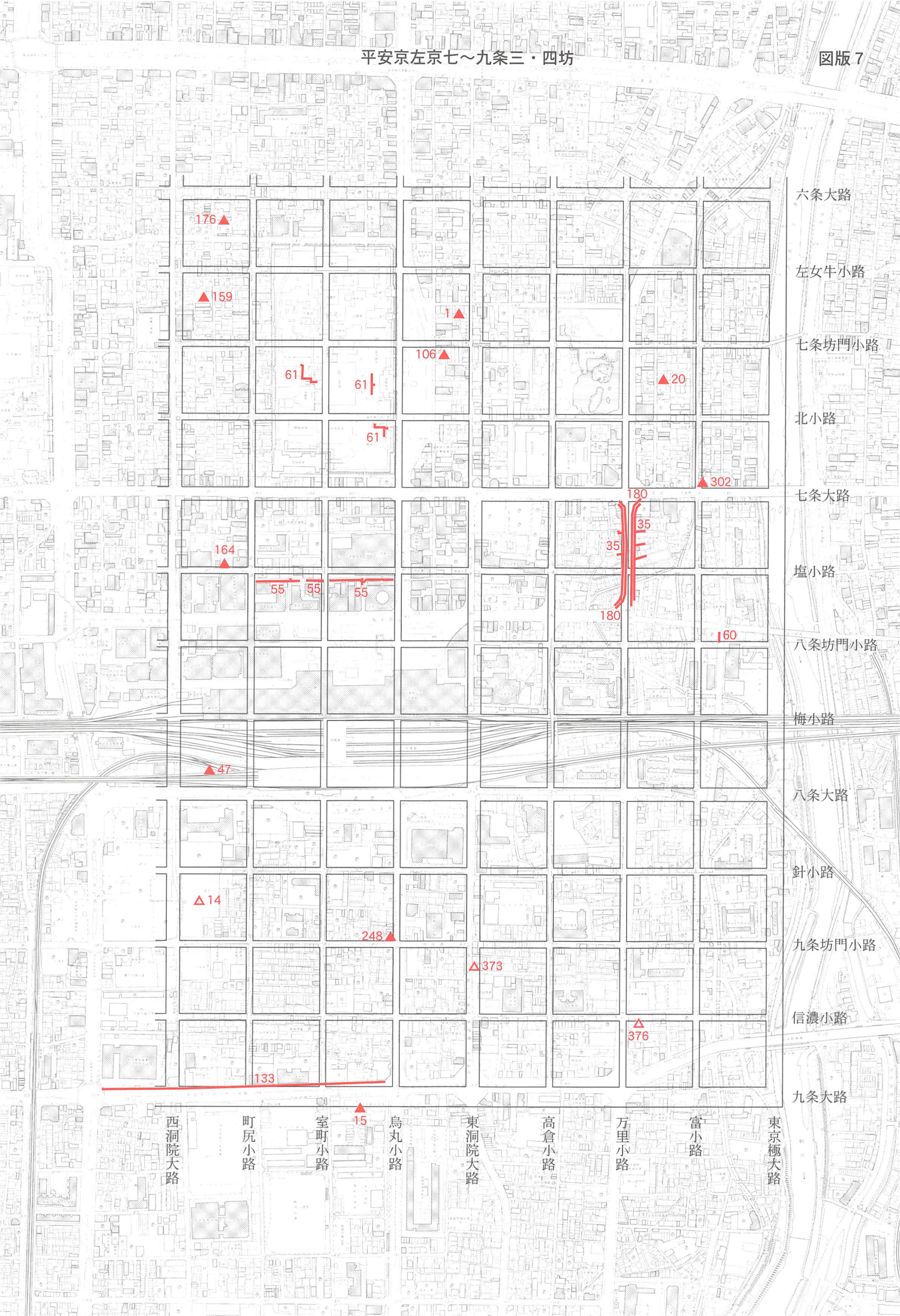


図版 6

平安京左京七～九条一・二坊



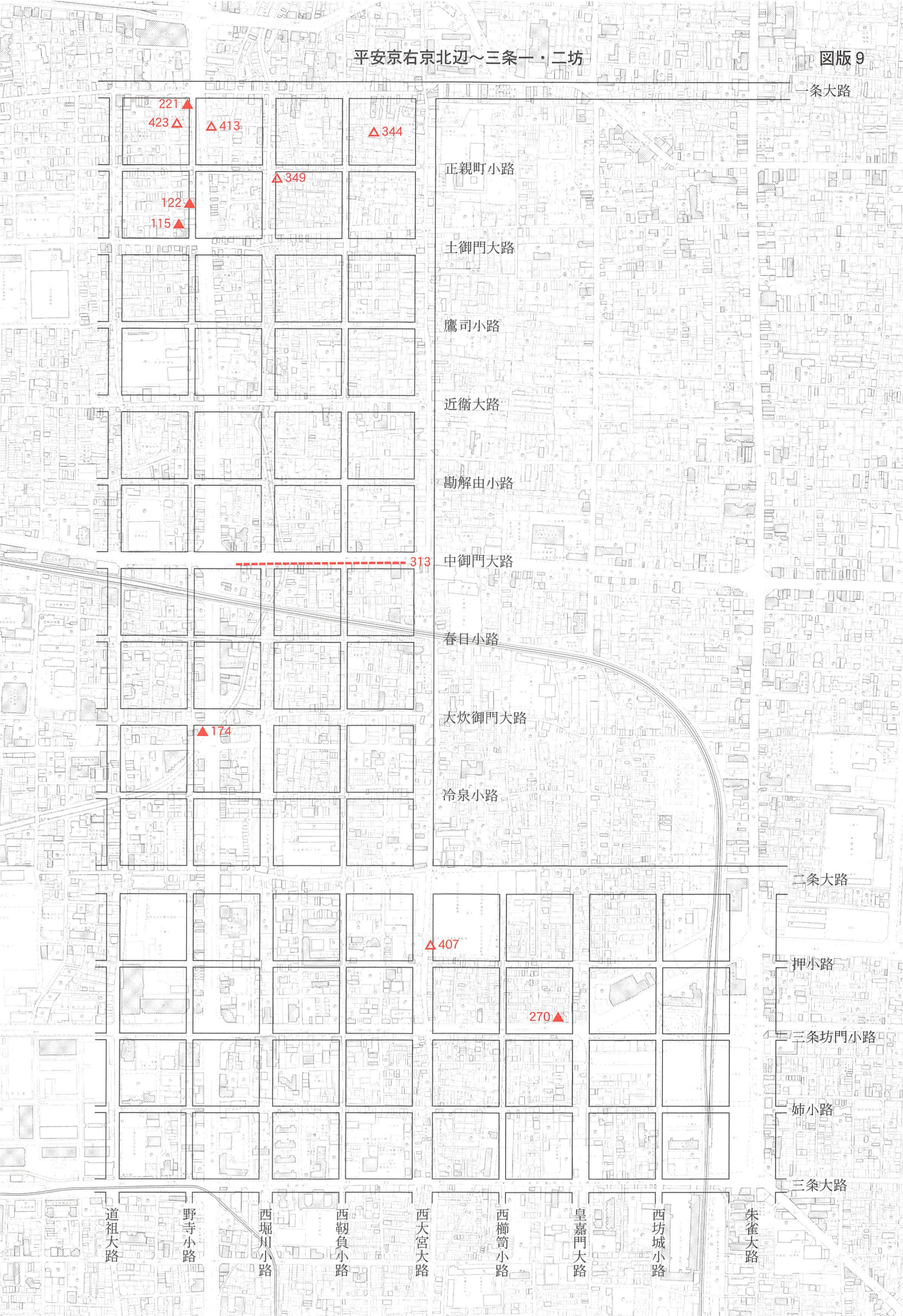
平安京左京七～九条三・四坊



図版８

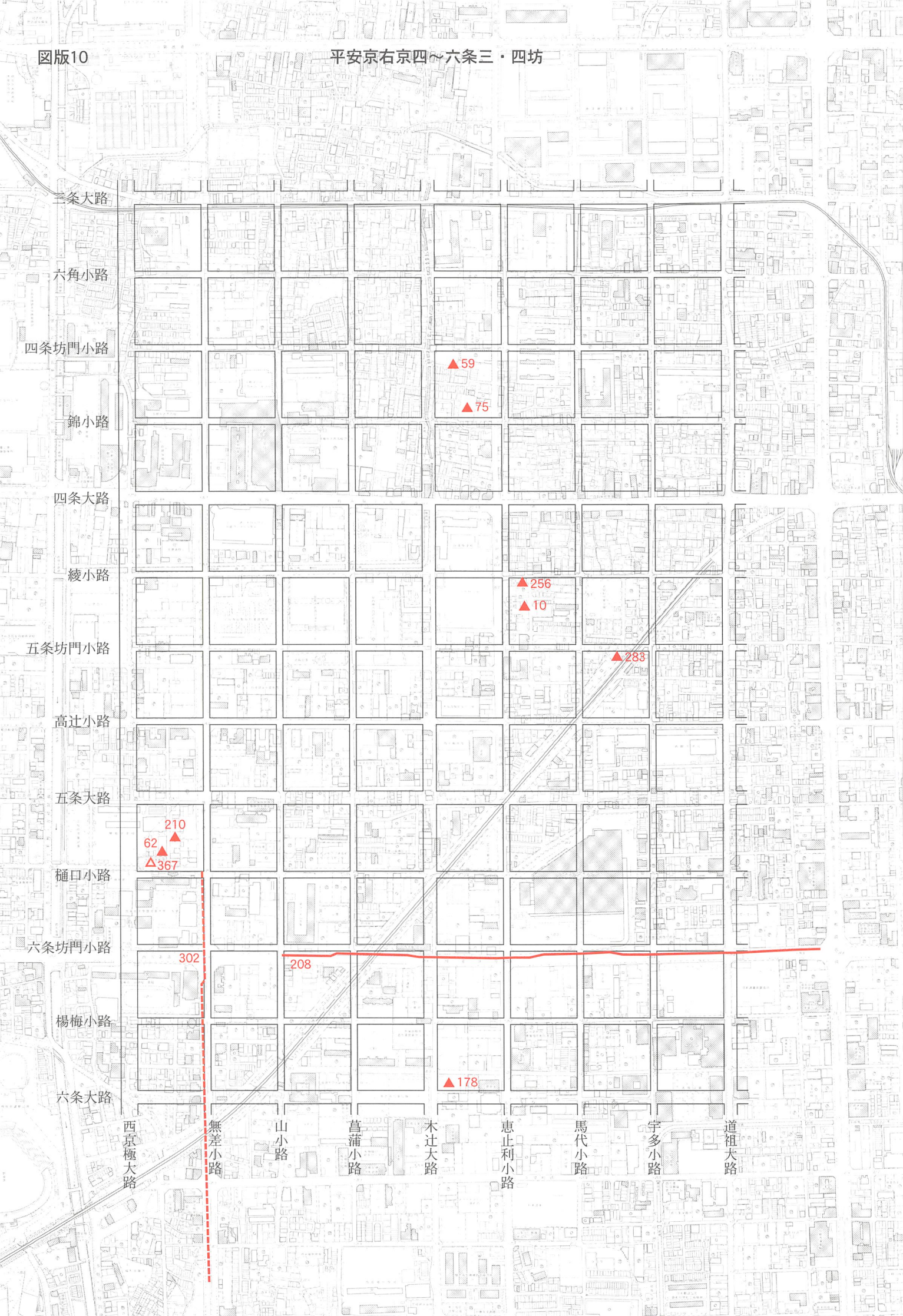
平安京右京北辺～三条三・四坊

平安京右京北辺～三条一・二坊

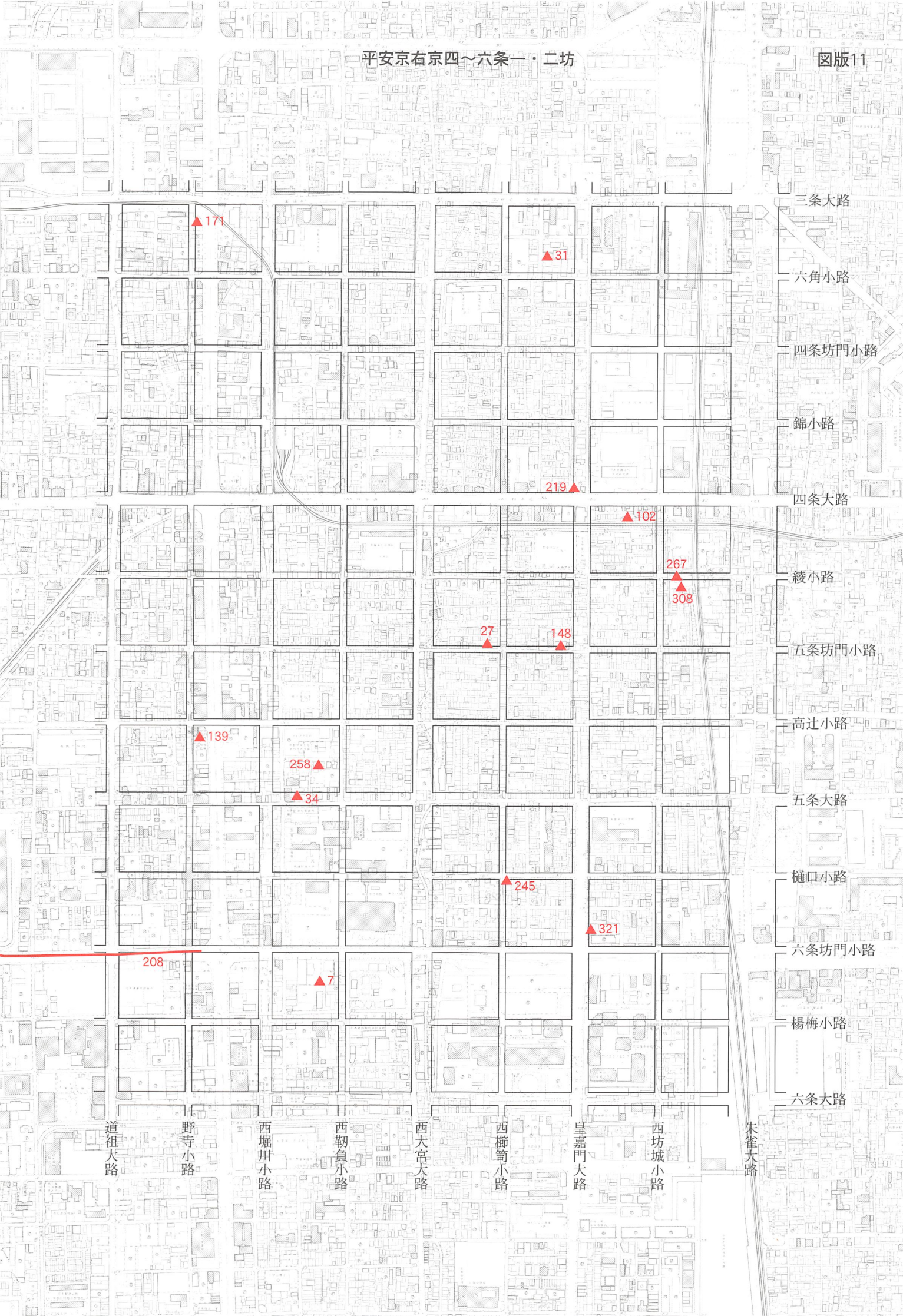


図版10

平安京右京四~六条三・四坊

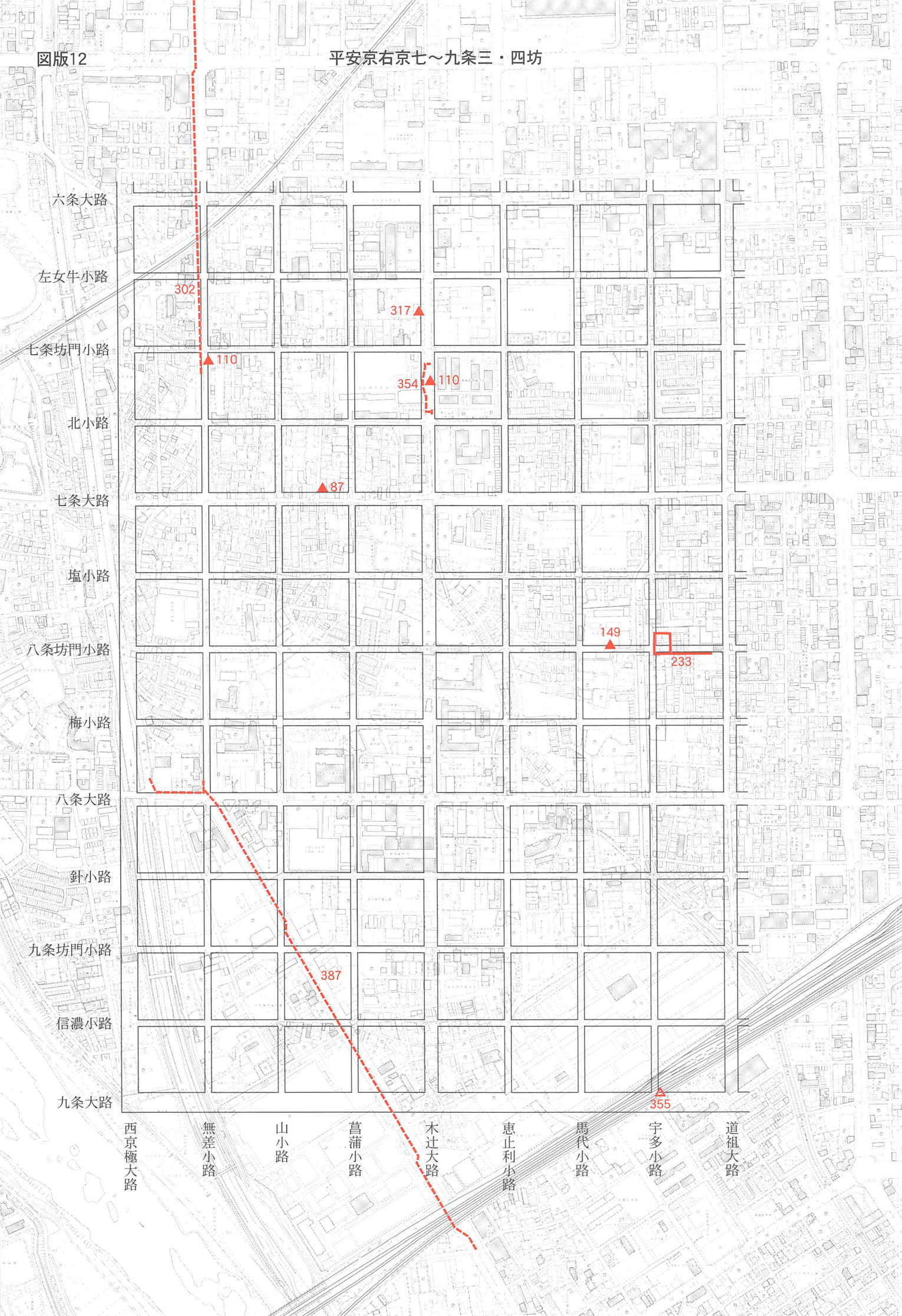


平安京右京四～六条一・二坊

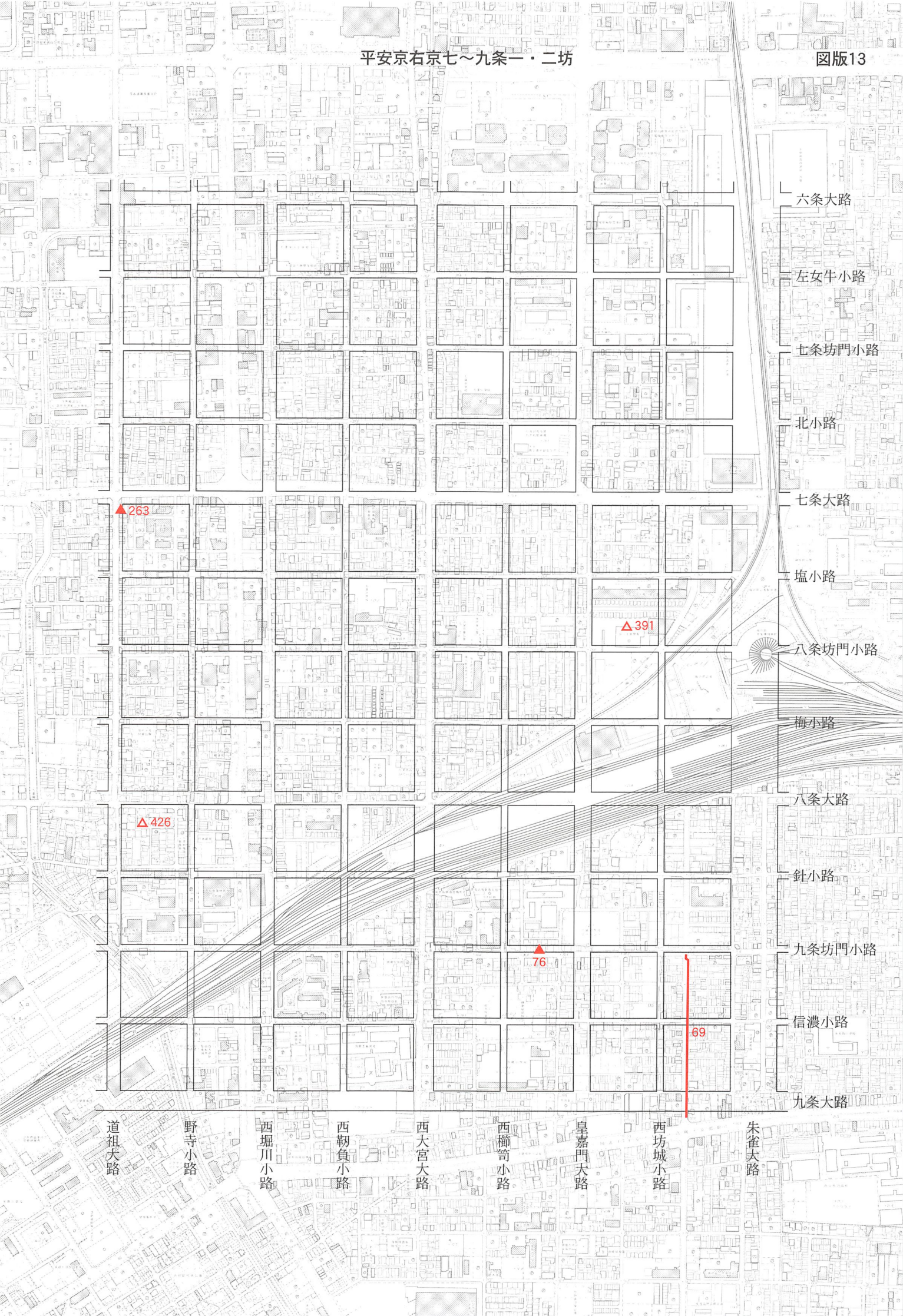


図版12

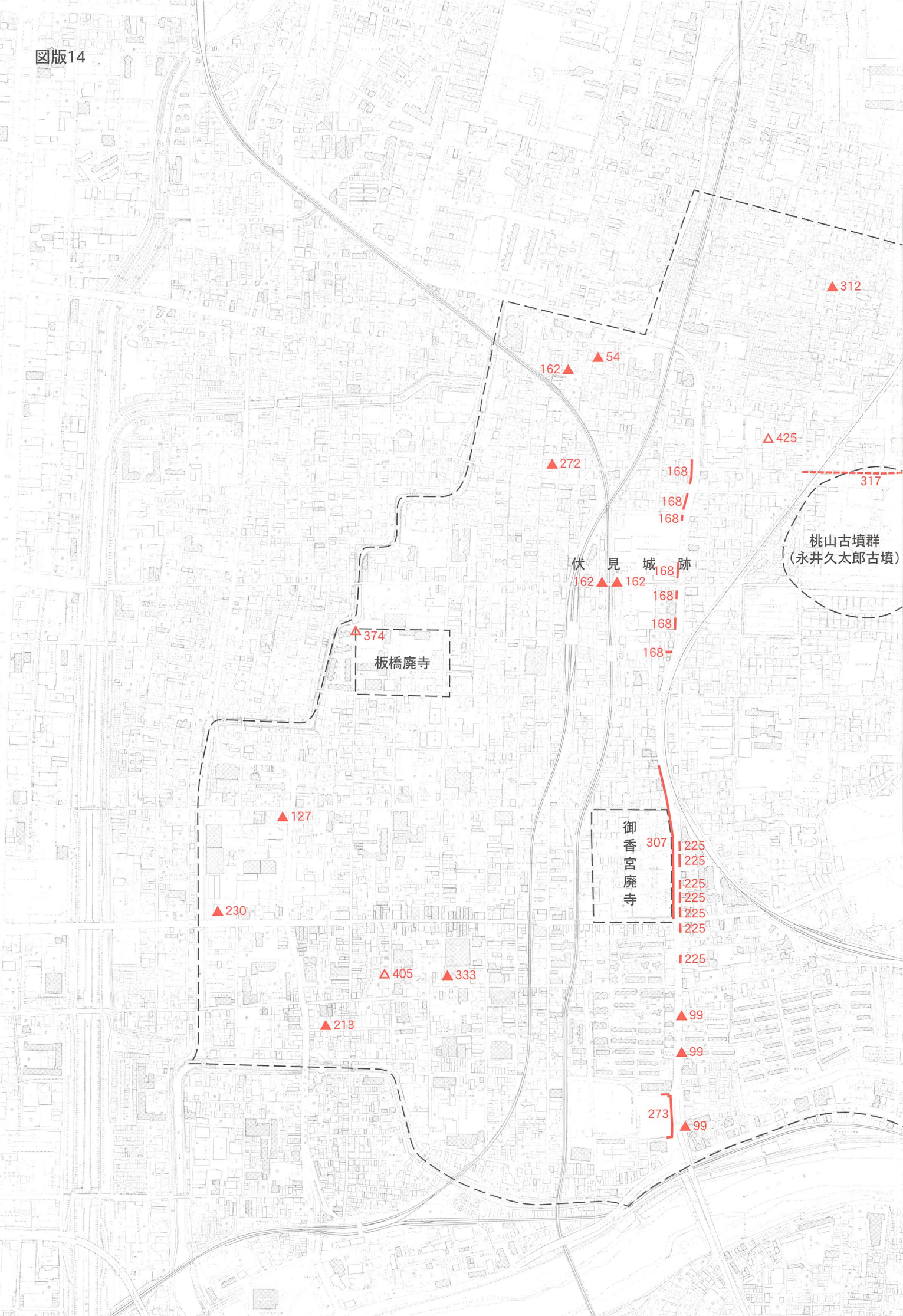
平安京右京七～九条三・四坊



平安京右京七～九条一・二坊



図版14


▲312
▲54
162▲
△425
▲272
168
317
168
168
桃山古墳群
（永井久太郎古墳）
伏見城跡
168
162▲▲162
168
168
168
△374
板橋廃寺
▲127
御香宮廃寺
307
225
225
225
225
225
225
225
▲230
△405
▲333
▲213
▲99
▲99
273
▲99

▲4
△412
△345
△314
317
桃山古墳群
（永井久太郎古墳）
伏見城跡
▲287
275▲
△386
▲44

1

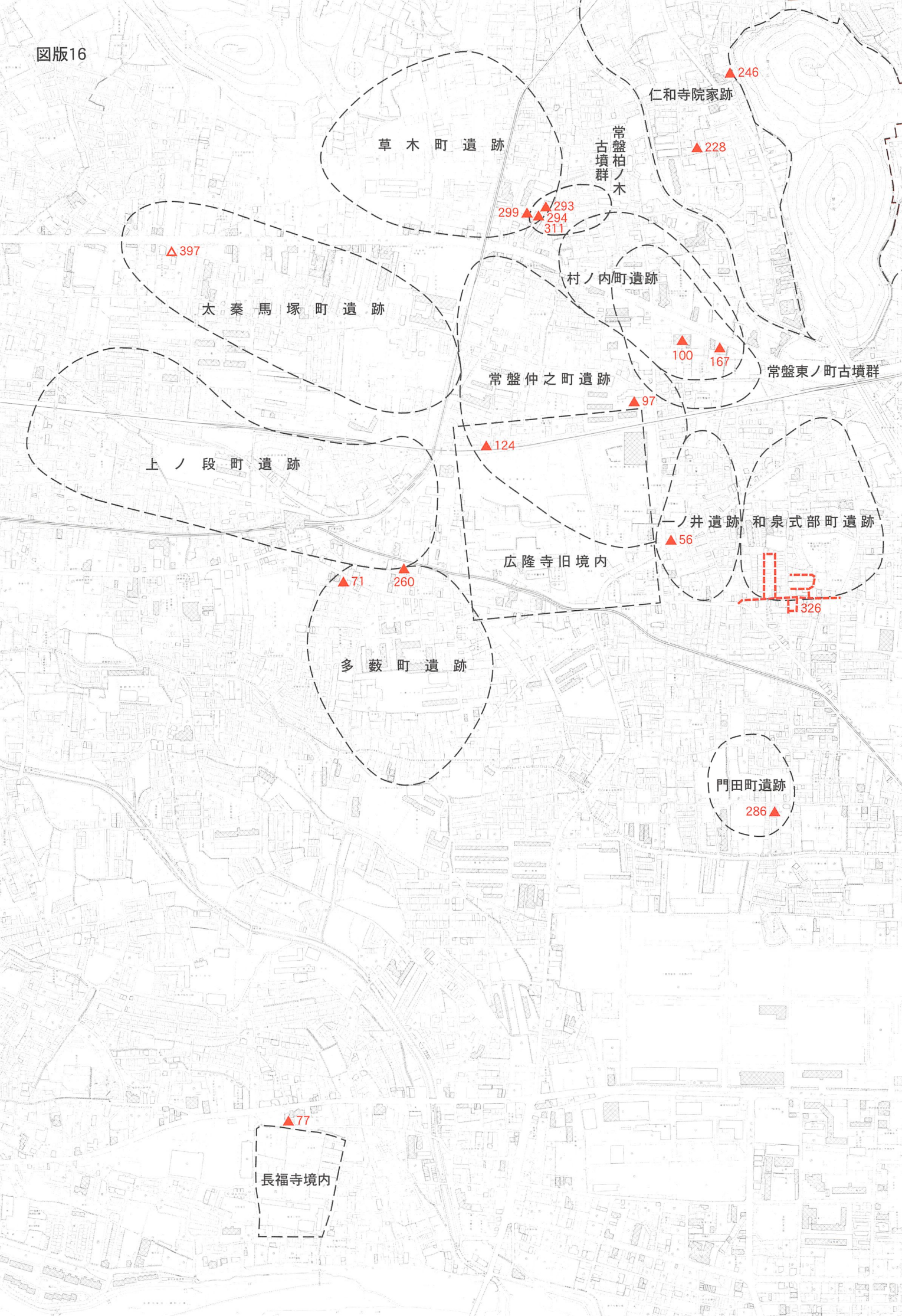
がんぜんどう廃寺
△259

2

太閤堤
▲93

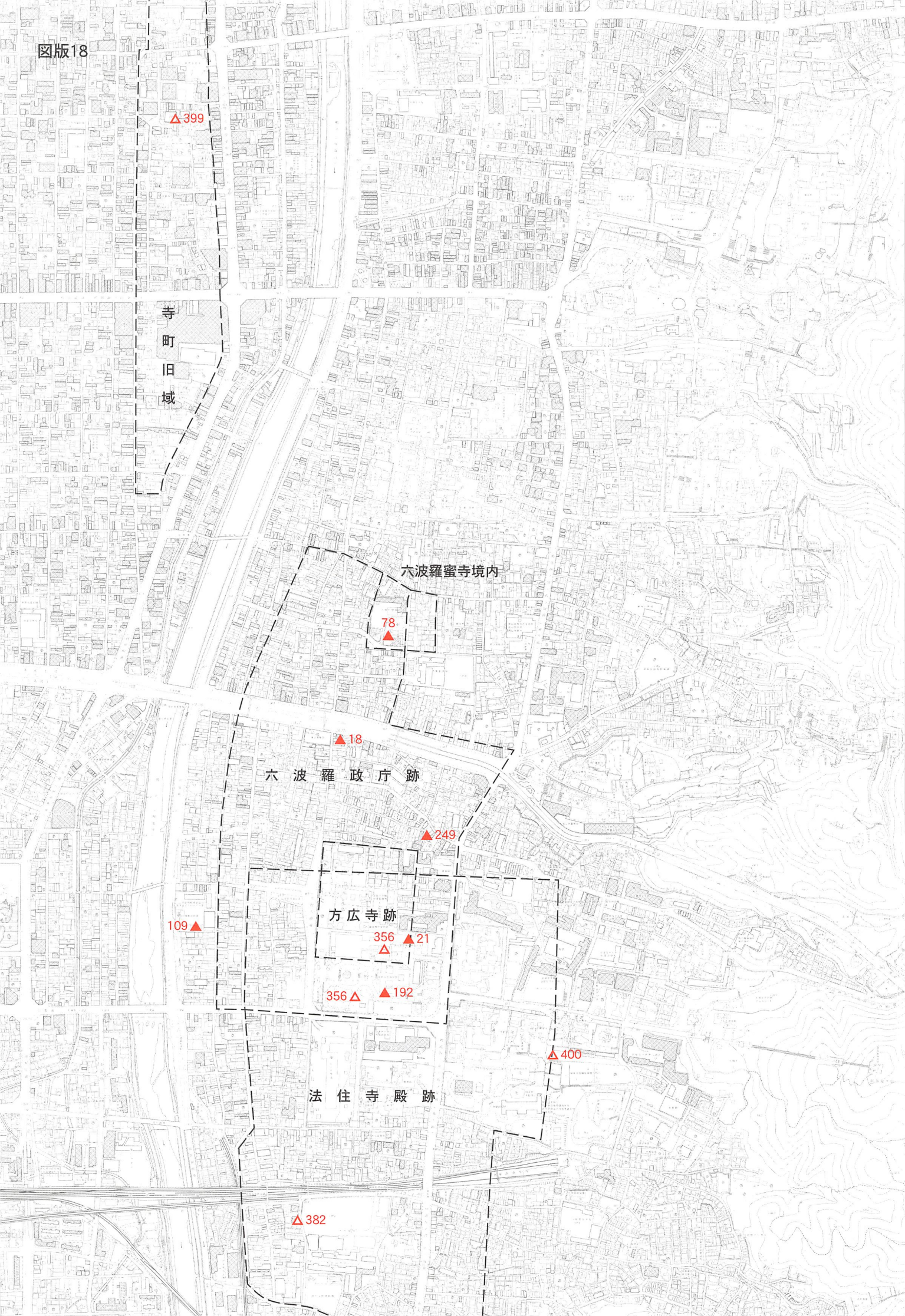
3

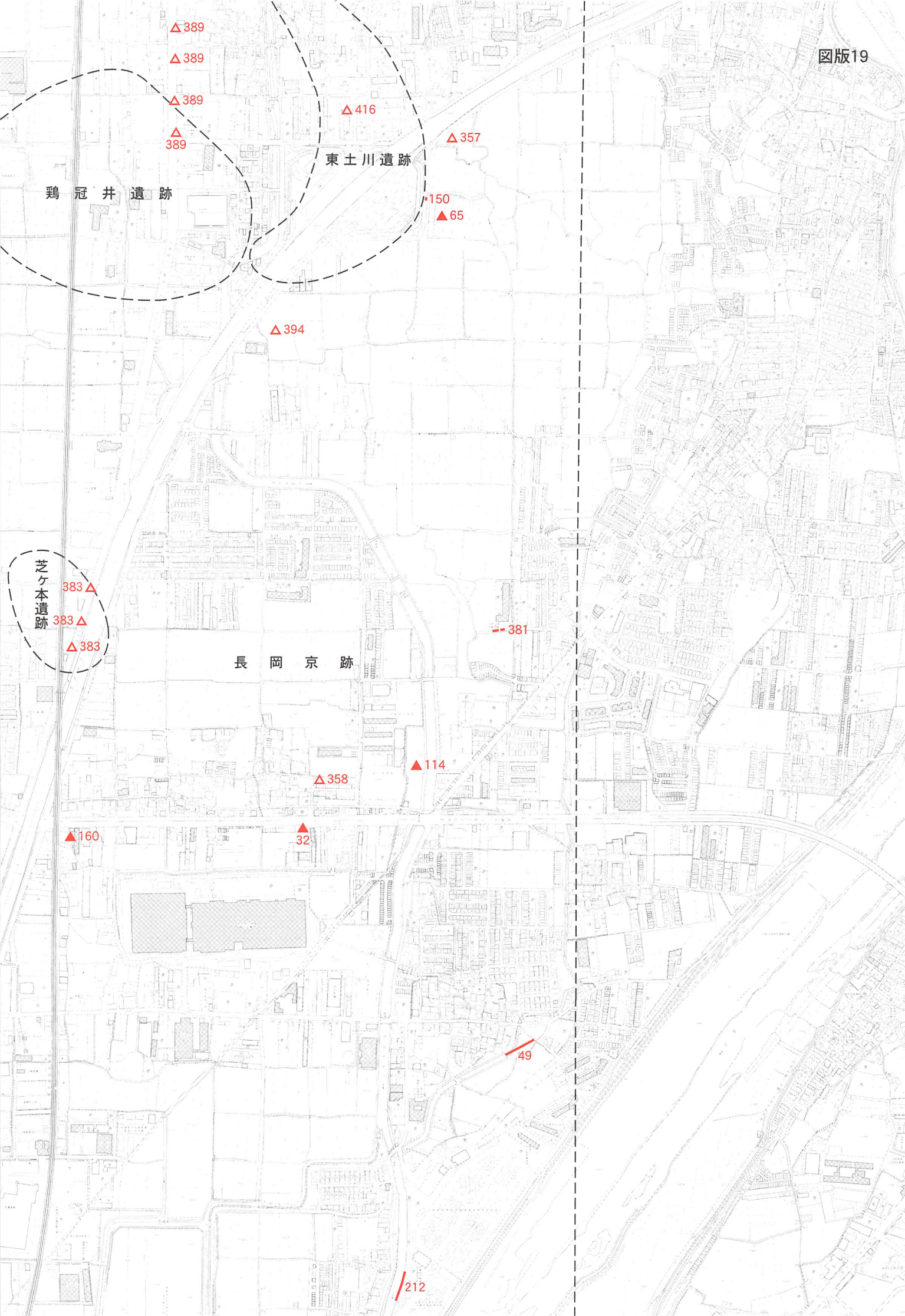
図版16


246
仁和寺院家跡
草木町遺跡
常盤柏ノ木古墳群
228
299
293
294
311
397
村ノ内町遺跡
太秦馬塚町遺跡
100
167
常盤東ノ町古墳群
常盤仲之町遺跡
97
124
上ノ段町遺跡
一ノ井遺跡
和泉式部町遺跡
56
広隆寺旧境内
71
260
326
多藪町遺跡
門田町遺跡
286
77
長福寺境内

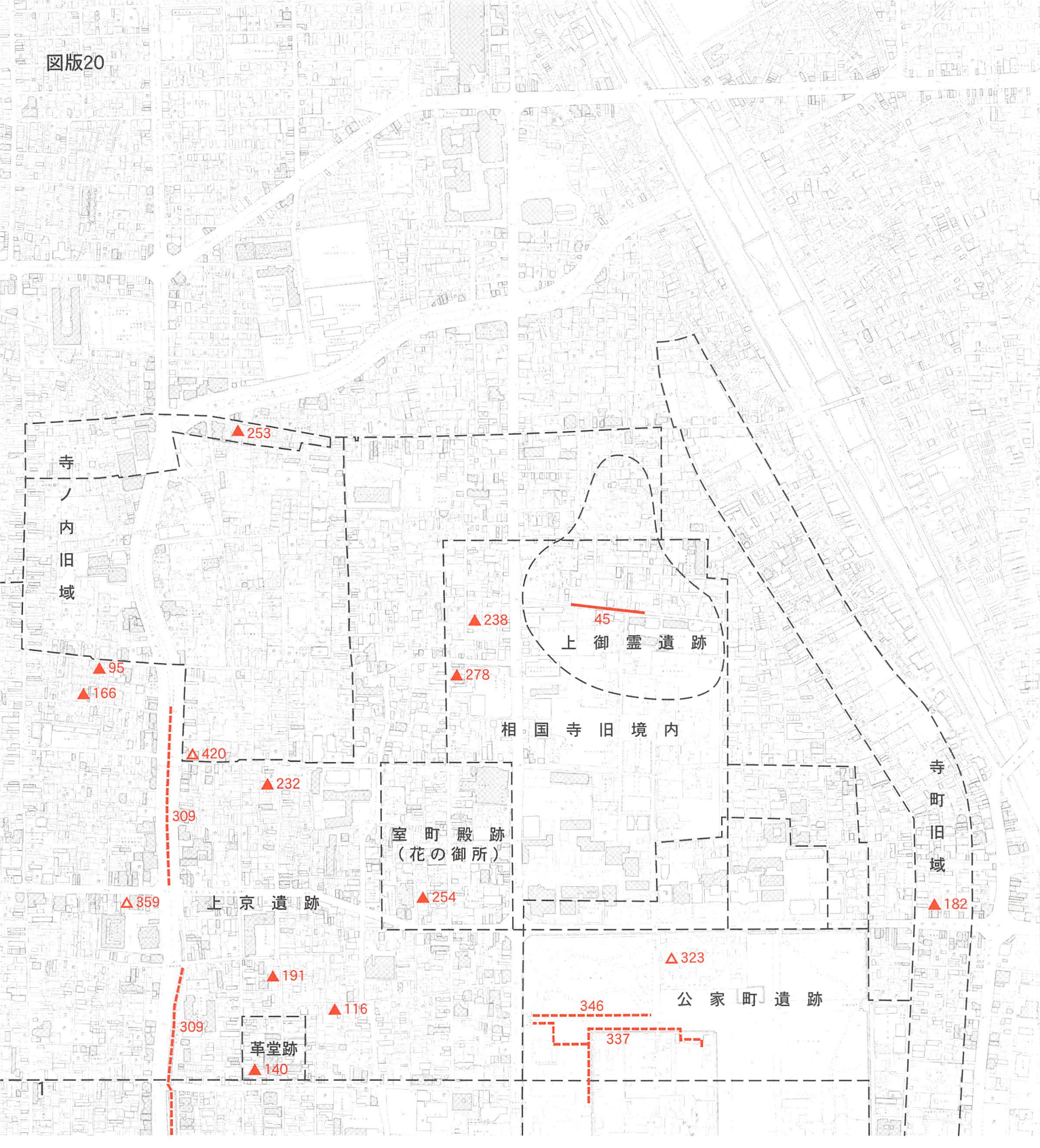
224
223
田中構え跡
上終町遺跡
285
北白川廃寺
155
202
吉田上大路町遺跡
118
104
吉田二本松町遺跡
296
白河街区跡
得長寿院跡
183
411
尊勝寺跡
295
延勝寺跡
58
117
101
岡崎遺跡
36
125
98
414
法勝寺跡
271
378
415
禅林寺境内
211

図版18

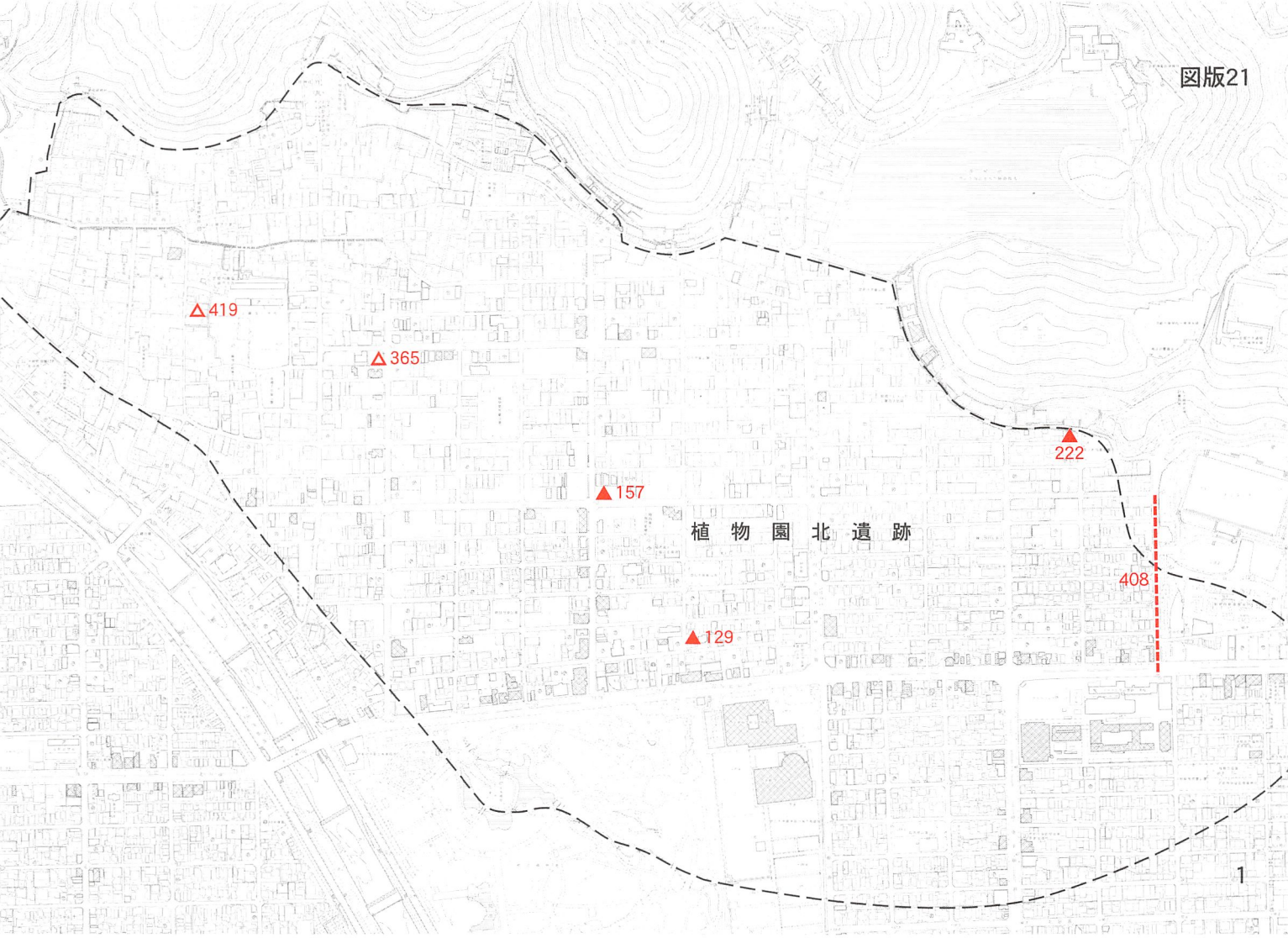

△399
寺町旧域
六波羅蜜寺境内
78
18
六波羅政庁跡
249
方広寺跡
109
356
21
356
192
400
法住寺殿跡
382

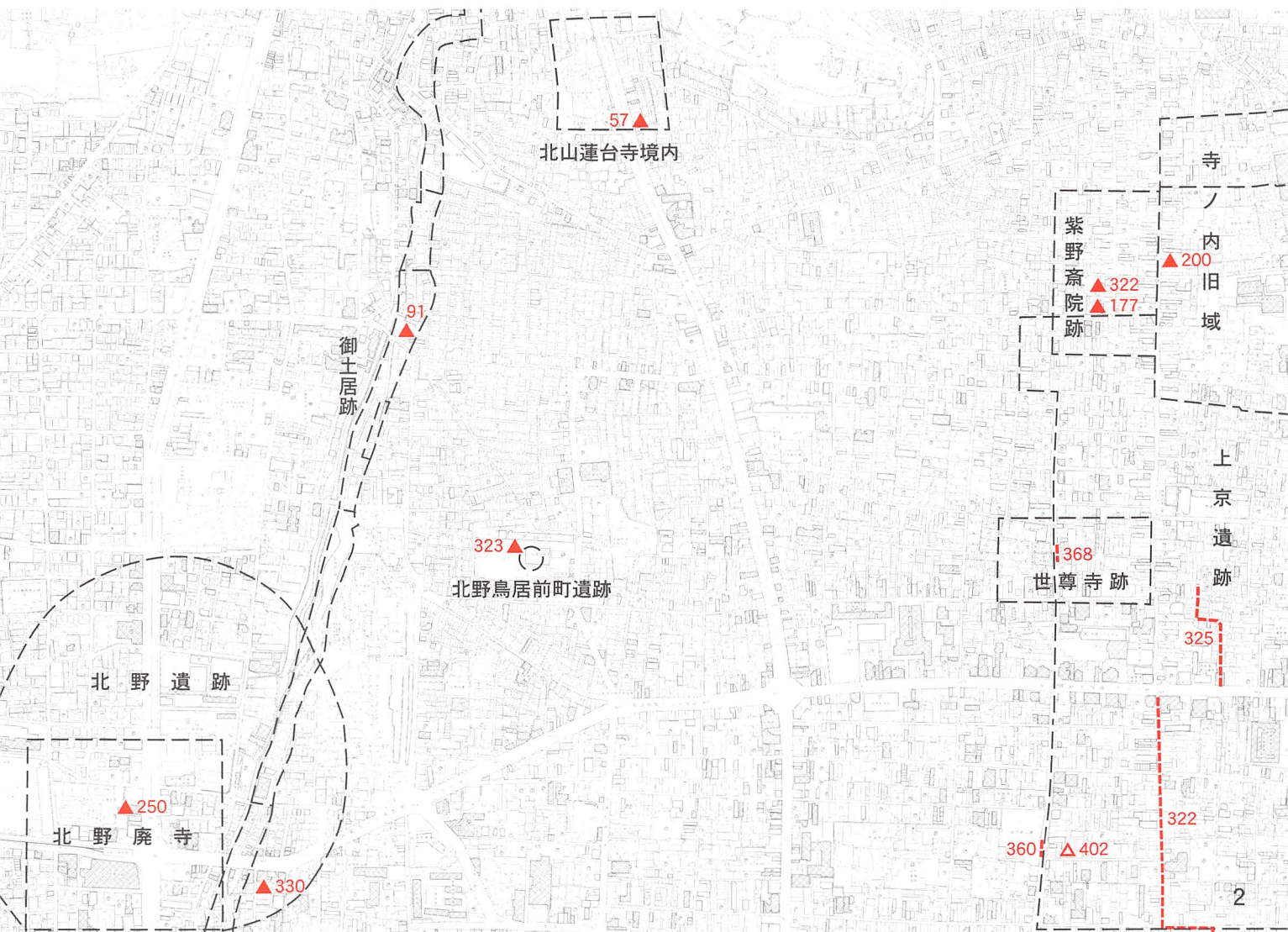

△389
△389
△389
△389
△416
△357
東土川遺跡
鶏冠井遺跡
150
▲65
△394
芝ケ本遺跡
383△
383△
△383
長岡京跡
381
▲114
△358
▲160
32
49
212

図版20

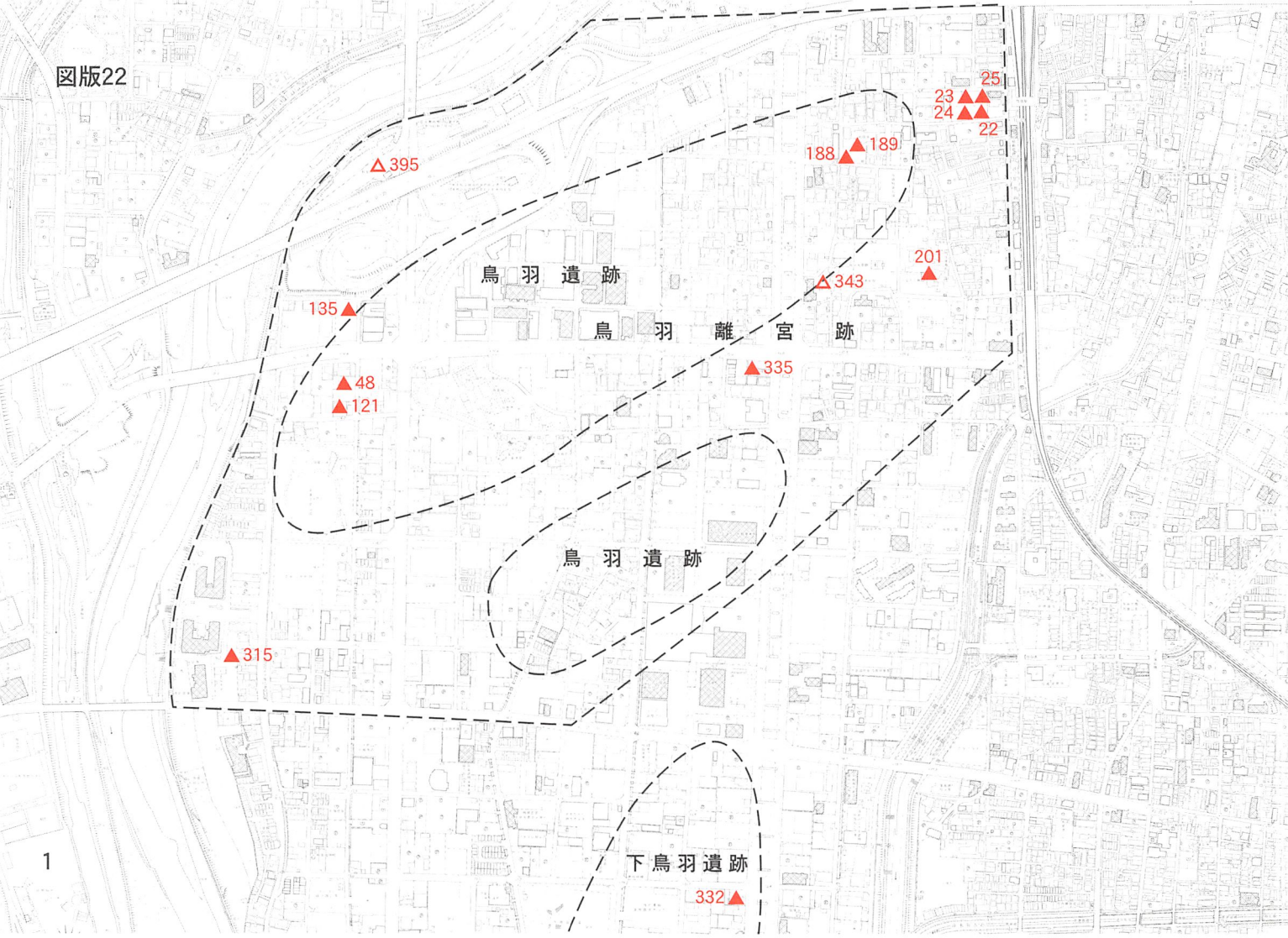

寺ノ内旧域
▲253
▲238
45
上御霊遺跡
▲278
▲95
▲166
相国寺旧境内
△420
▲232
309
室町殿跡
（花の御所）
寺町旧域
△359
上京遺跡
▲254
▲182
△323
▲191
公家町遺跡
346
▲116
309
337
革堂跡
▲140
1

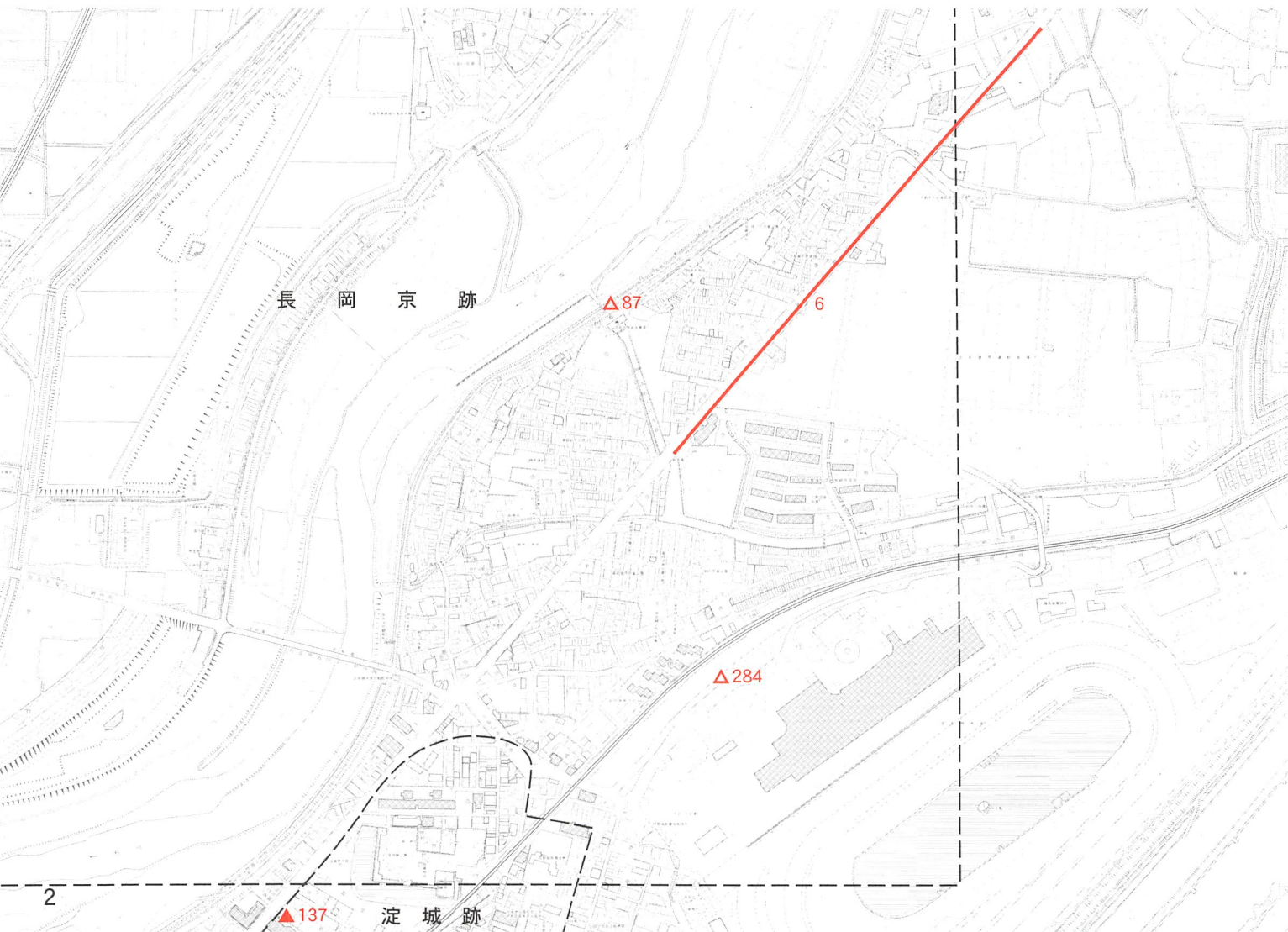
▲314
蟹ヶ坂瓦窯跡
403
△
404
▲337
角社瓦窯跡
2
3

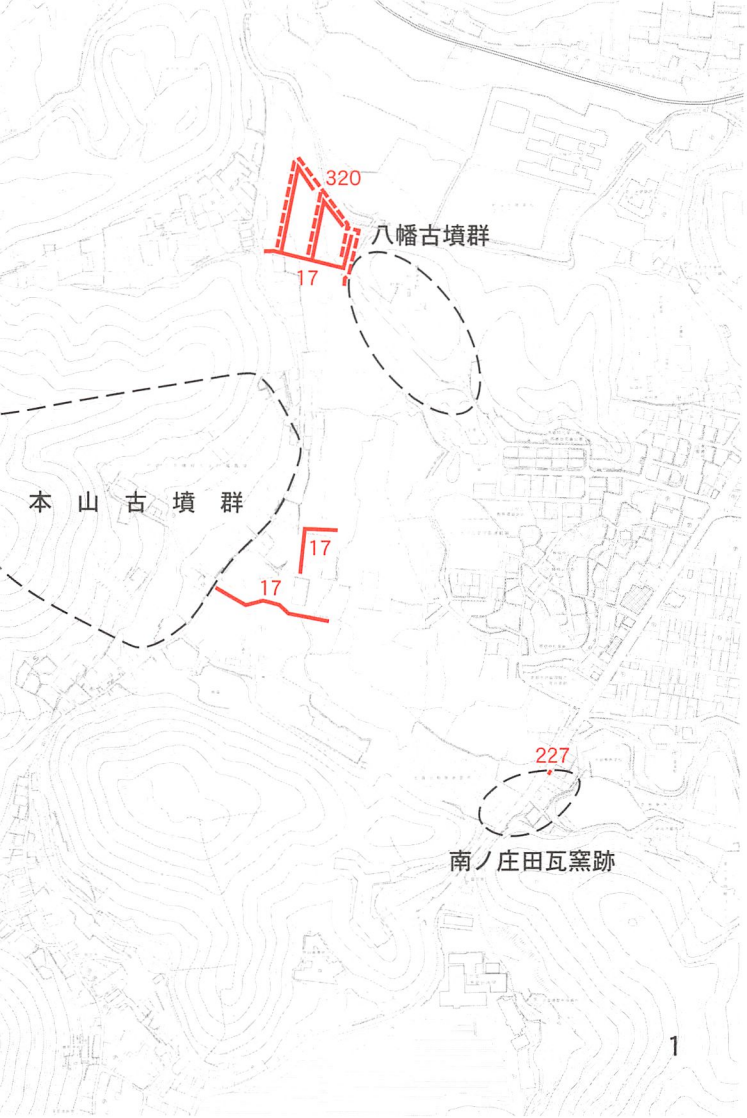

△419
△365
222
157
植物園北遺跡
408
129
1


57
北山蓮台寺境内
寺ノ内旧域
紫野斎院跡
200
322
177
91
御土居跡
323
北野鳥居前町遺跡
368
世尊寺跡
上京遺跡
325
北野遺跡
250
北野廃寺
330
322
360
△402
2

図版22

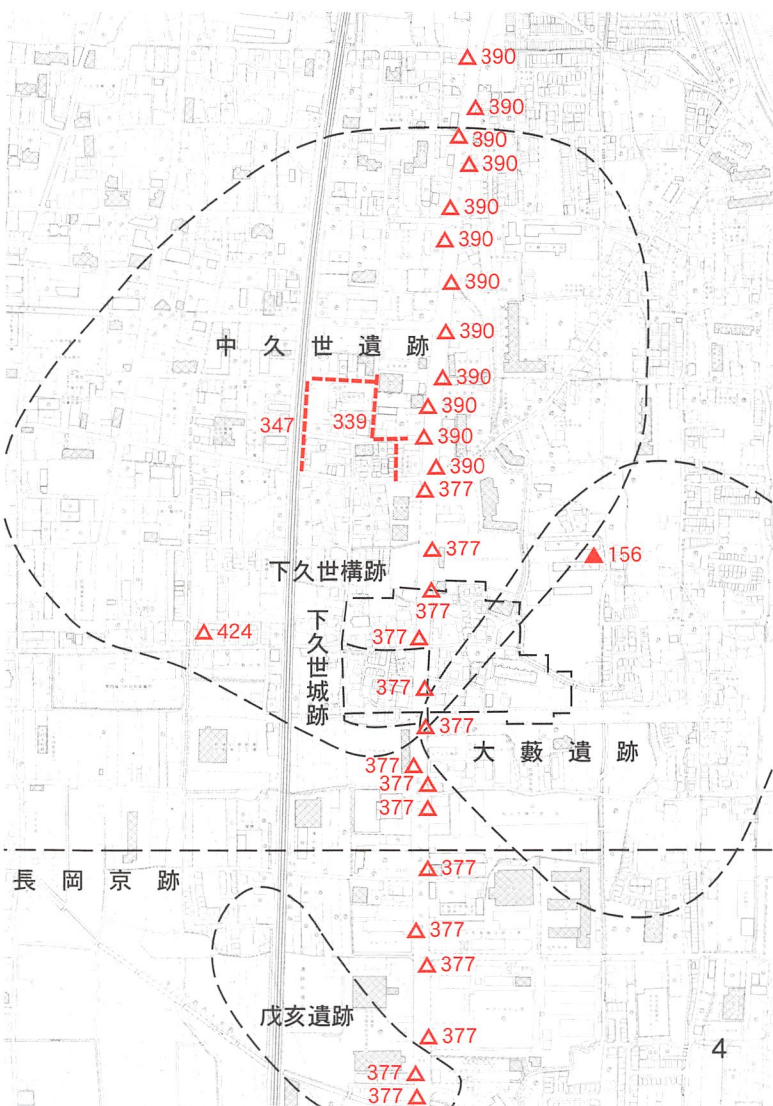

△395
25
23
24
22
188
189
201
△343
鳥 羽 遺 跡
135
鳥 羽 離 宮 跡
335
48
121
鳥 羽 遺 跡
315
下鳥羽遺跡
332
1


長 岡 京 跡
△87
6
△284
137
淀 城 跡
2

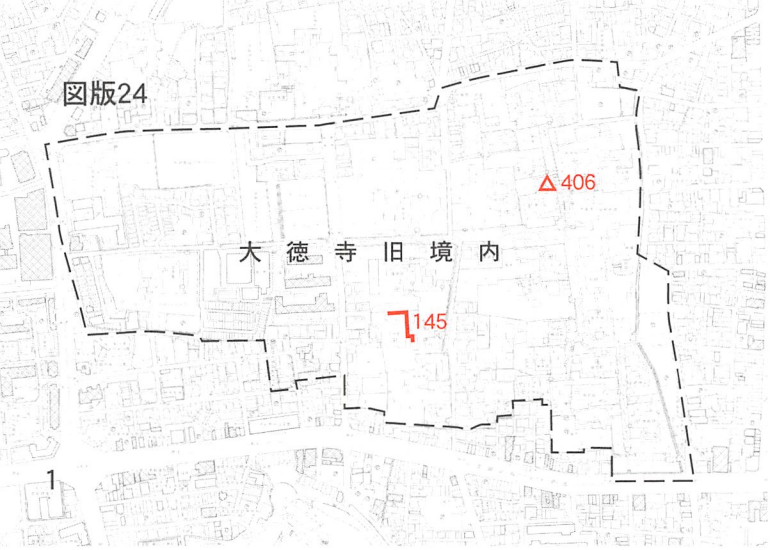

320
八幡古墳群
17
本 山 古 墳 群
17
17
227
南ノ庄田瓦窯跡
1

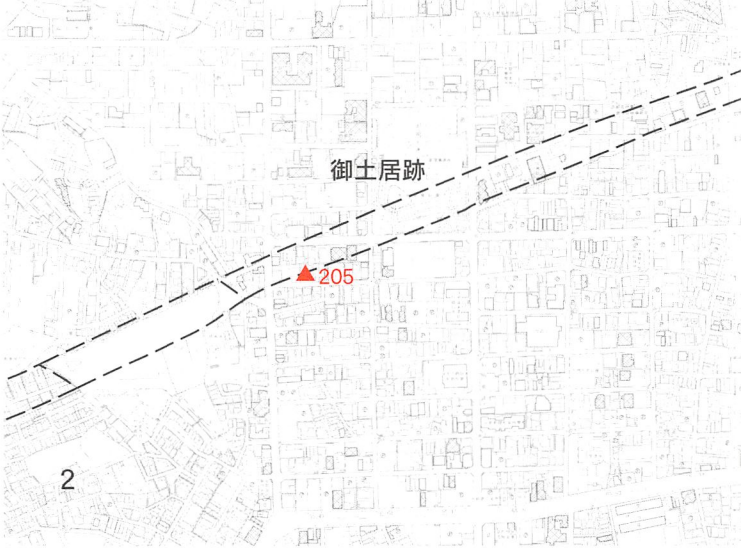
42
山 科 本 願 寺 跡
2

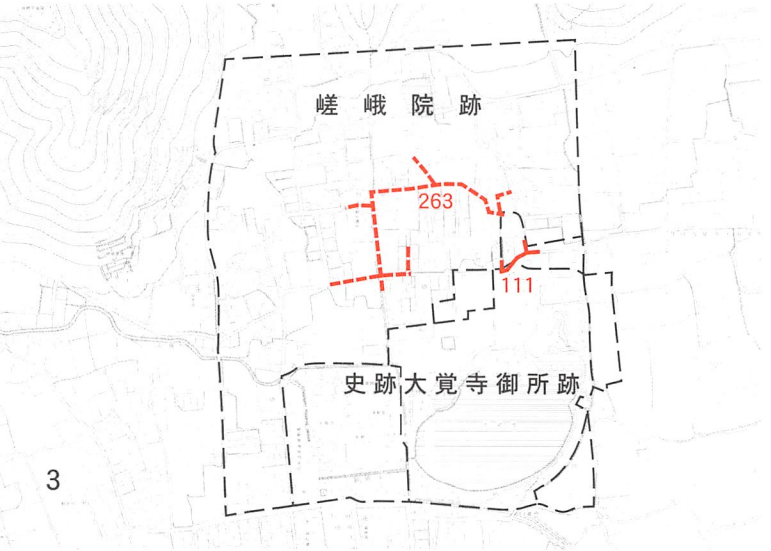
67
371
384
366
193
193
43
243
中 臣 遺 跡
中臣十三塚
364
勧修寺旧境内
247
3

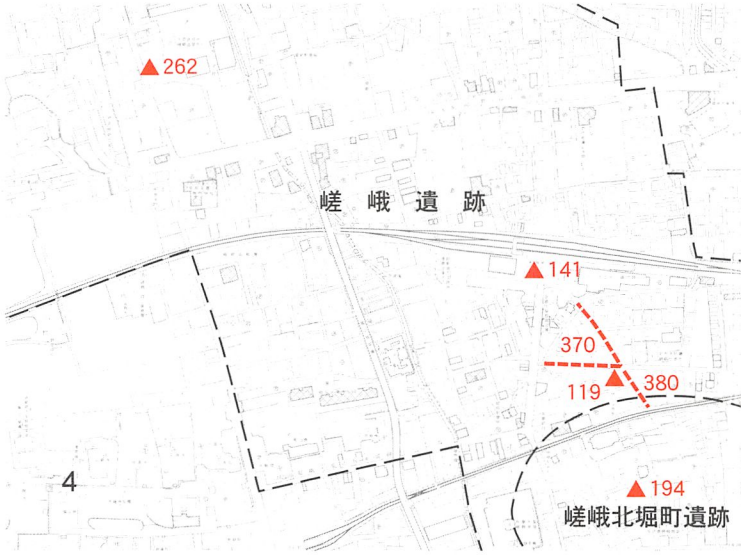

390
390
390
390
390
390
390
390
中 久 世 遺 跡
390
390
347
339
390
390
377
377
156
下久世構跡
377
424
下久世城跡
377
377
377
大 藪 遺 跡
377
377
377
長 岡 京 跡
377
377
377
戊亥遺跡
377
377
377
4

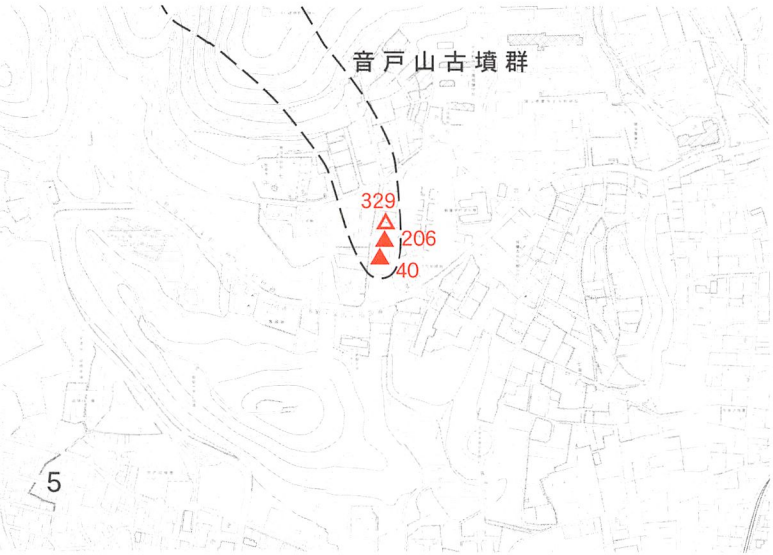
図版24


△406
大徳寺旧境内
145
1


御土居跡
▲205
2


嵯峨院跡
263
111
史跡大覚寺御所跡
3

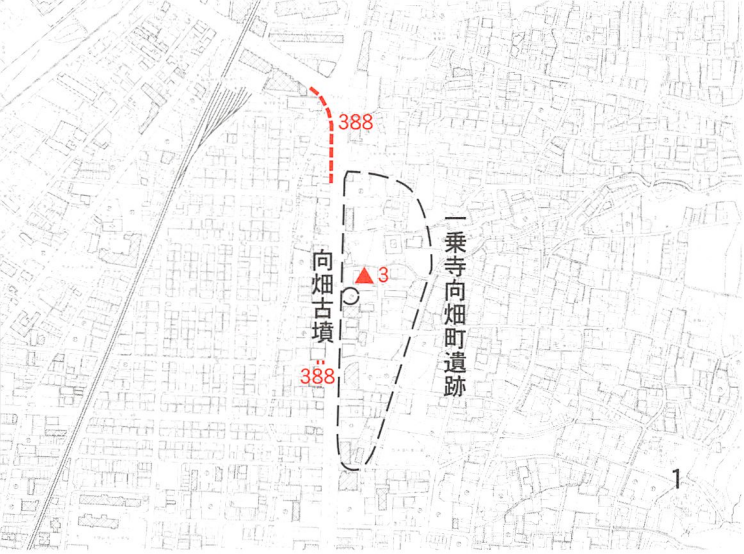

▲262
嵯峨遺跡
▲141
370
119
380
▲194
嵯峨北堀町遺跡
4


音戸山古墳群
329
△
▲206
▲40
5

名勝龍安寺庭園
288
6

▲11
仁和寺院家跡
7

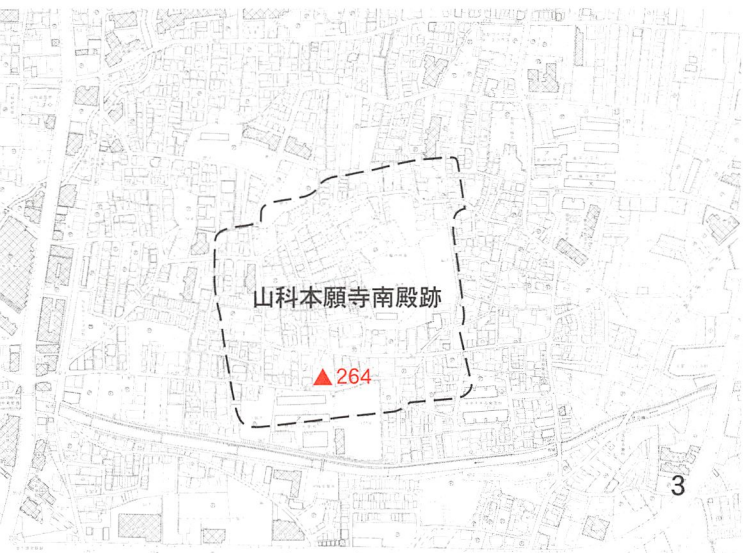
▲284
修学院遺跡
8


388
一乗寺向畑町遺跡
向畑古墳
▲3
388

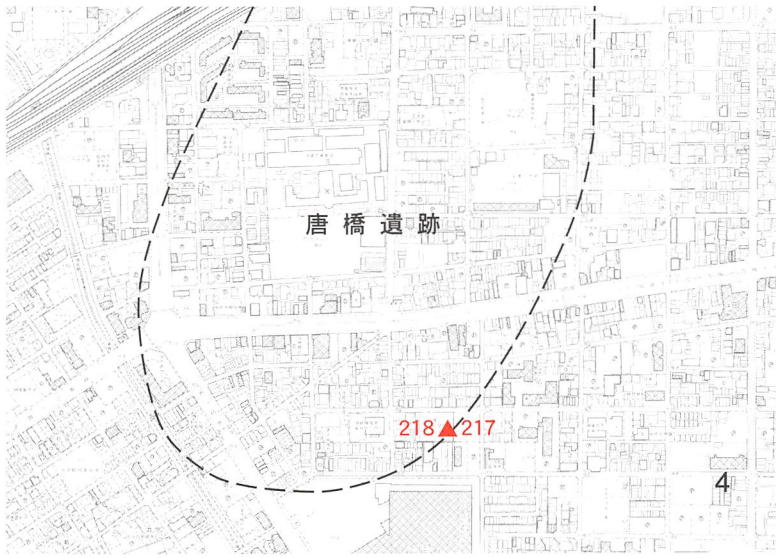
1

御土居跡
▲303
▲303
▲303
法興院跡
▲303
▲303
▲303
▲303
▲303
▲303

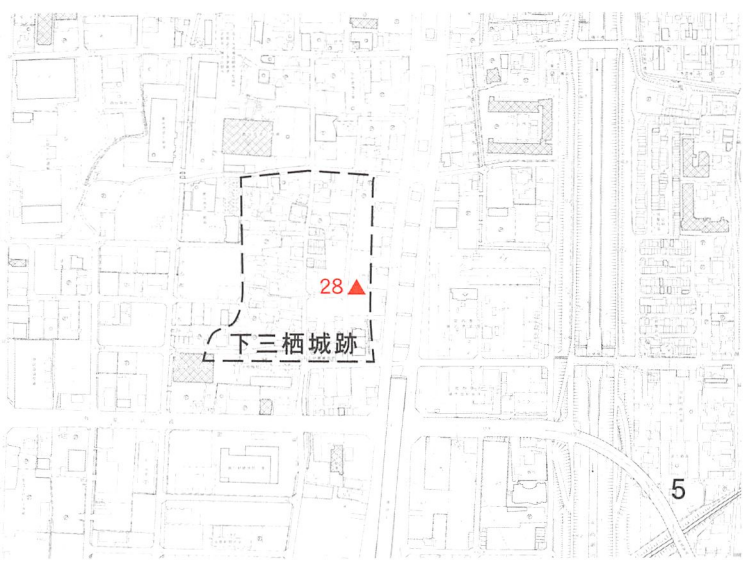
2


山科本願寺南殿跡
▲264

3


唐橋遺跡
218
▲217

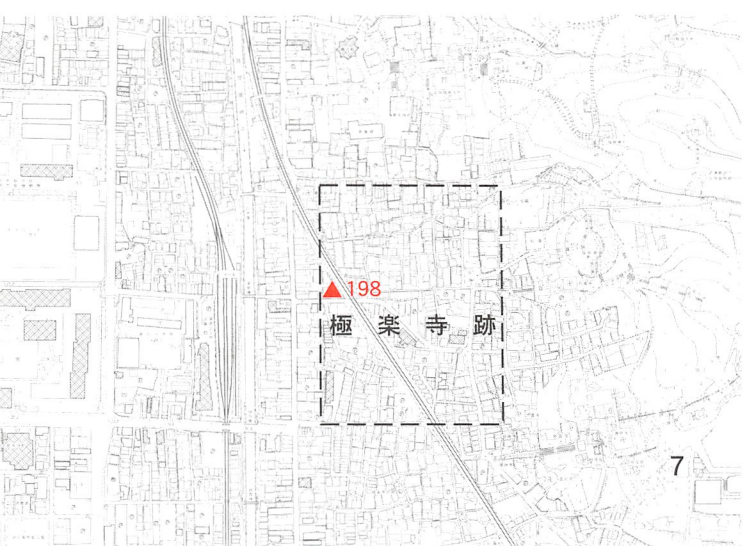
4


28▲
下三栖城跡

5

法性寺跡
12▲

6

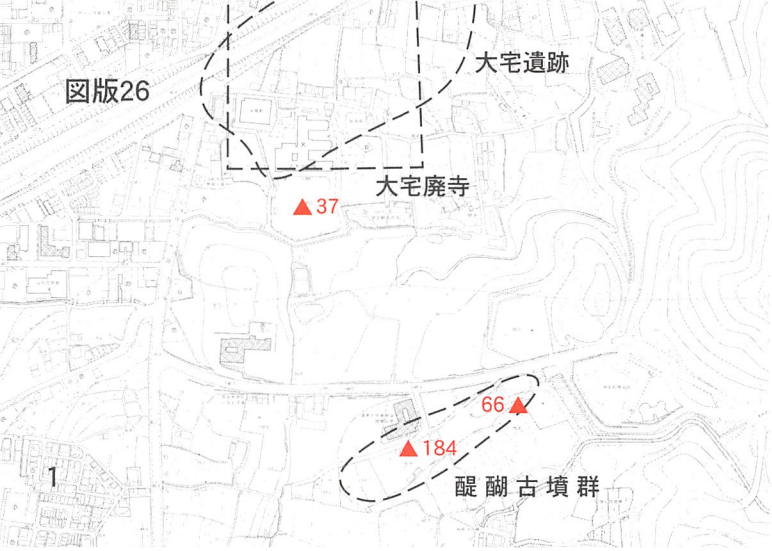

▲198
極楽寺跡

7

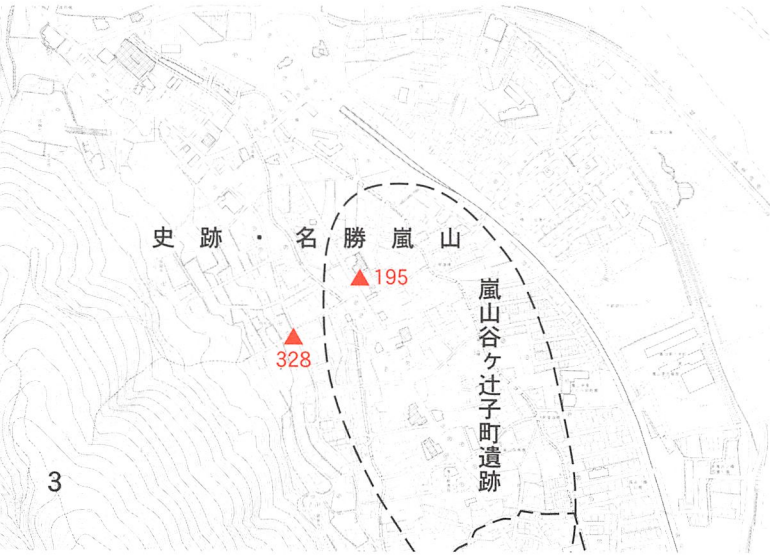
▲63
安楽行院跡
△417
深草寺跡
深草坊町遺跡

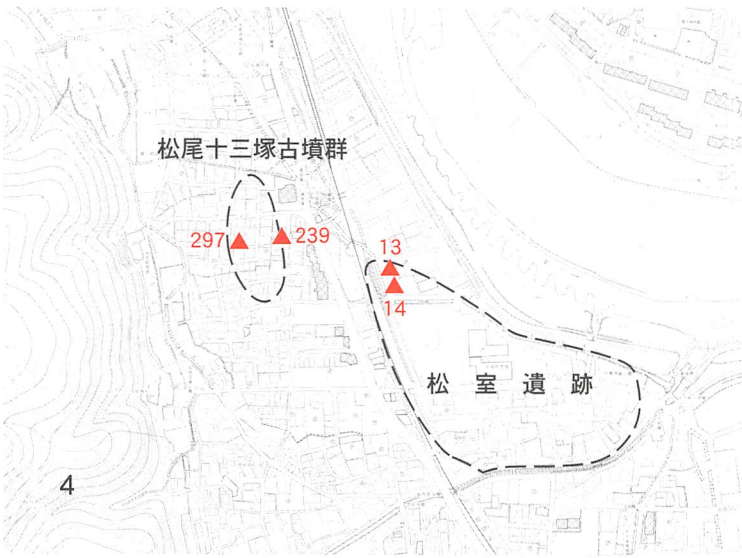
8

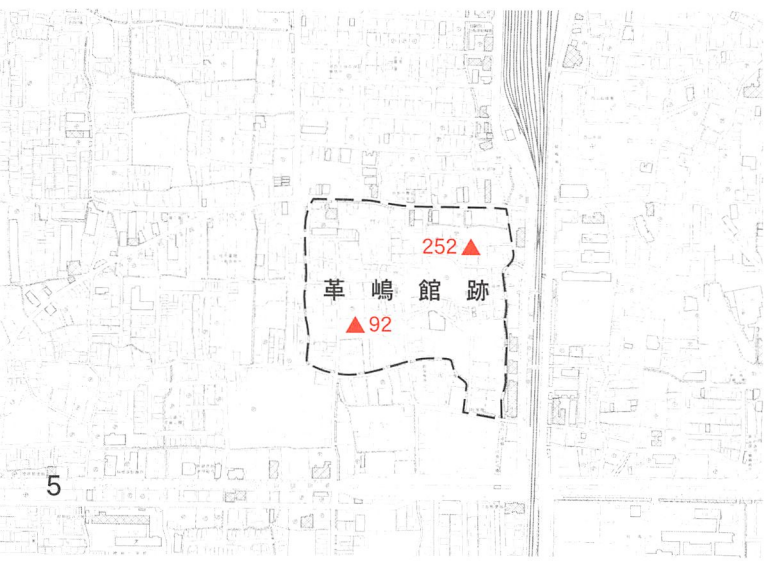
図版26

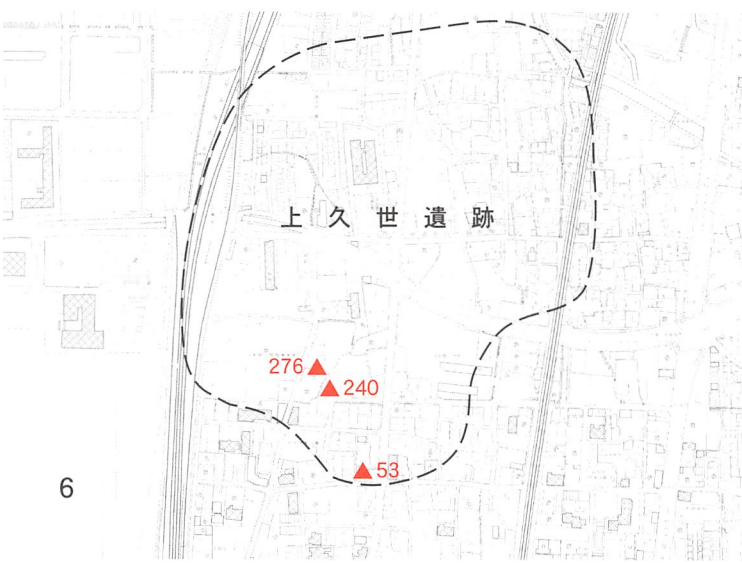

大宅遺跡
大宅廃寺
37
66
184
醍醐古墳群
1

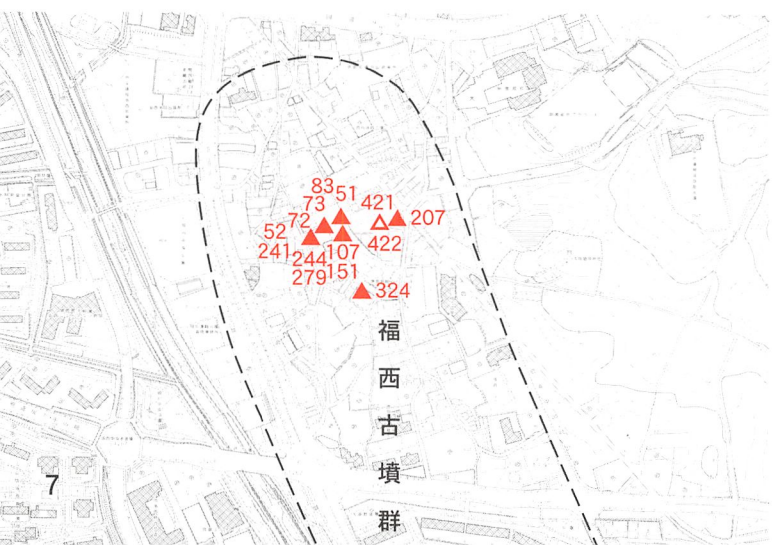
123
史跡醍醐寺境内
2

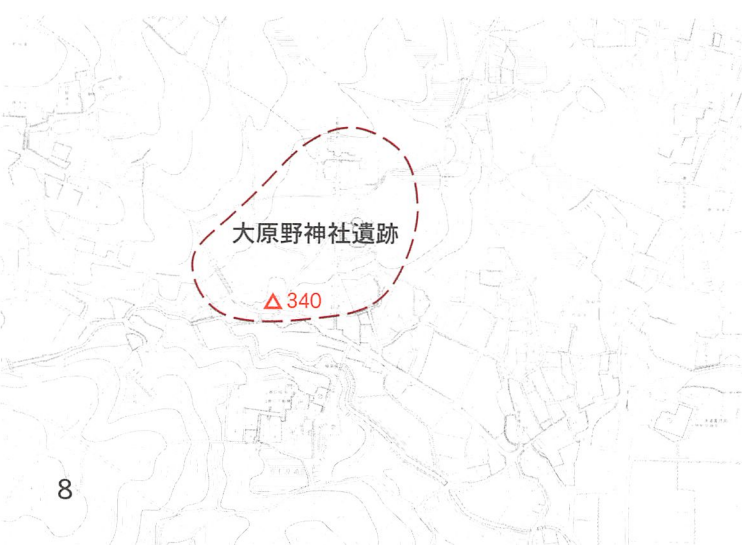

史跡・名勝嵐山
195
328
嵐山谷ヶ辻子町遺跡
3

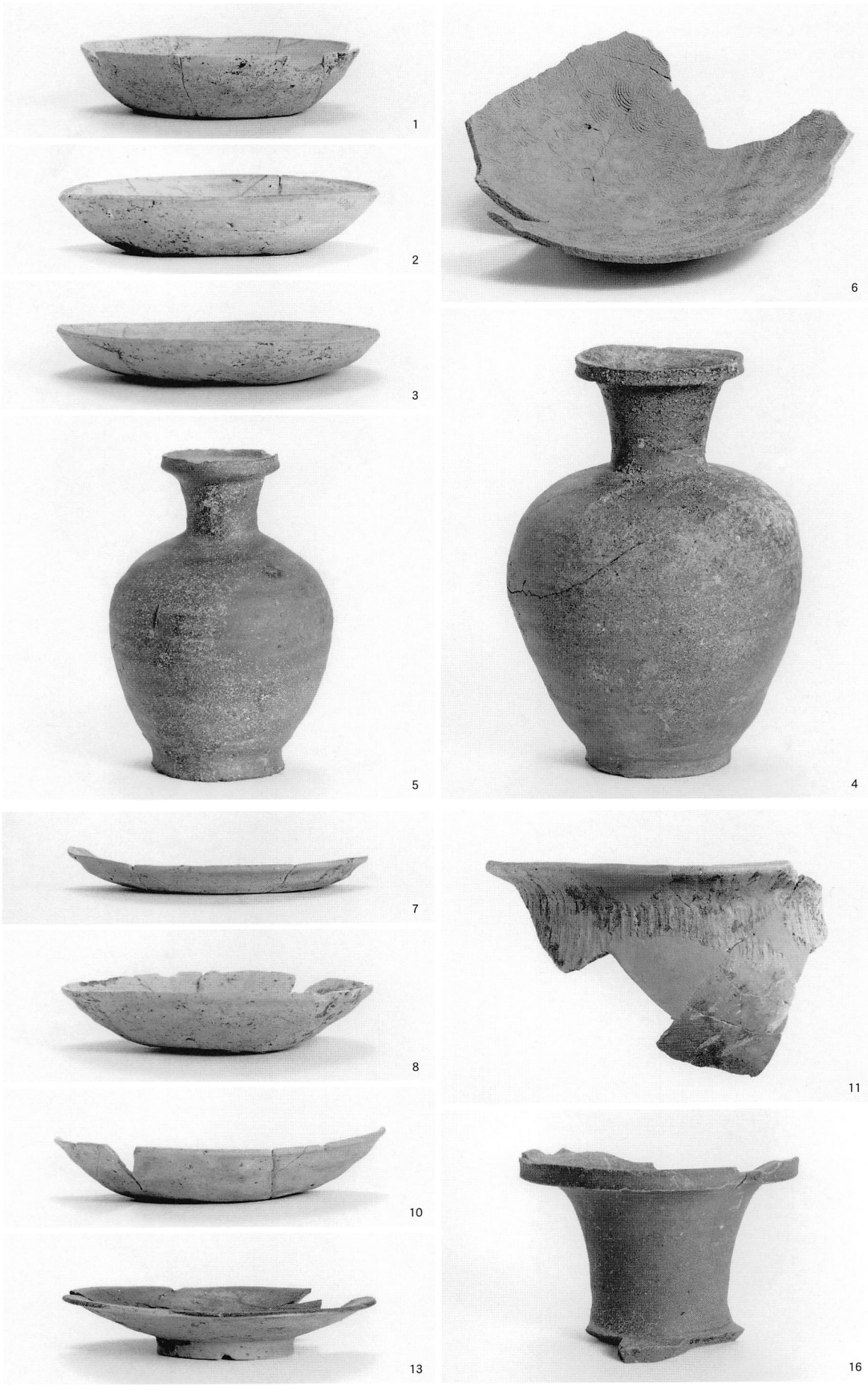

松尾十三塚古墳群
297
239
13
14
松室遺跡
4


252
革嶋館跡
92
5


上久世遺跡
276
240
53
6

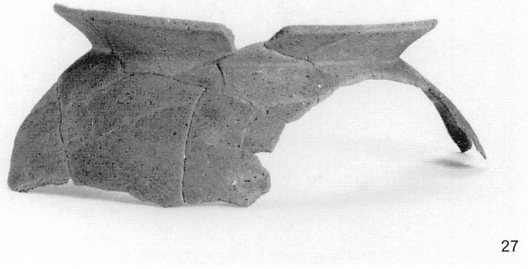

83
51
73
421
207
72
52
422
241
244
107
279
151
324
福西古墳群
7


大原野神社遺跡
340
8

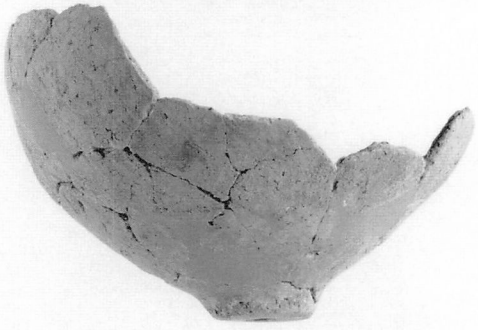


1～6　平安京左京八条三坊一町（08HL164）、7・8・10・11・13・16　平安京右京北辺二坊七町（08HR122）

遺物



27



24

33

25

36

43

47

24・25・27・33・36　上久世遺跡（08MK276）、43・47　平安京左京三条三坊八町（08HL173）

京都市内遺跡立会調査報告
平成20年度
発行日　2009年３月31日
発　行　京都市文化市民局
住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
編　集　(財) 京都市埋蔵文化財研究所
住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
〒602-8435　TEL 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/
印　刷　三星商事印刷株式会社